

原 文

事 務 局 （仮 訳）

構成員からの再意見（検討を要するもの）

備 考

<p>A. Practical rationale</p> <p>From a practical perspective, the need for a comprehensive classification of childhood disability that could be used across service systems has been recognized for some time, but not realized. Moreover, the implementation of children’s rights in the form of access to health care, education, and social and habilitation services required a classification system sensitive to the physical, social and psychological characteristics unique to children and youth. Thus, the ICF-CY was developed to capture the universe of functioning in children and youth. Further, the manifestations of functioning, disability and health conditions in childhood and adolescence are different in nature, intensity and impact from those of adults. These differences were taken into account and the ICF-CY was developed in a manner sensitive to changes associated with growth and development.</p>	<p>A. 実際の根拠</p> <p>実際的な見地からは、様々なサービスシステムの違いをこえて使用できるような、子どもの障害の総合的分類の必要性が以前から認識されてきたが、実現には至らなかった。また、保健、教育、社会福祉や療育（habilitation）のサービスを受ける子どもの権利を実現するために、児童に特有の身体、心理、社会的特徴に敏感な分類法が必要であった。このため、児童の生活機能の領域を把握するためにICF-CYが開発された。児童期における生活機能、障害、健康状態の現れ方は、成人とは性質、程度、影響が異なる。そのためこのような違いを考慮に入れて、ICF-CYは成長と発達に伴う変化に敏感なものとなるように開発された。</p>	<p>敏感な分類法という言葉に、日本語的には少し違和感を覚えます。前回提案したような、細かく対応できるといった意識がよいように考えております。</p>	
--	--	---	--

<p>B. Philosophical rationale</p> <p>From a philosophical perspective, it was essential that a classification defining the health and functioning of children and youth incorporate the fundamental human rights defined by the UN Convention on the Rights of Persons with Disabilities (UN, 2007). As a taxonomy derived from the ICF, the ICF-CY describes states of functioning and health in codes with greater granularity which serve as precursors of more mature functioning. The rationale for a public health framework was based on the promise of a population approach to preventing disability in childhood. All content in the ICF-CY is in conformity with international conventions and declarations on behalf of the rights of children. Hence, the documentation of categories and codes in the ICF-CY may serve as evidence in assuring the rights of children and youth.</p>	<p>B. 理論的根拠</p> <p>理論的観点から言えば、児童期の健康と生活機能を規定する分類には、「国連障害者の権利条約（仮訳）」（国連，2006年）に定められた基本的人権の思想を組み入れることが必須であった。ICF-CYは、ICFから派生した分類法として、成熟した生活機能にいたる前の生活機能と健康の様々な状態を、よりきめの細かいコードで記載するものである。公衆衛生的な枠組みの理論的根拠は、児童期の障害予防のためのポピュレーション・アプローチへの期待に基づいていた。ICF-CYの全ての内容は、児童の権利に関する条約や宣言類に準拠している。したがってICF-CYのカテゴリーとコードの記録は、児童の権利保障の証拠となりうるものである。</p>	<p>「理論的」という意味なら theoretical がつかわれるはず。説明文にも、理論についてはいっさいふれられず、条約や宣言などでの思想、方向、価値、べき論が紹介されています。直訳の「哲学」だと意味が変わるので、やはり「理念」が最適と思います。</p>	
---	--	---	--

<p>The child in the context of the family</p> <p>Development is a dynamic process by which the child moves progressively from dependency on others for all activities in infancy towards physical, social and psychological maturity and independence in adolescence. In this dynamic process, the child's functioning is dependent on continuous interactions with the family or other caregivers in a close, social environment. Therefore, the functioning of the child cannot be seen in isolation but rather in terms of the child in the context of the family system. This is an important consideration in making judgements about the child's functioning is greater in this developmental phase than at any later point in an individual's lifespan. Further, as these interactions frame the acquisition of various skills over the first two decades of life, the role of the physical and social environment is crucial.</p>	<p>家庭関係における子ども</p> <p>発達は、子どもが、あらゆる活動を他人に依存している乳児期から、身体的、心理的、社会的に成熟し自立する青年期まで、連続的に進む動的な過程である。この動的な過程では、子どもの生活機能は<u>家族その他の養育者との、身近な社会環境における</u>継続的な相互作用から大きな影響を受ける。したがって、子どもの生活機能は孤立したものとしてではなく、家族システムを背景とした子どもという観点から見なければならない。このことは、生活・人生場面における子どもの生活機能を判断する際に考慮すべき重要な点である。発達の途上にあるこの時期に家族との相互作用が子どもの生活機能に与える影響は、その後の人生のどの時期よりも大きい。さらに、このような相互作用が人生の最初の約 20 年間のさまざまな技能の獲得の枠組みをつくるので、物理的および社会的な環境の果たす役割は非常に重要である。</p>	<p>家族や身近な養育者、社会的環境との</p>	
--	--	--------------------------	--

国際生活機能分類—小児青少年版(仮称)追加項目(案)【検討事項一覧】

【心身機能】

コード	項目	事務局(仮訳)	構成委員からの再意見(検討を要するもの)	備考
b114	General mental functions of knowing and ascertaining one's relation to <u>object, to self, to others, to time and to one's surroundings and space.</u>	物, 自己, 他者, 時間, 周囲環境, 対象物や空間との関係を知り確かめる全般的精神機能。	物→もの?	
b1143	Orientation to objects Mental functions that produce awareness of objects or features of objects	物品に関する見当識 物品または物品の特徴を認識する精神機能	objectの訳については, ICF及びICF-CY全体で様々な訳が使われていますが, 前後の項目との並びから考えると, ここでは「物品」よりも「もの」や「事物」くらいが自然ではないでしょうか。	
b147	Inclusions: <u>manual and lateral dominance</u> functions of psychomotor control, such as <u>in psychomotor retardation delay</u> , excitement and agitation, posturing, <u>stereotypes, motor perseveration</u> , catatonia, negativism, ambitendency, echopraxia and echolalia; quality of psychomotor function.	含まれるもの: <u>利き手・利き足・利き目</u> 。精神運動統制の機能。例えば, 精神運動機能の遅れ, 興奮と激越, 不自然な姿勢, <u>常同性, 運動の保続</u> , カタニー(緊張病性障害), 拒絶症, 両価性, 反響動作, 反響言語。精神運動機能の質。	ICF本体「論理的思考の機能」 ICF-CYの英文にも見あたらないが, 削除した文でもない。 → 訳はどうするか?	
b3401	Inclusions: functions of <u>crying, cooing, gurgling and babbling</u> in <u>children</u>	含まれるもの: <u>泣く, のどを鳴らし喜ぶ, ゴクゴクのどを鳴らす及び喃語を発する</u> などの機能。	babbling: b310の除かれるものでは「喃語」と訳している。	

【活動と参加】

d110	Using the sense of seeing intentionally to experience visual stimuli, such as <u>visually tracking an object</u> , watching <u>persons, looking at a sporting event, person</u> , or children playing.	視覚刺激を経験するために, 意図的に視覚を用いること。例えば, <u>物品を追視すること, 人を注意して視たり, スポーツ行事や人, また子どもが遊んでいるのを</u> 視ること。	追加項目一覧のほうにもコメントしましたが, 「物品」という表現に違和感を覚えます。Objectの訳は, それぞれで異なっているので, ここでは「物」や「もの」くらいが自然ではないでしょうか。	
d131	Learning through actions with objects Learning through simple actions on a single object, two or more objects, symbolic and pretend play, such as in hitting an object, banging blocks and playing with dolls or cars	物品を使うことを通しての学習 一個もしくは, 二個以上の物品を用いた単純な行為や, 象徴遊びや見立て遊びを通して学ぶこと。例えば, 物品をたたく, 積み木をぶつけ合う, 人形や車のおもちゃで遊ぶ。	objectの訳については, ICF及びICF-CY全体で様々な訳が使われていますが, 文脈から考えると, ここでは「物品」よりも「もの」や「物」くらいが自然ではないでしょうか。物品とおもちゃという並びは自然ではないので, 「物や玩具」とするという手もあるかもしれません。	
d1310	Learning through simple actions with a single object Simple actions on a single object or toy by manipulating, banging, moving, dropping, etc	一個の物品を用いた単純な行為を通しての学習 1個の物品やおもちゃを操作する, ぶつける, 動かす, 落とすなどする単純な行為(によって学ぶこと)。	objectの訳については, ICF及びICF-CY全体で様々な訳が使われていますが, 文脈から考えると, ここでは「物品」よりも「もの」や「物」くらいが自然ではないでしょうか。物品とおもちゃという並びは自然ではないので, 「物や玩具」とするという手もあるかもしれません。	
d1311	Learning through actions by relating two or more objects Simple actions relating two or more objects, toys or other materials without regard for the specific features of the objects, toys or materials	二個以上の物品を関連づけた行為を通しての学習 二個以上の物品, おもちゃ, その他の素材を, それらの特徴にはこだわらずに, 関連づけて扱う単純な行為(によって学ぶこと)。	objectの訳については, ICF及びICF-CY全体で様々な訳が使われていますが, 文脈から考えると, ここでは「物品」よりも「もの」や「物」くらいが自然ではないでしょうか。物品とおもちゃという並びは自然ではないので, 「物, 玩具」とするという手もあるかもしれません。	

コード	項目	事務局(仮訳)	構成委員からの再意見(検討を要するもの)	備考
d1312	Learning through actions by relating two or more objects with regard to specific features Actions relating two or more objects , toys or materials with regard to specific features , e.g. lid on box , cup on saucer	特徴に注目して二個以上の物品を関連づけた行為を通しての学習 二個以上の物品、おもちゃ、素材の具体的な特徴に注目して、それらを関連づけて扱う行為(によって学ぶこと)。例えば、箱に蓋をすること、皿の上にカップを置くこと。	objectの訳については、ICF及びICF-CY全体で様々な訳が使われていますが、文脈から考えると、ここでは「物品」よりも「もの」や「物」くらいが自然ではないでしょうか。物品とおもちゃという並びは自然ではないので、「物、玩具」とするという手もあるかもしれません。	
d1313	Learning through symbolic play Actions relating objects , toys or materials symbolically , such as feeding or dressing for a toy animal or doll	象徴的遊びを通しての学習 物品、おもちゃ、素材を象徴的に関連づける行為(によって学ぶこと)。例えば、おもちゃの動物や人形に食べさせたり服を着せたりすること。	objectの訳については、ICF及びICF-CY全体で様々な訳が使われていますが、文脈から考えると、ここでは「物品」よりも「もの」や「物」くらいが自然ではないでしょうか。物品とおもちゃという並びは自然ではないので、「物、玩具」とするという手もあるかもしれません。	
d132	Acquiring information	情報の獲得	情報の獲得(acquiring=習得と訳すのであればここも統一すべきかと思います)	
d133	Developing the competence to represent persons , objects , events and feelings through words , symbols , phrases and sentences	単語、シンボル、語句・文章を通じて、人や物品、できごと、感情を表現する力を発達させること	物品→もの？物？	
d134	Developing the competence to represent persons , objects , events , feelings through words , symbols , phrases and sentences , such as in an additional language or signing	単語、シンボル、語句・文章を通じて、人やもの、できごと、感情を表現する力を発達させること。例えば、付加的言語や手話の習得。	もの？物？(d133 整合性)	
d2104	Completing a simple task with a single major component , such as building a tower , putting on a shoe , reading a book , writing a letter , or making one's bed	主要な要素で一つの単純な課題を完遂すること。例えば、積み木で塔を作ること、靴を履くこと、本を読むこと、手紙を書くこと、ベッドを整えること。	d2104-2205 「Completing」の訳:完遂?、達成? ICF本体のd2302は「達成」としている。(参考)	
d2401	Carrying out simple or complex and coordinated actions to cope with pressure, emergencies or stress associated with task performance, such as waiting for one's turn, reciting in class, systematically looking for lost items and keeping track of time.	課題遂行に関連したプレッシャー、非常事態、ストレスにうまく対処するために求められる、単純な行為または複雑で調整された行為を遂行すること。例えば、自分の番を待つこと、教室で皆の前で朗読すること、失くした物を系統的に探すこと、時間の経過を追うこと。	失くした物を系統的に → 失くした物を順を追って	
d3503	Initiating, maintaining, shaping and terminating a dialogue or an interchange or dialogue with one person, such as in pre-verbal or verbal play, vocal or verbal exchange between mother and child, or in discussing the weather with a friend.	1人の人と、意見交換や対話を開始し、持続し、形成し、終結すること。例えば、母と子の間での、言語以前の遊び、ことばによる遊びの、声または言葉での意思交換、または友人と天気について話すこと。	母子間での、前言語あるいは言語的遊び、発声または言語でのやりとり(このままでも間違いではありませんが、子どもの療育を行っている立場としては、pre-verbalは前言語と訳した方がしっくりきます)。 ことば→言葉	
d4402	Using fingers and hands to exert control over, direct or guide something, such as when handling coins or other small objects, cutting with scissors, tying a shoelace, filling in colouring books, or using chopsticks or knife and fork.	コインや小さな物品を扱うこと、はさみで切ること、靴紐を結ぶこと、塗り絵を塗ること、箸やナイフやフォークを使うなどのように、手指と手を使って物品をあやつること。	d4402-d4450 物体→もの？物？	
d4453	Using fingers, hands and arms to rotate, turn or bend an object, such as is required to use tools or brush one's teeth or wash utensils	手指や手や腕を使って、物を回したり、裏返したり、曲げたりすること。例えば、歯磨きしたり、はし・ナイフ・フォーク類を洗うこと。	もの？物？	
d8153	Terminating preschool educational program me Leaving preschool educational programme in an appropriate manner to enter the next level of school education	就学前教育の終了 次のレベルの学校教育に入るため、就学前教育を適切に終了すること。	修了?(学校教育の範囲、ある課程を全うした終わりの場合とするならば修了が一般的なように思います。	

コード	項目	事務局(仮訳)	構成委員からの再意見(検討を要するもの)	備考
d820	Gaining admission to school, <u>education</u> ; engaging in all school-related responsibilities and privileges <u>and</u> ; learning the course material, subjects and other curriculum requirements in a primary or secondary education programme, including attending school regularly; working cooperatively with other students, taking direction from teachers, organizing, studying and completing assigned tasks and projects, and advancing to other stages of education.	学校, <u>教育機関</u> へ入学し, 学校に関連した責任や権利に関与し, 初等・中等教育プログラムにおいて, 課程や教科, その他のカリキュラムで要求されることを学ぶこと。例えば, 学校に規則正しく通うこと, 他の生徒と協調して学ぶことや, 先生から指導を受けること, 割り当てられた課題や学習課題を調整したり, 勉強したり, 成し遂げること, 教育の別の段階へ進むこと。	追加の訳が見あたらない。(ICF本体のままの訳)	
d8201	Maintaining educational programme	学校教育の履修に必要なこと	「学校教育での履修に必要な諸活動の遂行」	
	Performing activities involved in maintaining participation in school and school activities , such as attending classes , interacting appropriately with peers and teachers , and fulfilling the duties and requirements of being a student	学校と学校活動への参加を継続するのに必要なことを行うこと。例えば, 授業に出席する, 仲間や教師と適切に交流する, 生徒としての義務や, 求められていることを実行すること	参加?履修?(d8251,d8301 整合性)	
d8251	Maintaining vocational training programme	職業訓練プログラムの履修に必要なこと	「職業訓練プログラムの履修に必要な諸活動の遂行」	
	Performing activities involved in maintaining participation in vocational training activities , such as attending classes , interacting appropriately with peers and teachers , and fulfilling the duties and requirements of being a student	職業訓練の活動への参加を継続するのに必要なことを行うこと。例えば, 授業に出席する, 仲間や教師と適切に交流する, 生徒としての義務や求められていることを実行すること	上記を採用すると, 「参加」ではなく「履修」となります。	
d8253	Terminating vocational training programme	職業訓練の終了		
	Leaving vocational training programme in an appropriate manner to enter the next level of school education , work , employment or other domains of adult life	次のレベルの学校教育, 労働(雇用以外), 雇用, その他の成人生活の領域に入るため, 職業訓練を適切にすること。	修了?(学校教育の範囲, ある課程を全うした終わりの場合とするならば修了が一般的なように思います。	
d8301	Maintaining higher education programme	高等教育の履修に必要なこと	こと→諸活動の遂行(d8201,d8251 整合性)	
	Performing activities involved in maintaining participation in higher education activities , such as attending classes , interacting appropriately with peers and teachers , and fulfilling the duties and requirements of being a student	高等教育への参加を継続するのに必要なことを行うこと。例えば, 授業に出席する, 教師や仲間と適切に交流する, 学生として必要な義務や求められていることを実行すること	参加?履修?(d8201,d8251 整合性) 教師や仲間→仲間や教師(d8201,d8251 整合性)	
d8303	Terminating higher education programme	高等教育の終了		
	Leaving higher education in an appropriate manner to enter the next level of school education , work , employment or other domains of adult life	次のレベルの学校教育, 仕事, 就職その他の成人生活の領域に入るため, 高等教育を適切に終了すること。	修了?(学校教育の範囲, ある課程を全うした終わりの場合とするならば修了が一般的なように思います。	
d880	Engagement in play	遊びへの取組	遊びにたずさわること	
d8801	Onlooker play	傍観的遊び		
	Occupying oneself by purposeful observation of the activities of others with objects , toys , materials or games , but not joining in their activities	他の人が物品, おもちゃ, 材料, ゲームを使って行う遊びに自分は加わらないが, それを目的を持って観察すること。	objectの訳については, ICF及びICF-CY全体で様々な訳が使われていますが, 文脈から考えると, ここでは「物品」よりも「もの」や「物」くらいが自然ではないでしょうか。物品とおもちゃという並びは自然ではないので, 「物, 玩具」とするという手もあるかもしれません。	
d8802	Parallel play	平行遊び		
	Engaging in purposeful , sustained activities with objects , toys , materials or games in the presence of other persons also engaged in play , but not joining in their activities	他の人も遊んでいるそばで, それには加わらずに, 物品, おもちゃ, 材料, ゲームを使った活動に目的を持って持続的にたずさわること	objectの訳については, ICF及びICF-CY全体で様々な訳が使われていますが, 文脈から考えると, ここでは「物品」よりも「もの」や「物」くらいが自然ではないでしょうか。物品とおもちゃという並びは自然ではないので, 「物, 玩具」とするという手もあるかもしれません。	
d8803	Shared cooperative play	共同遊び		
	Joining others in sustained engagement in activities with objects , toys , materials or games with a shared goal or purpose	物品, おもちゃ, 材料, ゲームを使った活動に, 他の人と一緒に, 共通の目標または目的を持って, 持続的にたずさわること	objectの訳については, ICF及びICF-CY全体で様々な訳が使われていますが, 文脈から考えると, ここでは「物品」よりも「もの」や「物」くらいが自然ではないでしょうか。物品とおもちゃという並びは自然ではないので, 「物, 玩具」とするという手もあるかもしれません。	

コード	項目	事務局(仮訳)	構成委員からの再意見(検討を要するもの)	備考
【環境因子】				
e115	Exclusions: products and technology for personal indoor and outdoor mobility and transportation (e120); products and technology for communication (e125)	除かれるもの: 個人的な屋内外の移動と交通のための生産品と用具(e120)、コミュニケーション用の生産品と用具(e125)	このままでもよいのですが、序論のenvironmentの項では、products→製品、technology→機器と訳しています。統一してもよいかと思います。ただし、「追加項目」のe1152では、technology→用具と訳しています。これも統一してもよいかもしれません。	
e1152	Products and technology used for play Equipment , products and technologies used in structured or unstructured play by an individual or group , not adapted or specially designed , except as appropriate for age	遊び用の製品と用具 一人あるいはグループによるルールのあるまたはない遊びに用いる装置、製品、用具のうち、年齢に適したものにしないものは改造や特別設計はなされていないもの。	製品→生産品 製品→生産品	
e11520	General products and technology for play Objects , material , toys and other products used in play such as blocks , balls , miniature objects , games , puzzles , swings and slides	一般的な遊び用の製品と用具 遊びに用いる物品、素材、おもちゃ、その他の製品。例えば、積み木、ボール、ミニチュア、ゲーム、パズル、ブランコ、すべり台	製品→生産品 物品→もの?物? 製品→生産品	
e11521	Adapted products and technology for play Objects , material , toys and other products adapted or specially designed to assist play , such as remote control cars and modified playground equipment	遊びやすさを支援するために改造された、製品と用具 遊びを支援するために改造や特別設計がなされた物品、素材、おもちゃ、その他の製品。例えば、リモートコントロールのミニチュア自動車、改造した公園の遊具	製品→生産品 物品→もの?物? 製品→生産品	
e1503	Design, construction and building products and technology for physical safety of persons in buildings for public use	公共の建物内での人の身体的安全のための設計・建設用の製品と用具	製品→生産品	
e1553	Design, construction and building products and technology for physical safety of persons in buildings for private use Indoor and outdoor products and technology for private use to assure safety , such as guardrails , emergency signals and secure storage of hazardous objects (e.g. weapons) or materials (e.g. solvents , insecticides)	私用の建物内での人の身体的安全のための設計・建設用の製品と用具 私的な利用のための建物内外の製品と用具であって、安全を確保するための物品。例えば、安全柵、緊急用標識、危険なもの(武器など)や物質(溶剤、殺虫剤など)の安全な貯蔵など	製品→生産品 製品→生産品	
e165	Products or objects of economic exchange such as money, goods, property and other valuables that an individual owns or of which he or she has rights of use <u>or rights of benefit, such as child support payment or wills for children or dependent persons.</u>	経済的な交換価値のある製品や事物。例えば、金銭、商品、資産、その他の貴重品で、個人が所有するか、使用权をもつか、小児や被扶養者のための扶養料や遺言によるものなどのように受益権をもつもの。	製品→生産品	

コード	項目	事務局(仮訳)	構成委員からの再意見(検討を要するもの)	備考
e5853	Special education and training services	特別な教育と訓練についてのサービス		
	Services and programmes concerned with special education and the acquisition , maintenance and improvement of knowledge , expertise and vocational or artistic skills , such as those provided for different levels of education (e.g. preschool , primary school , secondary school , post-secondary institutions , professional programmes , training and skills programmes , apprenticeships and continuing education) , including those who provide these services	特別な教育と、知識や学識、あるいは職業的または芸術的な技能の修得、維持、向上に関わるサービスやプログラム。例えば各種の教育レベル(例:就学前機関、小学校、中学校・高等学校、大学・短期大学、専門職教育プログラム、訓練や技能プログラム、徒弟(見習)教育、生涯学習)で提供されるサービスやプログラム。これらのサービスの提供者を含む。		
e5854	Special education and training systems	特別な教育と訓練についての制度		
	Administrative control and monitoring mechanisms that govern the delivery of special education programmes , such as systems for the implementation of policies and standards that determine eligibility for public or private education and special needs-based programmes ; local , regional or national boards of education or other authoritative bodies that govern features of the education systems , including curricula , size of classes , numbers of schools in a region , fees and subsidies , special meal programmes and after-school care services	特別な教育プログラムを提供するための行政的な管理と監視の機構。例えば、公的あるいは私的な教育への、また、特別なニーズに基づいたプログラムへの入学資格を認定するための政策や基準を運用する制度。また、カリキュラム、クラスの規模、地域における学校数、授業料や補助金、特別給食プログラム、放課後のケアサービスを含む教育制度のさまざまな課題を統括するために設置された、地区、地域、国における教育委員会や権限を持つその他の団体		
e5855	Special education and training policies	特別な教育と訓練についての政策		
	Legislation , regulations and standards that govern the delivery of special education programmes , such as policies and standards that determine eligibility for public or private education and special needs-based programmes , and dictate the structure of local , regional or national boards of education or other authoritative bodies that govern features of the education system , including curricula , size of classes , numbers of schools in a region , fees and subsidies , special meal programmes and after-school care services	特別な教育プログラムを提供するための立法や規則、基準。例えば、公立や私立の教育、特別なニーズに基づいた特別支援教育サービスを受けるか否かを決定するための政策や基準や、地区、地域、国における教育委員会やカリキュラムや1クラスあたりの人数、地域における学校数、授業料や補助金、特別な給食のプログラム、放課後支援のサービスを含む教育制度について権限を持ってその他の組織についての指針。		

(1) special education = 特別な教育(文部科学省担当部局(特別支援教育課)との調整済み)
(2) 5853~5855の定義は、5850~5852に対しているため、special education固有の意識をすところ以外は、基本的に表現をそろえるべきかと思えます(5850~5820側の訳し直しも含めて検討すべきでしょうか)。

項 目	事務局(仮訳)	備 考 欄
b2703 Sensitivity to a noxious stimulus Inclusions: impairments such as hypalgesia, hyperpathia, allodynia, analgesia and as-in anaesthesia dolorosa	b 2703 侵害刺激に対する感受性 含まれるもの：機能障害の例としては、痛覚低下、痛覚過敏、異痛症、痛覚脱失、有痛性感覚脱失。	
b4102 Contraction force of ventricular muscles Inclusions: impairments such as in- diminished cardiac output	b 4102 心室筋の収縮力 含まれるもの：機能障害の例としては、心拍出量低下。	
b4103 Blood supply to the heart Inclusion: impairments such as in- coronary ischaemia	b 4103 心臓への血液供給 含まれるもの：機能障害の例としては、心筋虚血。	
b4150 Functions of arteries Inclusions: impairments such as in- arterial dilation; arterial constriction such as in intermittent claudication	b 4150 動脈の機能 含まれるもの：機能障害の例としては、動脈拡張、間歇性跛行などの動脈狭窄。	
b4152 Functions of veins Inclusions: impairments such as in- venous dilation; venous constriction; insufficient closing of valves as in varicose veins	b 4152 静脈の機能 含まれるもの：機能障害の例としては、静脈弁閉鎖不全（静脈拡張、静脈狭窄、静脈瘤時）。	
b430 Haematological system functions Inclusions: functions of the production of blood and bone marrow; oxygen-carrying functions of blood; blood-related functions of spleen; metabolite-carrying functions of blood; clotting; impairments such as in- anaemia, haemophilia and other clotting dysfunctions	b 430 血液系の機能 含まれるもの：血液の産生と骨髄の機能。血液の酸素運搬機能。血液に関する脾臓の機能。血液の代謝物質運搬機能。凝固機能。機能障害の例としては、貧血、血友病とその他の凝固異常。	
b4450 Functions of the thoracic respiratory muscles Functions of the thoracic muscles as- involved in breathing.	b 4450 胸郭呼吸筋の機能 呼吸に関与する胸郭筋の機能。	
d166 Reading <u>Inclusion: Comprehension and interpretation of written language in standard form of letters or characters as well as text created with unique symbols, such as icons</u>	d 166 読むこと 含まれるもの：標準の文字で書かれた言語、および図像（アイコン）などの独自のシンボルで作成された文章の理解および解釈。	
d440 Fine hand use Inclusions: picking up, grasping, manipulating and releasing Exclusion: lifting and carrying objects (d430)	d 440 細かな手の使用 含まれるもの：つまみあげること、握ること、操作すること、放すこと。 除かれるもの：持ち上げることと運ぶこと(d430)	
d4601 Moving around within buildings other than home Walking and moving around within buildings other than one's residence, such as moving around other people's homes, other private buildings, community and private or public buildings and enclosed areas.	d 4601 自宅以外の屋内移動 自宅以外の屋内の歩行や移動。例えば、他人の住宅やその他の私的建物、コミュニティ用の 私的あるいは 公共建物、囲こまれた区域内での移動。	
d4701 Using private motorized transportation Being transported as a passenger by private motorized vehicle over land, sea or air, such as by a car, taxi or privately-owned aircraft or boat.	d 4701 動力付きの私的交通手段の利用 乗客として私的な動力付きの交通手段を利用して地上、海上、空中を移動すること。例えば、 乗用車 、タクシー、自家用の飛行機・船に乗客として乗ること。	
d5700 Ensuring one's physical comfort Caring for oneself by being aware that one needs to ensure, and ensuring, that one's body is in a comfortable position, that one is not feeling too hot, cold or exposed wet, and that one has adequate lighting.	d 5700 身体的快適性の確保 快適な姿勢をとったり、暑すぎず、 寒すぎず 、ぬれていないようにしたり、適当な照明下にあることの必要性を意識し、それを確保することで、自分自身のケアをすること。	
d7100 Respect and warmth in relationships Showing and responding to concerns, sympathy , consideration and esteem in a contextually and socially appropriate manner.	d 7100 対人関係における敬意と思いやり 状況に見合った社会的に適切な方法で、 関心 、 共感 、いたわりおよび敬意を示したり、それに対応したりすること。	

国際生活機能分類の変更すべき用語について

【法令の改正等に基づく名称の変更】

旧		新	該当箇所
精神分裂症	→	統合失調症	なし
痴呆	→	認知症	b117 知的機能

【医学の進歩等に対応した名称の変更】

旧		新	該当箇所
慢性関節リウマチ	→	関節リウマチ	なし
妊娠中毒症	→	妊娠高血圧症候群	なし

【ISOとの整合性】

旧		新	該当箇所
生産品	→	製品	多数あり

ビギナーズガイド（仮訳）（案）について

ビギナーズガイド :

生活機能, 障害, 健康に関する共通言語にむけて :
ICF 国際生活機能分類

WHO: Towards a common language for functioning, disability and health. Geneva, 2002.
(<http://www.who.int/classifications/icf/site/beginners/bg.pdf>)

1. 序 論
2. ICF と WHO 国際分類ファミリー
3. ICF に対するニード
4. WHO は ICF をどのように使うか
5. ICF はどのように利用できるか
6. ICF のモデル
 - 6.1. 生活機能と障害の概念
 - 6.2. 評価点
 - 6.3. ICF の基礎をなす原理
7. ICF の領域
8. 結 論
9. 世界的な ICF ネットワーク

1. 序 論

国際生活機能分類(International Classification of Functioning, Disability and Health)は、ICFとしてより一般に知られ、健康状況(health states)と健康関連状況(health-related states)を記述するための標準的な言語と枠組みを提供している。ICFは、1980年、世界保健機関(WHO)が試案として発行した初版と同様に、さまざまな領域での広範囲な利用を目指し、多くの目的に用いられる分類である。それは健康領域(health domains)と健康関連領域を分類するものである。これらの領域は、心身機能や身体構造、ある健康状態にある人が標準的な環境において遂行できること(能力(capacity)レベル)、また、彼らが現在の環境で実際に行っていること(実行状況(performance)レベル)などの変化を記述するための助けとなる。これらの領域は、身体、個人、社会という3つの視点にたって、2つのリストによって分類される：心身機能と身体構造のリストと、活動と参加の領域のリストである。ICFにおいて、生活機能(functioning)は心身機能、活動、参加の全てを表す用語である。一方、障害(disability)は機能障害、活動制限、参加制約の全てを含む包括的な用語である。ICFはさらに環境因子のリストを含んでおり、これらすべての構成要素(components)と相互作用するものである。



ICFはWHOの健康と障害に関する枠組みである。それは健康と障害に関する定義、測定、政策立案のための概念的基盤である。それは健康領域および健康関連領域で利用するための障害と健康に関する普遍的な分類である。従って、ICFはシンプルな健康の分類のようにみえるが、多くの目的に利用することができる。その最も重要なものは、意思決定者の計画と政策のツール(手段)である。

ICFは、障害というよりむしろ、健康と生活機能を強調するがゆえに、そのように命名された。従来、障害とは健康が終わったところで始まり、一旦、そのひとが障害をもつと、そのひとは別のカテゴリに入るという考え方であった。我々はこの種の考え方から離れた。我々は、どんな理由で機能障害が生じたかにかかわらず、ICFを社会における生活機能を測定するツールにしたい。そこで、それは、健康と障害に関する従来の分類よりも、さらに広い領域で極めて多くの目的に使われるツールとなる。

これは根本的なシフトである。我々は今、人々の障害を強調することから、健康のレベルに焦点を当てる。

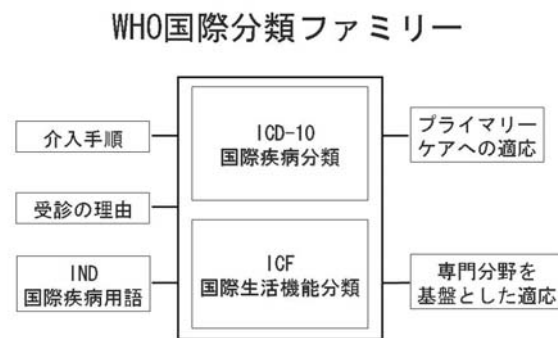
ICFは、「健康」と「障害」の考え方に新しい光を当てる。全ての人間が健康の衰退を経験し、何らかの障害を経験することは良く知られている。これは少数の人にのみ起きていることではない。従って、ICFは、障害の経験を本流化し、それを全ての人に共通な経験として認識する。原因から影響へ焦点を

シフトすることによって、それは、全ての健康状態を同じ立場におく；その立場は健康状態を共通の尺度（健康と障害の物差し）で比較することを可能とする。

2. WHO 国際分類ファミリー

ICF は WHO 国際分類ファミリー(WHO family of international classifications)に属する。その最も知られたメンバーは ICD-10 (the International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems) (国際疾病分類 第 10 版)である。ICD-10 は、診断によって、疾病や変調および他の健康状態の分類に関する病因論的な枠組みを提供する。一方、ICF は、健康状態と関連した生活機能と障害を分類する。従って、ICD-10 と ICF は互いに補い合う。人々や集団の健康に関するより広範囲かつ有意義な像をつくり出すために、利用者がそれらを一緒に使うことを推奨したい。死亡率に関する情報 (ICD-10 による) と、健康や健康に関連した帰結に関する情報 (ICF による) とを統合することによって、集団の健康に関する総括的な指標をつくることができる。

要するに、ICD-10 は主として死亡原因を分類するために使われ、ICF は健康を分類する。



(邦訳は、http://plaza.umin.ac.jp/~haruna/icf/icf_icd.htmlより引用、改変)

3. ICF に対するニード

診断のみでは、サービスの必要性、入院期間、介護のレベル、機能面の結果を予測できないことが、これまでの研究によって示されている。疾患や変調のいずれの存在も、障害手当の受給、労働状況、労働復帰の能力、社会的統合への可能性に関する正確な予測値にならない。このことは、もし我々が医学的な診断分類のみを使うとすれば、保健の計画や管理の目的に必要な情報を得られないことを意味している。我々に欠如しているものは、生活機能と障害レベルに関するデータである。ICF は、首尾一貫して国際比較が可能な方法で、これらのバイタル（生命・生活）データを収集することを可能にする。

基本的な公衆衛生の目的（集団の全般的な健康の確定、非致命的な健康帰結の有病率や罹患率など）のために、また、保健ニーズや保健システムの成果や有効性を測定するために、我々は、人々や集団の健康に関する信頼性のある比較可能なデータが必要である。ICF はこの目的のための枠組みと分類システムを提供する。

しばらくの間、病院をベースとした急性期の医療から、慢性状態に対する地域ベースの長期間のサービスに焦点が移行してきた。社会福祉機関は、障害給付の要求の著しい増加に気づいてきた。この傾向は、障害について信頼性かつ妥当性のある統計の必要性を強調するものであった。ICFは、障害の種別とレベルを明らかにするための基礎を提供する。それは政策開発に必要な障害についての国家レベルの基礎データを提供する。

社会計画者やサービス機関の間で以下の認識も高まっている：ある集団での障害の発生率や重篤さは、個人の生活機能の能力(*capacity*)を向上したり、社会的および物理的環境の特性を変化させて実行状況(*performance*)を増進することによって低減できる。これらさまざまな介入の影響を解析するためには、我々は、実行状況を増進するような生活・人生の領域(*domains*)や環境因子(*environmental factors*)を分類する方法を必要とする。ICFはこの情報を記録することを可能にする。

4. WHOはICFをどのように使うか

WHOは、保健政策を改善したり、人々の健康増進を達成したり、保健システムの費用-効果や正当性を可能な限り高めることを確保するために、加盟国が利用できるツール(手段)を提供しなければならない。我々は、最高の科学に基づいて、また、組織(*organization*)がその事業(つまり、機会均等、インクルージョンおよび、個々の人が彼らの機会を最大限に利用できる生活・人生を達成するための全ての目的)の基盤をおくような基本的で核となる真価をもった手段を提供する。

昨年、WHOの191加盟国が、健康と障害に関するデータの世界的な科学的標準化に関する基礎として、ICFを採用することに同意した。ICFは、総合的な集団の健康に関する測定の枠組みを確立するために、WHOの努力に直接寄与する。我々は、健康に関する生活機能の領域の測定を取り入れることによって、古い従来の死亡率や罹患率の尺度を超えていきたい。

WHOは、保健システムの成果を評価するための基礎として、多次元の健康尺度を使用する。保健システムの健康面のゴールは、ICFに基づいて測定される。この過程において、WHOは、保健システムの成果を促進することにおいて、加盟国を支援することができる。より良い生活機能保健システムによって、人々の健康レベルは高められ、全ての人々が利益を得る。

ICFはそのようなツールの鍵となる例である。ICFは、健康と障害の経験に関する首尾一貫した国際比較が可能な情報に関する科学的なツールである。また、ICFは健康に対するWHO全体のアプローチの基礎を提供する。

5. ICFはどのように利用できるか

ICFの柔軟な枠組みや、分類の詳細さと完全さ、また、それぞれの領域(*domains*)が含まれるもの(*inclusions*)と除かれるもの(*exclusions*)を用いて、具体的に定義されている事実ゆえに、その前任者(ICIDH)のように、ICFは、臨床、研究、政策展開の課題などの広範囲な質問に答えるために、多くの利用者に使われることが期待される。(サービス提供の領域でのICFの利用や多くの実際の課題について、下記の具体例を参照のこと)

サービス提供における ICF の適用

個人レベルで

- ・ 個人の評価：
個人レベルの生活機能とは何か？
- ・ 個人の治療計画：
どのような治療や介入が生活機能を最大にできるか？
- ・ 治療やその他の介入の評価：
治療の成果は何か？介入はいかに有用であったか？
- ・ 医師，看護師，理学療法士，作業療法士，その他のヘルスワーク，ソーシャルサービスワーク，地域機関
の間のコミュニケーション：
- ・ 利用者による自己評価：
私は自分の運動・移動やコミュニケーションの能力をいかに評価するか？

病院・施設レベルで

- ・ 教育と訓練の目的：
- ・ 資源の計画と開発：
どのような保健やその他のサービスが必要とされるか？
- ・ 質の向上：
我々はクライアントにどの程度十分にサービスしているか？質の保証に対してどのような基本的な指
標が妥当で信頼できるか？
- ・ 管理と結果（成果）の評価：
我々が提供するサービスはどのように有用であろうか？
- ・ 保健提供の管理されたケアモデル：
我々が提供するサービスはいかに費用-効果があるであろうか？ 少ない費用でより良い成果を得る
には、いかにサービスを改善すればよいか？

社会レベルで

- ・ 社会保障手当，障害年金，労働者の補償と保険などの国の福祉施策に対する受給基準：
障害給付に対する受給基準は、根拠に基づいており、社会的ゴールに適切であり、正当であるか？
- ・ 立法審査，モデル法律，規則と指針，反差別法に関する定義などの社会政策の開発：
これらの法令で保障する権利は社会レベルの生活機能を改善するであろうか？ 我々はこの改善を測
定でき、我々の政策と法律を調整できるであろうか？
- ・ ニーズの評価：
さまざまなレベルの障害（機能障害，活動制限，参加制約）をもつ人々のニーズは何か？
- ・ ユニバーサルデザインに関する環境評価，義務付けられたアクセシビリティの履行，環境の促進因子と
障害因子の確定，社会政策の変化：
我々は、障害の有無に関わりなく全ての人に対して、いかにして社会的環境や物的環境をよりアクセ
シブルにできるか？我々は改善を評価したり、測定したりできるか？

ICF に関する他の利用には以下のものがある：

5.1. 政策開発

社会保障，雇用，教育，交通などの人々の生活機能の実態に配慮する必要がある健康領域や他の領域において、ICF が果たしうる重要な役割がある。これらの領域における政策の開発には、生活機能の実態に関する妥当で信頼できる集団のデータを必要とすることはいうまでもない。障害の法的な定義は、一貫性があり、また、障害の発生過程に関する唯一の首尾一貫したモデルに基づいていることが必要とされる。それが障害年金に関する受給基準を立案したり、福祉用具の利用に関する規則を開発した

り、移動、感覚、知的障害をもつ人に対応する住宅や交通政策を義務づけることであっても、ICF は障害と関連する総合的で一貫した社会政策の枠組みを提供しうる。

5.2. 経済分析

ICF の多くの適用には経済分析がある。さまざまな資源が保健や他の社会サービスで有効に使われているかどうか明らかにするには、健康と健康関連の帰結に関して、コストの見積りができ、国際的にも比較できる、首尾一貫した標準的な分類を必要とする。我々は、さまざまな病気や健康状態の障害の負担に関する情報を必要とする。社会が活動の制限と参加の制約を効果的に防ぎうることを保証するために、物的な環境や社会的環境を整備するコストと比べて、生活機能の制限の経済的影響のコストを見積る必要がある。ICF はこれらの課題双方を可能にする。

5.3. 研究利用

一般に、ICF は、障害に関する学際的な研究の枠組みや構造を提供することによって、また研究結果を比較するための枠組みや構造を提供することによって、科学的な研究を支援する。従来、科学者は、死亡率のデータを手がかりとして、健康状態の帰結を測定してきた。ごく最近、保健 (health care) の成果に関する国際的な関心は、日々の生活における全人間レベルでの生活機能の評価へシフトしてきた。ここでのニードは、社会生活の基本的な領域と役割において、汎用的に適用できる分類や評価手段であり、活動レベルならびに参加の全般的なレベルに関するものである。これは ICF が提供しているものであり、それを可能にするものである。

5.4. 介入の研究

類似した集団に対する介入 (intervention) の結果を比較する研究は特に興味深い。ICF はこの種の研究を促すことができる。そこでは、対象とする障害の側面で介入を区別したり、結果のコード化を行う。身体レベルあるいは機能障害の介入は、主として医療的でありリハビリテーション的である。また、その介入は、内在する心身機能や身体構造を矯正あるいは改変することによって、個人あるいは社会レベルの生活機能の制限を防ぎ、改善するために行う。他のリハビリテーション治療戦略や介入は、能力レベルを増進するために計画される。個人の実行状況に焦点をおいた介入は、能力の改善に力を注いだり、あるいは、環境の改修を求めたりするものである。この環境の改修では、日常生活における課題や行為の実行状況を拡大するために、環境的な阻害因子を除去するか、促進因子を作り出すかする。

5.5. 環境因子の利用

ICF の大きな革新の一つは環境因子分類を取り入れたことである。それは日常生活での課題と行為の能力や実行状況に関する環境的な阻害因子 (barriers) と促進因子 (facilitators) を明らかにする。この分類表は、個人ベースで、あるいは、集団の広範囲なデータ収集のために利用できる。この分類表によって、さまざまな種類や程度の障害に対する促進あるいは阻害の発生レベルによって、環境を評価するツールを作り出すことができる。この情報を手にすることによって、生活活動域にわたる障害者の生活機能レベルを拡大するような、ユニバーサルデザインや他の環境規制に関するガイドラインを策定したり、実施することがより実際的になるであろう。

6. ICF のモデル

障害に関する2つの主要な概念モデル(**conceptual model**)が提案されてきた。医学モデル(**medical model**)は、障害(**disability**)を病気や傷害、その他の健康状態から直接引き起こされた人の特性とみる。それは専門家による個別的な治療という形での医療を必要とする。このモデルでは障害は、個人のもつ問題を改善するために、医療あるいはその他の治療や介入を必要とする。

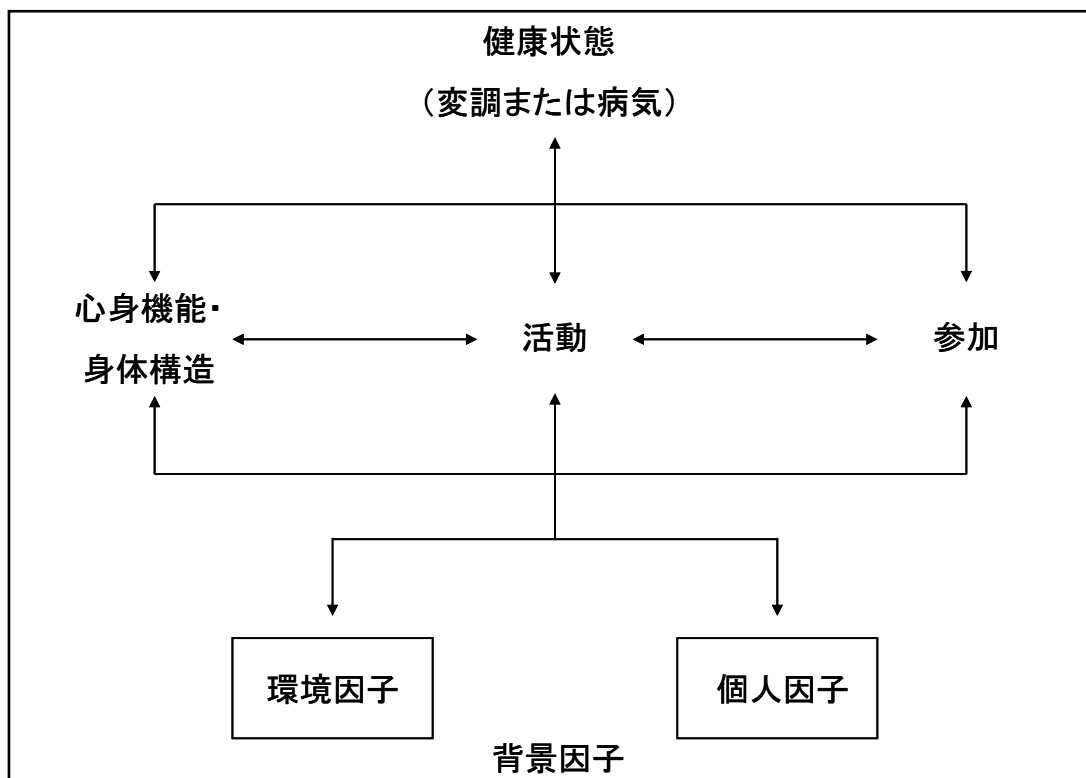
一方、社会モデル(**social model**)は、障害を社会によって作られ、個人の属性では全くないものとみる。社会モデルでは、その問題が社会環境の態度や他の特性によってもたらされた不適切な物理環境によって生みだされたので、障害は政治的な対応が求められる。

両者とも部分的には妥当であるが、いずれのモデルも単独では十分ではない。障害は複雑な現象である。それは人の身体レベルの問題でもあり、複雑でかつ主要な社会現象でもある。障害は、常に、個人の特性と個人が生活している全体的な背景の特性との間の相互作用である。しかし、障害の幾つかの側面はほとんどその人の内的なものであり、一方、他の側面はほとんど外的なものである。言い換えると、医学的および社会的な対応はともに、障害と関連した問題に対して適切である；我々はいずれか一方の種類の介入を完全には否定できない。

要約すると、より良い障害のモデルとは、全般的で複雑な障害の概念をその側面の一つに集約するという間違いをおかすことなく、医学、社会モデルの中にある真理を統合したものである。

障害のより有用なモデルは、生物・心理・社会モデル(**bio-psycho-social model**)と呼ばれるかもしれない。ICFはこのモデル、つまり、医学モデルおよび社会モデルの統合に基づいている。この統合によって、ICFは健康に関する異なる観点(生物、個人、社会)の一致した見方を提供する。

下記の図はICFの基本である障害のモデルの一つの表現である。



6.1. 生活機能と障害の概念

図が示すように、ICFにおける障害と生活機能は、**健康状態(health conditions)**（疾病，変調，傷害）と**背景因子(contextual factors)**との相互作用の帰結とみられる。

背景因子の中には、外的な**環境因子(environmental factors)**（例えば，社会の態度，建築物の特徴，法のおよび社会的構造，気候，地形，など）と内的な**個人因子(personal factors)**（性別，年齢，困難への対処方法，社会的背景，教育，職業，過去および現在の経験，全般的な行動様式，性格，その人が障害を経験する仕方に影響を及ぼすその他の因子）がある。

この図は ICF によって分類された人の生活機能の 3つのレベルを示している：身体あるいは身体の一部，個人全体，社会的場面での個人全体のレベルにおける生活機能である。従って，障害はこれらの一つあるいは複数のレベルで生活機能の不全を含む：機能障害，活動制限，参加制約。ICF のこれら構成要素(components)の正式な定義は以下に示される。

心身機能(body functions)とは，身体系の生理的機能（心理的機能を含む）である。

身体構造(body structures)とは，器官，肢体とその構成部分などの，身体の解剖学的部分である。

機能障害（構造障害を含む）(impairments)とは，著しい変異や喪失などの，心身機能または身体構造上の問題である。

活動(activity)とは，個人による課題や行為の遂行である。

参加(participation)とは，生活・人生場面(life situation)への関わりのことである。

活動制限(activity limitations)とは，個人が活動を行う際の困難さのことである。

参加制約(participation restrictions)とは，個人が生活・人生場面に関わる際に経験する問題である。

環境因子(environmental factors)とは，人々が生活し，人生を過ごしている物理的環境，社会的環境，人々の社会的な態度による環境によって構成される。

6.2. 評価点

ICFにおける領域(domains)リストは，評価点(qualifiers)を使う際に，一つの分類となる。評価点は身体，個人，社会レベルでの生活機能の問題の存在と程度を記録する。

心身機能と身体構造の分類に関して，第一評価点は，機能障害の存在と，心身機能や身体構造の機能障害の程度（問題なし，軽度の問題，中等度の問題，重度の問題，完全な問題）を 5 点のスケールで示す。

活動と参加の領域リストの場合，2つの重要な評価点が提供されている。これらの評価点は，利用者が障害と健康に関する主要な情報をコード化することを可能にする。

実行状況の評価点(performance qualifier)は，個人が現在の環境で行っているものを示す。現在の環

境は、常に、全般的な社会的状況を含んでいるので、実行状況は、彼らの実際生活の背景における「生活・人生場面への関わり」あるいは「生活経験」としても理解されうる。(現在の環境は、個人が行為(actions)や課題(tasks)の遂行のために実際に使用している場合は、福祉用具や人的支援を含むと理解される)

能力の評価点(capacity qualifier)は、課題や行為を遂行する個人の能力を表す。この構成概念(construct)は、個人がある時点である領域において遂行できるであろう最高の生活機能レベルを示す。

個人が健康状態(health condition)と関連して能力に問題をもつ場合、その能力の制限(incapacity)は健康状況(state of health)の一部である。個人の完全な能力を評価するためには、異なる環境が個人の能力に及ぼすさまざまな影響を中立化するような「標準化された環境(standardized environment)」が必要である。事実、この目的のために我々が利用しうる多くの環境がある。

すなわち、標準化された環境とは以下のような環境である：(1) テスト場面において能力評価のために通常用いられている実際の環境、(b) 画一的に影響すると想定される仮想的な環境、あるいは、(c) 広範な科学研究に基づいて正確に定義されたパラメータを有する環境。それが実際に行われる場合、この環境は、「画一的(uniform)」あるいは「標準的(standard)」環境と呼ばれる。したがって、能力の構成概念は、特定の領域における個人の環境的に調整された能力を反映する。能力の評価点は、「裸の個人」の評価、すなわち、人的支援や福祉用具の使用を伴わない個人の能力を想定している。評価目的に対して、環境調整は、国際的な比較を可能にするために、全ての国の全ての人について同じでなければならない。正確さと国際比較のために、画一的あるいは標準的環境の特徴は、環境因子の分類を用いてコード化できる。

障害と健康の分類に関して、たとえ、特別な利用の特別なケースにおいて、2つの**構成要素**(活動と参加)の一つのみが使われたとしても、利用者がこれらの領域を実行状況と能力の両方によって表現できることは重要である。ICFは、活動と参加に関する一つのリストを提供しており、利用者は、彼らのニーズと目的に対して、以下のいずれかによって、それを採用することができる：

- A) ある領域を活動として、他を参加として指定し、いかなる重複を認めない；
- B) 上記と同じ指定であるが、特別なケースで重複を認める；
- C) 領域の詳細な(第3, 第4レベル)カテゴリーを活動として、大まかな(第2レベル)カテゴリーを参加として用いる；
- D) 全ての領域を活動と参加の両方として用いて、必要とされ、収集される情報を区別するために、(実行状況と能力の)評価点を用いる；

(D) に述べられたアプローチはWHOのデフォルトなアプローチであり、WHOに提出されるICFの国データはこのアプローチを反映すると想定される。)

実行状況と能力の両方のデータへアクセスすることは、ICFの利用者が能力と実行状況のギャップを明らかにすることを可能とする。もし能力が実行状況より低いとすると、個人の現在の環境は、彼らが能力に関するデータから予測されるもの以上に遂行することを可能にしてきた：環境が実行状況を促進してきた。一方、能力が実行状況より大きいとすれば、環境のいくつかの側面が実行状況に対して阻害因子となる。

環境が「阻害因子」と「促進因子」のどちらであるか、そして「阻害因子」または「促進因子」として作用している程度の強さは、環境因子のコード化に関する評価点によって把握される。

最後に、補足的な評価点は、この情報を補うために利用される。能力と実行状況の評価点は共に、福祉用具や人的支援の有無によってさらに利用できる。福祉用具も人的支援も機能障害を変化させないが、特別な領域の生活機能に対する制限を除去するかもしれない。このタイプのコード化は、個人の生活機能が福祉用具のないことによってどの程度制限されるかを明らかにするために、特に有用である。構成要素と評価点の使い方が以下の表に示されている：

構成要素	第1評価点	第2評価点
心身機能 (b)	否定的スケールによる共通評価点であり、機能障害の程度や大きさを示す。 例：b167.3は言語に関する精神機能の重度の機能障害を意味する。	なし
身体構造 (s)	否定的スケールによる共通評価点であり、構造障害の程度や大きさを示す。 例：s730.3は上肢の重度な構造障害を意味する。	各々の身体構造の変化の性状を示すために用いられる。 0 構造に変化なし 1 全欠損 2 部分的欠損 3 付加的な部分 4 異常な大きさ 5 不連続 6 位置の変異 7 構造上の質的变化（液の貯留を含む） 8 詳細不明 9 非該当 例：s730.32は上肢の部分的な欠損を表す。
活動と参加 (d)	実行状況 共通評価点 その人の現在の環境における問題。 例：d5101.1 ₁ は、その人の現在の環境において利用可能な福祉用具を使用して、全身入浴に軽度の困難があることを意味する。	能力 共通評価点 介助なしでの制限 例：d5101.2 ₂ は、全身入浴に中等度の困難がある。これは福祉用具の使用または人的支援がない場合に中等度の活動制限があることを意味する。
環境因子 (e)	共通評価点であり、阻害因子と促進因子とのそれぞれの程度を示す、否定的スケールと肯定的スケールとからなる。 例：e130.2は、教育用の生産品と用具が中等度の阻害因子であることを意味する。逆に、e130+2は教育用の生産品と用具が中等度の促進因子であることを意味する。	なし

6.3. ICFの基礎をなす原理

生活機能と障害に関する健康の分類として ICF の概念の基礎をなし、障害の生物・心理・社会モデル (bio-psycho-social model) と密接に関連する一般原理がある。この原理は、ICF のモデルの主要な構成要素 (components) であり、改定プロセスを導いてきた。

普遍性(universality)

生活機能と障害の分類は、健康状態と関わりなく、全ての人々に対して適用されるべきである。すなわち、ICFは全ての人々を対象とする。それは全ての人々の生活機能に関わるものである。従って、それは障害をもつ人々を個別のグループとして分類するための手段となるべきでない。

同等性(parity)

明白であれ、あるいは暗黙であれ、生活機能と障害の分類内容の構造に影響を及ぼすさまざまな健康状態の間に「精神」と「身体」として、区別を設けてはならない。換言すれば、障害は病因によって区別されてはならない。

中立性(neutrality)

可能な限り、領域の名称は、中立な言語で書かれるべきである。その結果、分類は、生活機能と障害の肯定的および否定的側面の両面を表すことができる。

環境因子(environmental factors)

障害の社会モデルを完全にするために、ICFは背景因子を含んでおり、その中で環境因子が取り上げられている。この因子は、気候や地形などの物理的因子から社会的な態度、習慣、法律にまで範囲が及ぶ。環境因子との相互作用は、総括的な用語「生活機能と障害」に含まれる現象を科学的に理解するうえでの主要な側面である。

7. ICF の領域

ICF の領域(domains)は階層的に配置されている(章, 第 2, 第 3, 第 4 レベル領域)。それはコード化において反映されている:

レベル	例	コード化
章	2 章: 感覚機能と痛み	b2
第 2 レベル	視覚機能	B210
第 3 レベル	視覚の質	b2102
第 4 レベル	色覚	b21021

以下の表は ICF における章の完全なリストを示す:

身 体	
心身機能: 1. 精神機能 2. 感覚機能と痛み 3. 音声と発話の機能 4. 心血管系・血液系・免疫系・呼吸器系の機能 5. 消化器系・代謝系・内分泌系の機能 6. 尿路・性・生殖の機能 7. 神経筋骨格と運動に関連する機能 8. 皮膚および関連する構造の機能	身体構造: 1. 神経系の構造 2. 目・耳および関連部位の構造 3. 音声と発話に関わる構造 4. 心血管系・免疫系・呼吸器系の構造 5. 消化器系・代謝系・内分泌系に関連した構造 6. 尿路性器系および生殖系に関連した構造 7. 運動に関連した構造 8. 皮膚および関連部位の構造
活動と参加	
1. 学習と知識の応用 2. 一般的な課題と要求 3. コミュニケーション 4. 運動・移動 5. セルフケア 6. 家庭生活 7. 対人関係 8. 主要な生活領域 9. コミュニティライフ・社会生活・市民生活	
環境因子	
1. 生產品と用具 2. 自然環境と人間がもたらした環境変化 3. 支援と関係 4. 態度 5. サービス・制度・政策	

下記の表は障害のいくつかの可能性のある例である。障害は健康状態と結びついた 3 つの生活機能のレベルと関連するかもしれない。

健康状態	機能障害	活動制限	参加制約
らい病	体肢の感覚の喪失	物を握ることの困難	らい病の偏見が失業をもたらす
パニック障害	不安	一人で外出が不可能	人々の反応が社会的な関係を妨げる
脊髄損傷	麻痺	公共交通機関の使用が不可能	公共交通機関の配慮の欠如が宗教活動への参加を妨げる
若年性糖尿病	膵臓の機能不全	なし（投薬によって管理できる機能障害）	病気についての固定観念のため、学校へ行かない
白斑	顔の醜さ	なし	感染の恐れによって、社会関係への不参加
以前に精神保健上の問題があり、精神疾患の治療を受けた人	なし	なし	雇用者の偏見のために解雇された

次の表は、異なった障害のレベルが3つの異なった介入のレベルとどのように結びつくかを示す。

	介入 (intervention)	予防 (prevention)
健康状態	治療, 投薬	健康増進, 栄養, 免疫
機能障害	治療, 投薬, 手術	さらなる活動制限の発生を予防
活動制限	福祉用具 人的支援 リハビリテーション療法	予防的リハビリテーション 参加制約の発生の予防
参加制約	配慮 公的教育 障害者差別禁止法 ユニバーサルデザイン	環境の変化 雇用戦略 アクセスに対するサービス ユニバーサルデザイン 変化のためのロビーイング

8. 結 論

ICF は、人の生活機能と障害に関する純粋な医学モデル([medical model](#))から統合された生物・心理・社会モデル([bio-psycho-social model](#))へのパラダイムシフトのための国際的で科学的な手段を提供する。それは障害の研究,その全ての次元(dimensions)の研究において、有用な手段となる—身体と身体部位レベルでの機能障害,個人レベルでの活動制限,社会レベルでの参加制約。また,ICF は、社会的環境や物的な環境へのアクセスのための用具に必要とされる概念モデルや分類を提供している。

ICF は、人の生活機能と障害の全ての側面に関するデータの世界的な標準化のための十分な基礎となるであろう。

ICF は、リハビリテーションセンター、ナーシングホーム、精神病院、コミュニティーサービスなど、慢性疾患や障害を扱う保健機関を評価するために、障害者や専門家によって利用される。

ICF は、さまざまな障害を持つ人々全てにとって、保健やリハビリテーションニーズを明らかにするためだけでなく、生活の中で経験する不利益に対する物理的および社会的環境の影響を明らかにしたり、測定したりするために有用である。

保健経済学の観点から、ICF は、保健やその他の障害の費用をモニターしたり説明したりする上で助けとなる。生活機能や障害の測定は、それぞれの社会での人々の生活に対する生産性の損失やその影響を定量化することを可能にする。また、その分類は、介入プログラムの評価にも大いに役立つであろう。

いくつかの先進国で、ICF と障害のモデルは、いろいろな分野にわたって法律や社会政策へ導入されてきた。ICF は、障害のデータや社会政策のモデル化のための世界標準になり、世界のより多くの国の法律に導入されることが期待される。

要するに、ICF は WHO の健康と障害に関する枠組みである。それは、健康と障害に関する定義、測定、政策立案のための概念的基盤である。それは、健康と健康に関連する分野で利用されるための、障害と健康の普遍的な分類である。

9. 世界的な ICF ネットワーク

ICF に関する詳細な情報を得るためや、ICF を地域や国へ適用するために、ICF 協力ネットワークを構成している下記の組織、機関や NGO と連絡をとって下さい。

(2002 年以降、連絡先などが変更されている場合が考えられます。WHO の ICF のホームページなどで、最新の情報を得てください。日本での協力センターは、厚生労働省大臣官房統計情報部 人口動態・保健統計課 ICD 室 〒100-8916 東京都千代田区霞ヶ関 1-2-2 です。訳者注)

協力センター：

オーストラリア： Australian Institute of Health and Welfare, GPO Box 570, Canberra ACT 2601, Australia.

カナダ： Canadian Institute for Health Information, 377 Dalhousie Street, Suite 200, Ottawa Ontario K1N9N8, Canada.

フランス： Centre Technique National d'Etudes et de Recherches sur les Handicaps Et les Inadptations (CTNERHI), 236 bis, rue de Tolbiac, 75013 Paris, France.

日本： ICD office, Ministry of Health, Labour and Welfare, 1-2-2 Kasumigaseki, Chiyodaku, Tokyo 100-8916, Japan.

オランダ： National Institute of Public Health and the Environment, Department of Public Health Forecasting, Antonie van Leeuwenhoeklaan 9, P. O. Box 1 3720 BA Bilthoven, The Netherlands.

北欧諸国： Department of Public Health and Caring Sciences, Uppsala Science Park, SE Uppsala Sweden.

英国： NHS Information Authority, Coding and Classification, Woodgate, Loughborough, Leics LE11 2TG, United Kingdom.

アメリカ合衆国： National Center for Health Statistics, Room 1100,6525 Belcrest Road, Hyattsville MD 20782, USA .

ネットワーク :

La Red de Habla Hispana en Discapacidades (The Spanish Network).

Coordinator: Jose Luis Vazquez-Barquero, Unidad de Investigacion en Psiquiatria Clinicaly Social Hospital Universitario "Marques de Valdecilla", Avda. Valdecilla s/n, Santander 39008 Spain.

The Council of Europe Committee of Experts for the Application of ICIDH, Council of Europe, F-67075, Strasbourg, France. Contact: Lauri Sivonen.

参加非政府組織 (NGO) :

American Psychological Association, 750 First Street, N.E., Washington, DC 20002-4242, USA.
Contacts: Geoffrey M. Reed, Jayne B. Lux.

Disabled Peoples International, 11 Belgrave Road, London SW1V 1RB, England. Contact: Rachel Hurst.

European Disability Forum, Square Ambiorix, 32 Bte 2/A, B-1000, Bruxelles, Belgium. Contact: Frank Mulcahy.

European Regional Council for the World Federation of Mental Health(ERCWFM), Blvd Clovis N.7, 1000 Brussels, Belgium. Contact: John Henderson.

Inclusion International, 13D Chemin de Levant, F-01210, Ferney-Voltaire,France. Contact: Nancy Breitenbach

Rehabilitation International, 25 E. 21st Street, New York, NY 10010, USA.
Contact: Judith Hollenweger, Chairman RI Education Commission, Institute of Special Education, University of Zurich, Hirschengraben 48, 8001 Zurich, Switzerland.

詳細な情報を得るための連絡先 :

Dr. T.B. Üstün

World Health Organization

Coordinator, Classification, Assessment, Surveys and Terminology

20 Avenue Appia

CH-1211 Geneva 27

Switzerland

Tel: 41 22 791.36.09

Fax: 41 22 791.48.85

E-mail: ustunb@who.int

原 文

事 務 局 （仮 訳）

構成員からの再意見（検討を要するもの）

備 考

WHO Library Cataloguing-in-Publication Data	WHO ライブラリ 出版物目録データ	WHO ライブラリ 出版物目録データ	ii 頁
<p>International classification of functioning, disability and health: children & youth version: ICF-CY.</p> <p>1. Child development – classification. 2. Adolescent development – classification. 3. Body constitution. 4. Disability evaluation. 5. Health status. 6. Causality. 7. Classification. 8. Manuals I. World Health Organization. II. Title: ICF-CY.</p> <p>ISBN 978 92 4 154732 1 (NLM classification: W 15)</p> <p>© World Health Organization 2007</p> <p>All rights reserved. Publications of the World Health Organization can be obtained from WHO Press, World Health Organization, 20 Avenue Appia, 1211 Geneva 27, Switzerland (tel.: +41 22 791 3264; fax: +41 22 791 4857; e-mail: bookorders@who.int)</p> <p>Requests for permission to reproduce or translate WHO publications – whether for sale or for noncommercial distribution – should be addressed to WHO Press, at the above address (fax: +41 22 791 4806; e-mail: permissions@who.int).</p> <p>The designations employed and the presentation of the material in this publication do not imply the expression of any opinion whatsoever on the part of the World Health Organization concerning the legal status of any country, territory, city or area or of its authorities, or concerning the delimitation of its</p>	<p>国際生活機能分類児童版：ICF-CY</p> <p>1. 小児の発達 - 分類。2. 青少年の発達 - 分類。3. 身体組織。4. 障害評価。5. 健康状況。6. 因果関係。7. 分類。8. マニュアル I. 世界保健機関。II. タイトル：ICF-CY。</p> <p>ISBN 978 92 4 154732 1 (NLM 分類：W 15)</p> <p>© 世界保健機関 2007 年</p> <p>本書は、著作権対象となっている。世界保健機関の発行物は、世界保健機関WHO出版部にて入手可能である（住所：20 Avenue Appia, 1211 Geneva 27, Switzerland, 電話番号：+41 22 791 3264, FAX :+41 22 791 4857, e-mail:bookorders@who.int）。</p> <p>販売あるいは無償配布のいずれの目的であっても、WHOの出版物の複製あるいは翻訳の許可の申請は、WHO出版まで（上記住所，fax:+41 22 791 4806，e-mail:permissions@who.int）。</p> <p>本書で採用されている記号表示および資料の提示には、いずれかの国，領域，都市または地域，あるいはその当局の法的地位，またはその国境地帯または境界の区切りに関する世界保健機関のいかなる意見も含まれていない。地図上の点線は、完全な合意が得られて</p>		

<p>frontiers or boundaries. Dotted lines on maps represent approximate border lines for which there may not yet be full agreement.</p> <p>The mention of specific companies or of certain manufacturers' products does not imply that they are endorsed or recommended by the World Health Organization in preference to others of a similar nature that are not mentioned. Errors and omissions excepted, the names of proprietary products are distinguished by initial capital letters.</p> <p>All reasonable precautions have been taken by the World Health Organization to verify the information contained in this publication. However, the published material is being distributed without warranty of any kind, either expressed or implied. The responsibility for the interpretation and use of the material lies with the reader. In no event shall the World Health Organization be liable for damages arising from its use.</p> <p>Typeset in India Printed in Switzerland</p>	<p>いない可能性のあるおおよその国境線を示している。</p> <p>特定の会社名あるいは特定のメーカーの製品の記載があっても、世界保健機関がそこに記載されていないその他の会社あるいは類似品よりも当該の会社あるいは製品を優先的に支持あるいは推奨するものではない。書き損じおよび脱漏を除き、有標製品は単語の最初を大文字で表記して区別してある。</p> <p>世界保健機関は、本書に掲載する内容について、細心の注意を払って検証したが、出版された資料の配布に際し、明示的あるいは暗示的に、いかなる種類の保証も行われたいものとする。資料の解釈および利用の責任は、読者の側にあるものとし、その利用によって生じる損害について、世界保健機関は一切の責任を負わないものとする。</p> <p>版組み：インド 印刷：スイス</p>		
---	--	--	--

Contents	目次		
ICF-CY Preface	ICF-CY 前書き		
ICF- CY Introduction	ICF-CY 序論		
1. Background	1. 背景		
2. Purpose of the ICF-CY	2. ICF-CY の目的		
3. Development of the ICF-CY	3. ICF-CY の開発		
4. Information for ICF-CY users	4. ICF-CY 使用者のための情報		
5. Case vignettes	5. 事例紹介		
6. Acknowledgements	6. 謝辞		
ICF Introduction	ICF 序論		
1. Background	1. 背景		
2. Aims of ICF	2. ICF の目的		
3. Properties of ICF	3. ICF の特性		
4. Overview of ICF components	4. ICF 構成要素の概観		
5. Model of Functioning and Disability	5. 生活機能と障害のモデル		
6. Use of ICF	6. ICF の使用		
ICF-CY One-level classification	ICF-CY 第 1 レベルまでの分類		
ICF-CY Two-level classification	ICF-CY 第 2 レベルまでの分類		
ICF-CY Detailed classification with definitions	ICF-CY 詳細分類と定義		
Body Functions	心身機能		

<p>Body Structures</p> <p>Activities and Participation</p> <p>Environmental Factors</p> <p>ICF Annexes</p> <p>1. Taxonomic and terminological issues</p> <p>2. Guidelines for coding ICF</p> <p>3. Possible uses of the Activities and Participation list</p> <p>4. Case examples</p> <p>5. ICF and people with disabilities</p> <p>6. Ethical guidelines for the use of ICF</p> <p>7. Summary of the revision process</p> <p>8. Future directions for the ICF</p> <p>9. Suggested ICF data requirements for ideal and minimal health information systems or surveys</p> <p>10. Acknowledgements</p> <p>ICF-CY Index to Introductions and Annexes</p> <p>ICF-CY Index to categories within classifications</p>	<p>身体構造</p> <p>活動と参加</p> <p>環境因子</p> <p>ICF 付録</p> <p>付録 1 分類法および用語法の問題</p> <p>付録 2 ICF のコード化に関するガイドライン</p> <p>付録 3 活動と参加のリストの使い方</p> <p>付録 4 事例集</p> <p>付録 5 ICF と障害のある人々</p> <p>付録 6 ICF の使用に関する倫理的ガイドライン</p> <p>付録 7 改定の概要</p> <p>付録 8 ICF の将来の方向性</p> <p>付録 9 理想的小および最低限の健康情報システムまたは調査のために提案された ICF データの要件</p> <p>付録 10 感謝の言葉</p> <p>序論および付録に対する ICF-CY 索引</p> <p>分類中のカテゴリーに対する ICF-CY 索引</p>		
---	--	--	--

preface	前書き		vii 頁
<p>The first two decades of life are characterized by rapid growth and significant changes in the physical, social and psychological development of children and youth. Parallel changes define the nature and complexity of children's environments across infancy, early childhood, middle childhood and adolescence. Each of these changes is associated with their growing competence, societal participation and independence.</p> <p>The International Classification of Functioning, Disability and Health for Children and Youth (ICF-CY) is derived from the International Classification of Functioning, Disability and Health (ICF)(WHO,2001) and is designed to record the characteristics of the developing child and the influence of its surrounding environment.</p> <p>The ICF-CY can be used by providers, consumers and all those concerned with the health, education, and well-being of children and youth. It provides a common and universal language for clinical, public health and research applications to facilitate the documentation and measurement of health and disability in children and youth.</p>	<p>人生の最初の約 20 年間の大きな特徴は、児童の急速な成長、また身体的・社会的・心理的発達にみられる著明な変化である。これと並行して、子どもをめぐる環境の特徴と複雑さも乳児期、幼児期、少年期と進むにつれて変化していく。これらの変化は全て子どもの基礎能力や社会参加、自立性の向上と関連するものである。</p> <p>国際生活機能分類児童版 (International Classification of Functioning, Disability and Health for Children and Youth, ICF-CY) は、国際生活機能分類 (International Classification of Functioning, Disability and Health, ICF, WHO, 2001 年) から派生したものであり、発達途上にある子どもと、それに対する環境の影響との特徴を記録するために作られたものである。</p> <p>ICF-CY はサービス等の提供者や消費者、また児童の健康、教育、安寧 (well-being) にかかわる全ての人を用いるものである。それは臨床、公衆衛生、研究のための共通の普遍的言語を提供し、それによって児童の健康・障害の記録・測定を容易にする。</p>		

<p>The classification builds on the ICF conceptual framework and uses a common language and terminology for recording problems involving functions and structures of the body, activity limitations and participation restrictions manifested in infancy, childhood and adolescence and relevant environmental factors.</p> <p>The ICF-CY belongs to the “family” of international classifications developed by WHO for application to various aspects of health. The WHO Family of International Classifications (WHO-FIC) provides a framework to code a wide range of information about health (e.g. diagnosis, functioning and disability, and reasons for contact with health services), and uses a standardized language permitting communication about health and health care across the world in various disciplines and sciences. In WHO’s international classifications, health conditions, such as diseases, disorders and injuries are classified primarily in ICD-10, which provides an etiological framework. Functioning and disability associated with health conditions are classified in ICF. These two classifications are complementary and should be used together. The ICF-CY can assist clinicians, educators, researchers, administrators, policy-makers and parents to document the characteristics of children and youth that are of importance in promoting their growth, health and development.</p>	<p>ICF-CY の分類は ICF の概念枠組に立っており、乳幼児期と少年期にみられる心身機能・身体構造上の問題、活動制限や参加制約、さらにそれらに関する環境因子を記録するために共通言語と共通用語を用いるものである。</p> <p>ICF-CY は、健康の様々な側面に関して適用するため WHO が開発した「国際分類ファミリー」に属している。WHO 国際分類ファミリー (WHO Family of International Classifications, WHO-FIC) は、健康に関する幅広い情報 (例：診断、生活機能と障害、保健サービスの受診理由) をコード化するための枠組みを提供し、また健康と保健ケアに関する諸専門分野および諸科学分野にまたがる国際的な情報交換を可能とする標準的な言語を提供するものである。WHO の国際分類では、健康状態 (病気、変調、傷害など) は主に ICD-10 (国際疾病分類第 10 版) によって分類され、それは病因論的な枠組みを提供している。健康状態に関連する生活機能と障害は ICF によって分類される。したがって、これらの 2 つの分類は相互補完的であり、この 2 つを一緒に利用することを奨めたい。ICF-CY は医療関係者や教育関係者、研究者、病院・施設・団体等の管理者、政策決定者、また親たちが、成長・健康・発達の促進の上で重要な意味を持つ、児童の様々な特徴を記録するのに役立つ。</p>		
--	--	--	--

<p>The ICF-CY was developed in response to a need for a version of the ICF that could be used universally for children and youth in the health, education and social sectors. The manifestations of disability and health conditions in children and adolescents are different in nature, intensity and impact from those of adults. These differences need to be taken into account so that classification content is sensitive to the changes associated with development and encompasses the characteristics of different age groups and environments.</p> <p>Between 2002 and 2005, a WHO Work Group 1 for ICF-CY held a series of meetings 2 and field trials to review existing ICF codes and identify new codes to describe the characteristics of children and youth. This publication is the outcome of that process 3 and includes dimensions, classes and codes to document body functions and structures, activities and participation of children and youth, and their environments across developmental stages. Drawing on the guidelines in Annex 8 of the ICF, the version for children and youth is consistent with the organization and structure of the main volume.</p> <p>Development activities took the form of :</p> <p>(a) modifying or expanding descriptions;</p> <p>(b) assigning new content to unused codes;</p> <p>(c) modifying inclusion and exclusion criteria; and</p>	<p>ICF-CY は、保健、教育、社会の分野で児童のために普遍的に使えるような ICF のバージョンが必要とされたことに応えて開発された。児童の障害や健康状態の出現の仕方は成人の場合とは性質や程度、影響が異なる。このような違いを考えに入れて、分類の内容が発達に関連する変化に敏感であるよう、また、さまざまな年齢層や環境の特徴を網羅するよう、これらの違いを考慮に入れる必要がある。</p> <p>2002 年から 2005 年までの間に、WHO の ICF-CY 作業グループ (原注 1) は一連の会議 (原注 2) とフィールドトライアルを行い、既存の ICF コードを再検討し、児童の特徴を記載する新しいコードを特定するための作業を行った。本書はこのプロセス (原注 3) の結果であり、児童の心身機能・身体構造や活動、参加、また様々な発達段階にわたる彼らの環境を記録するための次元や等級やコードを含んでいる。ICF の付録 8 のガイドラインに準拠しつつ、この児童版は ICF 本体の組織や構造との間に整合性をもつものである。</p> <p>開発作業は次のようなかたちを取った :</p> <p>(a) 定義の説明文の修正や拡充</p> <p>(b) 未使用コードへの新しい内容の割り当て</p> <p>(c) 「含まれるもの」と「除かれるもの」の基準の修</p>		
---	--	--	--

<p>(d) expanding qualifiers to include developmental aspects.</p> <p>Thus, this derived version of the ICF for children and youth expands the coverage of the main ICF volume by providing specific content and additional detail to more fully cover the body functions and structures, activities and participation, and environments of particular relevance to infants, toddlers, children and adolescents. 4 With its functional emphasis, the ICF-CY uses a common language that can be applied across disciplines as well as national boundaries to advance services, policy and research on behalf of children and youth.</p>	<p>正</p> <p>(d) 発達面を含めるための評価点の拡充</p> <p>このように、この児童のための ICF 派生版は、乳児、幼児、少年に特有の心身機能と身体構造、活動、参加、環境をよりよく包含するために、特定の内容を加え、より詳細にすることによって、ICF 本体の適用範囲を拡大するものである (原注 4)。ICF-CY は生活機能を強調することで、専門分野の違いや国や地域を越えて、児童のためのサービス、政策、研究を前進させることができるための共通言語としての役割を担う。</p>		
---	--	--	--

<p>※ICF-CY viii 頁脚注</p> <p>1 Core members of the work group were Eva Bjorck-Akesson of Sweden, Judith Hollenweger (Switzerland), Don Lollar (the United States of America), Andrea Martinuzzi (Italy) and Huib Ten Napel (the Netherlands) with Matilde Leonardi (Italy) and Rune J.Simeonsson (USA) serving as co-chair and chair, respectively. In WHO, Nenad Kostanjsek managed and coordinated the efforts of the ICF-CY work group under the overall guidance of T.Bedirhan Ustun. Primary financial support of work group activities was provided by the National Center on Birth Defects and Developmental Disabilities of the Centers for Disease Control and Prevention (CDC), USA. Additional support was provided by national ministries in Italy and Sweden, the United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization, WHO and universities of respective work group members.</p> <p>2 The first was a meeting in conjunction with the official introduction of the ICF by WHO to health ministers of the world at Trieste, Italy, in the spring of 2002. Subsequent meetings between 2002 and 2005 involved working sessions in various countries with local participation by representatives of consumer, service, policy and research communities.</p>	<p>1 作業グループの中心メンバーはスウェーデンの Eva Bjorck-Akesson, Judith Hollenweger (スイス), Don Lollar (アメリカ), Andrea Martinuzzi (イタリア), Huib Ten Napel (オランダ) であり, Matilde Leonardi (イタリア) が副委員長, Rune J. Simeonsson (アメリカ) が委員長をつとめた。WHO では Nenad Kostanjsek が T. Bedirhan Üstün の指導の下に ICF-CY 作業グループの作業を管理・調整した。作業グループの活動資金は主として米国疾病対策予防センター (CDC) の国立出生異常・発達障害センターによって提供された。それに加えてイタリア、スウェーデンの政府機関、ユネスコ、WHO、さらに作業グループの各メンバーが所属する大学からも支援を受けた。</p> <p>2 最初の会議は、WHO による世界各国の保健関係大臣への ICF の公式発表 (イタリア・トリエステ、2002 年春) の際に行われた。それに引き続き、2002 年から 2005 年までの間に様々な国での作業会議が、現地の消費者・サービス提供者・政策形成者・研究者も加わって行われた。</p>		
---	--	--	--

<p>3 A first draft version of the ICF-CY was produced in 2003 and field tested in 2004. Subsequently, the beta draft of the ICF-CY was developed and field tested in 2005. A pre-final version of the ICF-CY was submitted to WHO at the end of 2005 for expert review. Recommendations from that review process were incorporated into the final version submitted at the annual meeting of the Network of WHO Collaborating Centres for the Family of International Classifications (WHO-FIC) in Tunis in the autumn of 2006. The ICF-CY was officially accepted for publication as the first derived classification of the ICF in November 2006.</p>	<p>3 ICF-CY の第一次案は 2003 年に作られ、2004 年にフィールドテストが行われた。つづいて ICF-CY のベータ案がつくられ、2005 年にフィールドテストが行われた。ICF 最終前版は WHO に 2005 年末に提出され、専門家の検討を受けた。この検討プロセスからの勧告が最終版に組み入れられ、2006 年秋のチュニスでの WHO-FIC 協力センター会議に提出された。ICF-CY は ICF の最初の派生分類として、2006 年 11 月に公式に発刊が承認された。</p>		
<p>4 Although the addition of new codes and modification of existing codes in the ICF-CY were made specifically for children and youth, they may also be relevant to the ICF. Hence, the new or modified codes in ICF-CY have been incorporated into the ICF updating process.</p>	<p>4 ICF-CY の新コードの付加や既存コードの修正は、児童のために特になされたものであるが、なかには ICF 本体に関係するものもある。このため ICF-CY の新コードや修正コードは、ICF の部分改訂プロセスに組み入れられている。</p>		

<p>Introduction</p>	<p>序論</p>		
<p>1. Background</p> <p>This volume contains the international Classification of Functioning, Disability and Health for Children and Youth and is known as the ICF-CY. The ICF-CY is derived from, and compatible with, the International Classification of Functioning, Disability and Health (ICF) (WHO, 2001). As such, it includes further detailed information on the application of the ICF when documenting the characteristics of children and youth below the age of 18 years. The original introduction and annexes of the ICF have been incorporated into this volume.</p> <p>As a derived classification, the ICF-CY was prepared by “adopting the reference classification structure and categories, providing additional detail beyond that provided by the reference classification” (WHO-FIC, 2004, p.5). Drawing on the guidelines in Annex 8 of the ICF, the ICF-CY was designed to be compatible with the organization and structure of the main volume.</p> <p>Development activities took the form of :</p> <p>(a) modifying or expanding descriptions;</p> <p>(b) assigning new content to unused codes;</p> <p>(c) modifying inclusion and exclusion criteria; and</p>	<p>1. 背景</p> <p>この本には国際生活機能分類児童版 (International Classification of Functioning, Disability and Health for Children and Youth, ICF-CY) を収めている。ICF-CY は国際生活機能分類 (International Classification of Functioning Disability, and Health, ICF : WHO 2001 年) から派生し、それと整合性を持つものである。したがって、18 歳未満の児童の特徴を記録する際の ICF の適用について、ICF-CY は一層詳細な情報を含んでいる。なお本書には ICF 本体の序論と付録を掲載している。</p> <p>ICF-CY は派生分類として、「中心分類の構成とカテゴリーを用い、中心分類よりもさらに詳細な内容を提供する」(WHO-FIC, 2004 年, p. 5.) という方針で作成された。ICF-CY は、ICF 付録 8 のガイドラインに基づいて、ICF 本体の構成と構造に整合性をもつよう設計されている。</p> <p>開発作業は次のかたちを取った :</p> <p>(a) 記述の説明文の修正や拡充</p> <p>(b) 未使用コードへの新しい内容の割り当て</p> <p>(c) 「含まれるもの」と「除かれるもの」の基準の修</p>		

<p>(d) expanding qualifiers to encompass developmental aspects. 5</p>	<p>正 (d) 発達面を含めるための評価点の拡充 (原注5)</p>		
<p>Thus, the ICF-CY expands the coverage of the main volume through the addition of content and greater detail to encompass the body functions and structures, activities, participation and environments specific to infants, toddlers, children and adolescents.</p> <p>The age range covered by the ICF-CY is from birth to 18 years of age, paralleling the age range of other United Nations conventions (e.g. UN Convention on the Rights of the Child, 1989). As a member of the WHO Family of International Classifications (WHO-FIC), the ICF-CY complements the ICD-10, and other derived and related classifications, by providing a framework and standard language for the description of health and health-related states in children and youth.</p> <p><u>※ICF-CY xi 頁脚注</u></p> <p>5 Although the addition of new codes and modification of existing codes in the ICF-CY were made with particular relevance to children and youth, they may also be relevant to the ICF. Hence, the new or modified codes in ICF-CY have been incorporated into the ICF update process.</p>	<p>このように、ICF-CY は、乳児、幼児、少年に特有の心身機能と身体構造、活動、参加、環境を包含するために、内容を加え、より詳細にすることによって、ICF 本体の適用範囲を拡大するものである。</p> <p>ICF-CY が扱う年齢幅は、他の国連条約 (たとえば、1989 年の国連・児童の権利に関する条約) の年齢範囲と同様、出生から 18 歳に達するまでとする。ICF-CY は WHO 国際分類ファミリー (WHO Family of International Classifications, WHO-FIC) の一員として、児童の健康状況と健康関連状況を記録するための概念的枠組みと標準的な言語を提供し、それによって ICD-10 (国際疾病分類第 10 版) および他の派生分類および関連分類を補完している。</p> <p>5 ICF-CY の新コードの付加や既存コードの修正は、特に児童に関して行われたが、なかには ICF 本体に関係するものもある。このため ICF-CY の新コードや修正コードは、ICF の部分改訂プロセスに組み入れられている。</p>		<p>。</p>

<p>2. Purpose of the ICF-CY</p> <p>The ICF-CY is intended for use by clinicians, educators, policy-makers, family members, consumers and researchers to document characteristics of health and functioning in children and youth. The ICF-CY offers a conceptual framework and a common language and terminology for recording problems manifested in infancy, childhood and adolescence involving functions and structures of the body, activity limitations and participation restrictions, and environmental factors important for children and youth. With its emphasis on functioning, the ICF-CY can be used across disciplines, government sectors and national boundaries to define and document the health, functioning and development of children and youth.</p>	<p>2. ICF-CY の目的</p> <p>ICF-CY は医療関係者、教育関係者、政策立案者、家族、消費者、研究者が児童の健康と生活機能の特徴を記録するために利用することを意図したものである。ICF-CY は乳児期、幼児期、少年期に現れた諸問題、すなわち心身機能と身体構造上の問題、活動制限、参加制約、また児童にとって重要な環境因子を記録するための概念的枠組みと共通言語・共通用語を提供する。生活機能に重点を置いているため、ICF-CY は専門領域や担当省庁の違いや国や地域を越えて、児童の健康、生活機能、発達の定義や記録に使用することができるものとなった。</p>		
<p>3. Development of the ICF-CY</p> <p>The development of the ICF-CY is summarized in terms of :</p> <p>(a) the practical and philosophical rationales for its elaboration; and</p> <p>(b) key issues informing the process.</p> <p>(c) A brief history of development activities is given in the preface.</p>	<p>3. ICF-CY の開発</p> <p>ICF-CY の開発について、以下の点にまとめて述べる。</p> <p>(a) 開発にあたっての実際的根拠と理論的根拠</p> <p>(b) 開発過程における主要な論点</p> <p>(c) 開発作業の簡単な経緯は「はじめに」に記した通りである。</p>		
<p>3.1 Rationale for the ICF-CY</p> <p>The rationale for the development of the ICF-CY was based on practical, philosophical, taxonomic and public health considerations.</p>	<p>3.1 ICF-CY の根拠</p> <p>ICF-CYの開発のための根拠は、実際的、理論的、分類学的、公衆衛生学的考察に基づくものであった。</p>		

<p>A. Practical rationale</p> <p>From a practical perspective, the need for a comprehensive classification of childhood disability that could be used across service systems has been recognized for some time, but not realized. Moreover, the implementation of children’s rights in the form of access to health care, education, and social and habilitation services required a classification system sensitive to the physical, social and psychological characteristics unique to children and youth. Thus, the ICF-CY was developed to capture the universe of functioning in children and youth. Further, the manifestations of functioning, disability and health conditions in childhood and adolescence are different in nature, intensity and impact from those of adults. These differences were taken into account and the ICF-CY was developed in a manner sensitive to changes associated with growth and development.</p>	<p>A. 実際の根拠</p> <p>実際の見地からは、様々なサービスシステムの違いをこえて使用できるような、子どもの障害の総合的分類の必要性が以前から認識されてきたが、実現には至らなかった。また、保健、教育、社会福祉や療育 (habilitation) のサービスを受ける子どもの権利を実現するために、児童に特有の身体、心理、社会的特徴に敏感な分類法が必要であった。このため、児童の生活機能の領域を把握するためにICF-CYが開発された。児童期における生活機能、障害、健康状態の現れ方は、成人とは性質、程度、影響が異なる。そのためこのような違いを考慮に入れて、ICF-CYは成長と発達に伴う変化に敏感なものとなるように開発された。</p>	<p>敏感な分類法という言葉に、日本語的には少し違和感を覚えます。前回提案したような、細かく対応できるといった意識がよいように考えております。</p>	
<p>B. Philosophical rationale</p> <p>From a philosophical perspective, it was essential that a classification defining the health and functioning of children and youth incorporate the fundamental human rights defined by the UN Convention on the Rights of Persons with Disabilities (UN, 2007). As a taxonomy derived from the ICF, the ICF-CY describes states of functioning and health in codes with greater granularity which serve as precursors of more mature functioning. The rationale for a public health framework was based on the promise of a population approach to preventing disability in childhood. All content in the ICF-CY is in</p>	<p>B. 理論的根拠</p> <p>理論的観点から言えば、児童期の健康と生活機能を規定する分類には、「国連障害者の権利条約 (仮訳)」（国連, 2006年）に定められた基本的人権の思想を組み入れることが必須であった。ICF-CYは、ICFから派生した分類法として、成熟した生活機能にいたる前の生活機能と健康の様々な状態を、よりきめの細かいコードで記載するものである。公衆衛生的な枠組みの理論的根拠は、児童期の障害予防のためのポピュレーション・アプローチへの期待に基づいていた。ICF-CYの全ての内容は、児童の権利に関する条約や宣言類に準拠して</p>	<p>「理論的」という意味なら theoretical がつかわれるはず。説明文にも、理論についてはいっさいふれられず、条約や宣言などでの思想、方向、価値、べき論が紹介されています。直訳の「哲学」だと意味が変わるので、やはり「理念」が最適と思います。</p>	

<p>conformity with international conventions and declarations on behalf of the rights of children. Hence, the documentation of categories and codes in the ICF-CY may serve as evidence in assuring the rights of children and youth.</p> <p>The major themes of these conventions and declarations are summarized below, with emphasis on the most vulnerable children and youth – those with disabilities.</p>	<p>いる。したがってICF-CYのカテゴリーとコードの記録は、児童の権利保障の証拠となりうるものである。</p> <p>これらの条約や宣言の主要な論旨を以下に要約する。これは障害のある児童という、もっとも弱い立場にある児童に重点を置いたものである。</p>		
<p>1989 UN Convention on the Rights of the Child with particular reference to article 23</p> <p>“A mentally or physically disabled child should enjoy a full and decent life in conditions which ensure dignity, promotes self reliance and facilitates the child’s active participation in the community” (Article 23(1)).</p> <p>This article of the Convention specifies that children with disabilities have the right to special care with assistance provided to children and caregivers appropriate to the child’s condition. Assistance is to be provided free-of-charge and designed to provide effective access to education, training, health-care and rehabilitation services in order to promote the child’s social integration and individual development.</p>	<p>1989 年の国連・児童の権利に関する条約、特に第 23 条</p> <p>「精神的又は身体的な障害を有する児童が、その尊厳を確保し、自立を促進し及び社会への積極的な参加を容易にする条件の下で十分なかつ相応な生活を享受すべきであることを認める」(第 23 条(1))。</p> <p>この条約の同条項は、障害のある子どもは特別のケアを受ける権利があり、子どもと養育者には、その子どもの条件に適した支援が与えられるべきであると明記している。支援は無償で提供され、子どもの社会への統合 (インテグレーション) と個人の発達を促進するために、教育、訓練、保健、リハビリテーション・サービスが効果的に利用できるようなものでなければならない。</p>		
<p>Standard Rules for the Equalization of Opportunities (1994)</p> <p>Rule 6 recognizes the principle of equal primary, secondary and tertiary educational opportunities for children, youth and adults</p>	<p>機会均等化に関する標準規則 (1993 年) *</p> <p>規則 6 は、障害のある児童と成人の、統合された環境での初等、中等、高等教育の機会均等の原則を定めて</p>		

<p>with disabilities in integrated settings. Further, it emphasizes the importance of early intervention and special attention for very young children and preschool children with disabilities.</p>	<p>いる。また、障害のある乳幼児への、早期の介入と特別な配慮の重要性を強調している。</p>		
<p>Education for all: The World Education Forum in Dakar (2000) The Forum advocated for the expansion of early childhood care and education, and the provision of free and compulsory education for all. Additional goals include promoting learning and skills for young people and adults, increasing adult literacy, achieving gender parity and gender equality, and enhancing educational quality.</p>	<p>万人のための教育:ダカール世界教育フォーラム (2000年) 同フォーラムは幼児期の早期のケアと教育の拡大と、万人のための無償の義務教育の提供を提唱した。その他の目標には、青少年と成人の知識と技能の向上、成人の識字率の上昇、男女同権と男女平等の実現、教育の質の向上がある。</p>		
<p>Salamanca Statement on the Right to Education (2001) The Salamanca Statement declares that every child has a fundamental right to education and that special educational needs arise from disabilities or learning difficulties. The Statement also asserts that all children should be accommodated with child-centred pedagogy. In addition, the Statement emphasizes access to regular schooling with inclusive orientation for children with disabilities and the importance of early education to promote development and school-readiness.</p>	<p>教育を受ける権利に関するサラマンカ宣言 (1994年) * サラマンカ宣言は、すべての子どもは教育を受ける基本的権利を有し、障害や学習困難のある子どもたちは特別な教育的ニーズをもっていると宣言している。またすべての子どもは、子どもを中心とした教育を享受すべきであるとも主張する。さらに、障害のある子どもが包括的な方向性 (インクルーシブ・オリエンテーション) に立って通常の学校教育を受けること、発達と就学準備を促進するための早期教育の重要性を強調している。</p>		
<p>UN Convention on the Rights of Persons with Disabilities (2006) “[...] Children with disabilities should have full enjoyment of all human rights and fundamental freedoms on an equal basis</p>	<p>国連障害者の権利条約 (2006年) 「……障害のある児童が、他の児童と平等にすべての人権及び基本的自由を完全に享有すべきであることを</p>		

<p>with other children, and recalling obligations to that end undertaken by States Parties to the Convention on the Rights of the Child [...]” (Preamble).</p> <p>“1. States Parties shall take all necessary measures to ensure the full enjoyment by children with disabilities of all human rights and fundamental freedoms on an equal basis with other children. 2. In all actions concerning children with disabilities, the best interests of the child shall be a primary consideration. 3. States Parties shall ensure that children with disabilities have the right to express their views freely on all matters affecting them, their views being given due weight in accordance with their age and maturity, on an equal basis with other children, and to be provided with disability and age-appropriate assistance to realize that right” (Article 7).</p> <p>Article 30 of the Convention focuses on participation on an equal basis with others and underlines the importance for children with disabilities to play, participate in sports activities and cultural life. “Participation in cultural life, recreation, leisure and sport: 1. States Parties recognize the right of persons with disabilities to take part on an equal basis with others in cultural life [...] to have the opportunity to develop and utilize their creative, artistic and intellectual potential, not only for their own benefit, but also for the enrichment of society, [...] to</p>	<p>認め、また、このため、児童の権利に関する条約の締約国が負う義務を想起し、……」(前文)</p> <p>「1. 締約国は、障害のある児童が他の児童と平等にすべての人権及び基本的自由を完全に享有することを確保するためのすべての必要な措置をとる。2. 障害のある児童に関するすべての措置をとるに当たっては、児童の最善の利益が主として考慮されるものとする。3. 締約国は、障害のある児童が、自己に影響を及ぼすすべての事項について自由に自己の意見を表明する権利並びにこの権利を実現するための障害及び年齢に適した支援を提供される権利を有することを確保する。この場合において、障害のある児童の意見は、他の児童と平等に、その児童の年齢及び成熟度に従って相応に考慮されるものとする。」(第7条)</p> <p>同条約の第30条は、他の者と平等な参加に焦点を合わせ、障害のある子どもが遊び、スポーツ活動や文化的な生活に参加することの重要性を強調している。「文化的な生活、レクリエーション、余暇及びスポーツへの参加：1. 締約国は、障害者が他の者と平等に文化的な生活に参加する権利を認めるものとし、……自己の利益のためのみでなく、社会を豊かにするためにも、創造的、芸術的及び知的な潜在能力を開発し、及び活用する機会を有することを可能とするための適当な措</p>		
---	--	--	--

<p>ensure that laws protecting intellectual property rights do not constitute an unreasonable or discriminatory barrier to access by persons with disabilities to cultural materials [...] to recognition and support of their specific cultural and linguistic identity, including sign languages and deaf culture. [...] to participate on an equal basis with others in recreational, leisure and sporting activities [...], children with disabilities have equal access with other children to participate in play, recreation and leisure, and sporting activities, including those activities in the school system;" (Article 30).</p>	<p>置をとる……知的財産権を保護する法律が、障害者が文化的な作品を享受する機会を妨げる不当な又は差別的な障壁とならないことを確保するためのすべての適当な措置をとる……障害者は、その独自の文化的及び言語的な同一性（手話及び聴覚障害者の文化を含む。）の承認及び支持を受ける権利を有する……締約国は、障害者が他の者と平等にレクリエーション、余暇及びスポーツの活動に参加することを可能とすることを目的として、次のことのための適当な措置をとる……障害のある児童が遊び、レクリエーション、余暇及びスポーツ活動（学校制度におけるこれらの活動を含む。）への参加について均等な機会を享受することを確保すること……」(第30条)</p>		
<p>3.2 Issues relating to children and youth in the ICF-CY Children's growth and development constitute central themes guiding the identification and adaptation of the content for the ICF-CY. Many issues informed the addition or expansion of content, including the nature of cognition and language, play, disposition and behaviour in the developing child. Particular attention was given to four key issues in the derivation of the ICF-CY.</p>	<p>3.2 ICF-CYにおける、児童に関連する諸論点 子どもの成長と発達、ICF-CYの内容を定め、調整する上での中心的なテーマである。発達途上にある子どもの認知、言語、遊び、素質、行動の特徴を含め、多くの論点が内容の追加や拡充のために必要な情報を与えた。ICF-CYを派生させる上で、次の4つの主要な論点に特に注意を払った。</p>		
<p>The child in the context of the family Development is a dynamic process by which the child moves progressively from dependency on others for all activities in infancy towards physical, social and psychological maturity and</p>	<p>家庭関係における子ども 発達は、子どもが、あらゆる活動を他人に依存している乳児期から、身体的、心理的、社会的に成熟し自立する青年期まで、連続的に進む動的な過程である。こ</p>		

<p>independence in adolescence. In this dynamic process, the child's functioning is dependent on continuous interactions with the family or other caregivers in a close, social environment. Therefore, the functioning of the child cannot be seen in isolation but rather in terms of the child in the context of the family system. This is an important consideration in making judgements about the child's functioning is greater in this developmental phase than at any later point in an individual's lifespan. Further, as these interactions frame the acquisition of various skills over the first two decades of life, the role of the physical and social environment is crucial.</p>	<p>の動的な過程では、子どもの生活機能は<u>家族その他の養育者との、身近な社会環境における</u>継続的な相互作用から大きな影響を受ける。したがって、子どもの生活機能は孤立したものとしてではなく、家族システムを背景とした子どもという観点から見なければならない。このことは、生活・人生場面における子どもの生活機能を判断する際に考慮すべき重要な点である。発達の途上にあるこの時期に家族との相互作用が子どもの生活機能に与える影響は、その後の人生のどの時期よりも大きい。さらに、このような相互作用が人生の最初の約 20 年間のさまざまな技能の獲得の枠組みをつくるので、物理的および社会的な環境の果たす役割は非常に重要である。</p>	<p>家族や身近な養育者、社会的環境との</p>	
<p>Developmental delay</p> <p>In children and youth, there are variations in the time of emergence of body functions, structures and the acquisition of skills associated with individual differences in growth and development. Lags in the emergence of functions, structures or capacities may not be permanent but reflect delayed development. They are manifested in each domain (e.g. cognitive functions, speech functions, mobility and communication), are age-specific and are influenced by physical as well as psychological factors in the environment.</p> <p>These variations in the emergence of body functions, structures or performance of expected developmental skills define the</p>	<p>発達の遅れ</p> <p>成長と発達には個人差があるので、児童の場合、心身機能や身体構造の発現および技能の習得の時期はさまざまである。機能・構造・能力の出現の遅れは恒久的なものではなく、発達の遅れであるのかもしれない。これらの遅れは個々の領域（たとえば、認知機能、発語機能、運動・移動、コミュニケーション）に現れ、年齢特異性があり、環境の物理的・心理的要因の影響を受ける。</p> <p>心身機能や身体構造の発現や、期待される発達技能の実行状況におけるこのような差異は、「発達の遅れ」と</p>		

<p>concept of developmental delay and often serve as the basis for identifying children with an increased risk of disabilities. An important consideration in the development of the ICF-CY pertained to the nature of the qualifier used to document the severity or magnitude of a problem of Body Functions, Body Structures, and Activities and Participation. In the main volume of the ICF, the universal severity qualifier for all domains encompasses five levels from (0) no impairment, difficulty or barrier to (4) complete impairment, difficulty or barrier. With children, it is important to consider the concept of a lag or delay in the emergence of functions, structures, activities and participation in the assignment of a severity qualifier. The ICF-CY includes, therefore, the term and concept of delay to define the universal qualifier for Body Functions and Structure, and Activities and Participation. This allows for documentation of the extent or magnitude of lags or delays in the emergence of functions, structures and capacity, and in the performance of activities and participation in a child, recognizing that the severity of the qualifier codes may change over time.</p>	<p>いう概念の定義として用いることができる。またこれは、しばしば、障害のリスクの大きい子どもを特定するのに役立つ。ICF-CYの開発における重要な考慮点のひとつは、「心身機能、身体構造、活動、参加」における問題の程度や大きさの記録に使う評価点 (qualifier) の性格に関するものであった。ICF 本体では全ての領域に共通の評価点があり、「(0)機能障害、困難、阻害因子なし」、から「(4) 完全な機能障害、困難、阻害因子」までの5つのレベルを含んでいる。子どもの場合、問題の程度を示す評価点をつける際には、心身機能・構造、活動、参加の、発現の遅れという概念を考慮することが重要である。したがって、ICF-CYでは心身機能・身体構造、活動と参加に対する共通評価点を定義するのに、「遅れ」の用語と概念を含めている。これによって、子どもの心身機能・構造、活動と参加の、能力および実行状況の発現の遅れの程度や大きさを記録することが可能となる。なお、この際評価点の符号 (上記の0~4) の規定は時とともに変化する可能性があることを認識していることが必要である。</p>		
<p>Participation Participation is defined as a person’s “involvement in a life situation” and represents the societal perspective of functioning. As the nature and settings of life situations of children and youth differ significantly from those of adults, participation has received special attention in the ICF-CY. With development, life situations change dramatically in number and complexity from</p>	<p>参加 参加は人の「生活・人生場面 (life situation) への関わり」と定義され、生活機能の社会的側面を表す。児童の生活・人生場面の特徴と環境は成人とは非常に異なるので、ICF-CYでは参加に特別の注意を払っている。発達にともなって、生活・人生場面は、幼児期初期の子どもの主たる養育者との関係やひとり遊びか</p>		

<p>the relationship with a primary caregiver and solitary play of the very young child to social play, peer relationships and schooling of children at later ages. The younger the child, the more likely it is that opportunities to participate are defined by parents, caregivers or service providers. The role of the family environment and others in the immediate environment is integral to understanding participation, especially in early childhood.</p> <p>The ability to be engaged and interact socially develops in the young child's close relations with others, such as parents, siblings and peers in its immediate environment. The social environment remains significant as a factor throughout the period of development but the nature and complexity of the environment changes from early childhood through to adolescence.</p>	<p>ら、年長の子どものための社会的遊び、仲間関係、学校教育に至るまで、その数と複雑さが劇的に変化する。年少であればあるほど、参加の機会は親や養育者、サービス提供者によって規定される場合が多くなる。家族環境と身近な環境における他者の役割が参加の理解には不可欠であり、特に幼児期においてそうである。</p> <p>社会的に関与し交流する能力は、幼い子どもと、親やきょうだいや仲間など身近な環境の他者との緊密な関係のなかで養われる。社会環境は発達期の全体を通じて重要な因子であるが、環境の特徴と複雑さは幼児期から青年期にかけて変化していく。</p>		
<p>Environments</p> <p>Environmental factors are defined as “the physical, social and attitudinal environment in which people live and conduct their lives”. The person-environment interaction implicit in the paradigm shift from a medical to a broader biopsychosocial model of disability requires special attention to environmental factors for children and youth. A central issue is that the nature and complexity of children's environments change dramatically with transitions across the stages of infancy, early childhood, middle childhood and adolescence. Changes in the</p>	<p>環境</p> <p>環境因子は「人々が生活し、人生を送っている、物的な環境や社会的環境、人々の社会的な態度による環境」と定義されている。障害の医学モデルから、より広範な生物・心理・社会的モデルへのパラダイム・シフトに含まれる、人と環境の相互作用は、児童に関して環境因子に特別の注意を払うことを求めている。中心的な論点のひとつは、子どもの環境の特徴と複雑さが、乳児期、幼児期、少年期の各段階の移行とともに劇的に変化的なものである。児童の環境の変化は、彼らの</p>		

<p>environments of children and youth are associated with their increasing competence and independence.</p>	<p>能力と自立性の向上に関連している。</p>		
<p>The environments of children and youth can be viewed in terms of a series of successive systems surrounding them from the most immediate to the most distant, each differing in its influence as a function of the age or stage of the developing child. The restricted environments of the infant and young child reflect their limited mobility and the need to assure their safety and security. The young child is significantly dependent on persons in the immediate environment. Products for personal use must be adapted to the child's developmental level. Objects for play and access to peers, for example, are essential components of major life situations of young children. For older children, the environments of their everyday life are closely connected to home and school and, for youth, gradually become more diversified into environments in the larger context of community and society.</p>	<p>児童の環境は、彼らを取り巻く一連の連続したシステムという観点から見るができる。それは最も身近な環境から最も遠い環境までを含み、それぞれ、子どもの年齢や発達段階と関連して影響力が異なってくる。乳幼児にとっての制約的な環境は、彼らの運動・移動が限られており、安全と保護を確保する必要性があることのあらわれである。幼児は身近な環境にいる人々に大きく依存している。個人が使用するための製品は、子どもの発達レベルに合ったものでなければならない。たとえば遊びのための道具や仲間へのアクセスは、幼児の主要な生活・人生場面の必要不可欠な要素である。より年長の子どもにとっては、日常生活の環境は家庭と学校と密接につながっており、さらに青年の場合にはしだいに多様化して、コミュニティと社会という、より大きな背景の中での環境になっていく。</p>		
<p>Given the dependence of the developing child, the physical and social elements of the environment have a significant impact on its functioning. Negative environmental factors often have a stronger impact on children than on adults. A child's lack of nutritious food, access to clean water, and a safe and sanitary setting, for example, not only contributes to disease and compromises health but also impairs its functioning and ability</p>	<p>発達途上にある子どもの依存性を考えると、環境の物的・社会的要素は子どもの生活機能に大きな影響を与える。阻害的な環境因子は成人よりも子どもに強い影響を与える場合が多い。たとえば、栄養のある食物、清潔な水へのアクセス、安全で衛生的な環境が子どもに欠けていると、病気になったり健康を損なうだけでなく、子どもの生活機能と学習能力も損なわれる。こ</p>		

<p>to learn. Thus, intervention and prevention efforts to promote children's health and well-being focus on modification or enhancement of the physical, social or psychological environment.</p> <p>Alteration of the physical environment immediate to the child involves the provision of food, shelter and safety. The provision of assistive devices or technology represents environmental alterations that may facilitate functioning in a child with significant physical impairments.</p> <p>Alteration of the social and psychological elements of the child's immediate environment may involve social support for the family and education for caregivers.</p> <p>The nature and extent of environmental support will vary according to the age of the child with the needs of the young child differing from those of an infant or adolescent. Alterations in environments less immediate to children may take the form of legislation or national policies to ensure their access to health care, social services and education.</p>	<p>のため、子どもの健康と安寧 (well-being) を促進するための介入と予防の努力の焦点は、物的、社会的あるいは心理的環境の修正や強化におかれる。</p> <p>子どもの身近な物的環境を変えることには、食物、住まい、安全の提供が含まれる。支援的な器具や機器の提供は、重度の身体的機能障害のある子どもの生活機能を促進する環境改変の例である。</p> <p>子どもの身近な環境の社会的・心理的要素の改変には、家族への社会的支援や、養育者の教育が含まれる。</p> <p>環境面での支援の種類と範囲は子どもの年齢によって異なり、幼児のニーズは乳児や青年のニーズとは違っている。必ずしも身近でない環境の改変の例としては、子どもの保健、社会福祉サービス、教育へのアクセスを確保するための法律や政策などがあげられる。</p>		
--	---	--	--

<p>4. Information for ICF-CY users</p> <p>4.1 Uses of the ICF-CY</p> <p>The ICF-CY defines components of health and health-related components of well-being. Among children and youth these components include mental functions of attention, memory and perception as well as activities involving play, learning, family life and education in different domains. The domains of the ICF-CY are defined by two umbrella terms. “Functioning” is a term encompassing all body functions, activities and participation. “Disability” is a term encompassing impairments, activity limitations and participation restrictions. Environmental factors define barriers or facilitators to functioning.</p> <p>The ICF-CY is using an alphanumeric coding system. The letters “b” for Body Function, “s” for Body Structures, “d” for Activities/ Participation and “e” for Environmental Factors are followed by a numeric code that starts with the chapter number (one digit), followed by the second level heading (two digits), and the third and fourth level headings (one digit each). The universal qualifier with values from 0=no problem to 4=complete problem, is entered after the decimal point to specify the extent to which a function or activity differs from an expected or typical state. The negative aspects of environments are qualified in terms of barriers whereas positive values of the universal qualifier are used to denote the facilitating role of environments. 6</p>	<p>4. ICF-CY 使用者のための情報</p> <p>4.1 ICF-CY の使用</p> <p>ICF-CY は安寧 (well-being) のうちの、健康領域の構成要素と健康関連領域の構成要素との両方を含んでいる。児童の場合、これらの構成要素には注意、記憶、認知などの精神機能と、遊び、学習、家庭生活、教育を含むさまざまな領域の活動が含まれる。ICF-CY の領域は 2 つの包括的用語によって規定される。「生活機能」は、心身機能・身体構造、活動、参加の包括用語である。「障害」は、機能障害 (構造障害を含む)、活動制限、参加制約の包括用語である。環境因子は生活機能に対する阻害因子あるいは促進因子である。</p> <p>ICF-CY はアルファベット文字と数字を用いるコード化システムを用いている。「b」という文字は「心身機能」(Body Function) を、「s」は「身体構造」(Body Structures) を、「d」は「活動 / 参加」(Activities/Participation) を、「e」は「環境因子」(Environmental Factors) を表し、その後に数字コードが続く。数字コードは章番号 (数字 1 字) から始まり、第 2 レベルの番号 (数字 2 字)、第 3 レベルの番号 (数字 1 字)、第 4 レベルの番号 (数字 1 字) の順に続く。小数点の後に、「0 = 問題なし」から「4 = 完全な問題」までの数字で示す共通評価点を記して、心身機能や活動が、期待される状態や典型的な状態とどの程度違うかを特定する。環境の否定的な側面は阻害因子</p>		
--	--	--	--

<p>The information provided by the ICF-CY may be used in a variety of ways including in clinical, administrative, surveillance, policy or research applications. In each case, ICF-CY classes can be used to record a single problem or a profile defining a child's health and functioning difficulties.</p> <p>In clinical applications, ICF-CY classes can provide a summary of assessment findings, clarifying diagnostic information and serving as the basis for planned interventions.</p> <p>Administratively, information pertaining to eligibility, service provision, reimbursement and follow-up can be recorded with ICF-CY codes. In surveillance applications, a limited set of ICF-CY classes may be selected to standardize data collection procedures across instruments and over time in order to document prevalence of conditions, project service needs and service utilization patterns.</p> <p>When applied to policy, the conceptual framework of the ICF-CY may be used to frame a particular policy focus, for example, children's right to education.</p>	<p>として評価され、環境の促進的な役割を示すには、プラス値の共通評価点が用いられる。(原注 6)</p> <p>ICF-CY によって提供される情報は、臨床、行政、監視 (サーベイランス)、政策、研究を含む、様々な用途に利用できる。どの用途でも、ICF-CY の分類項目は子どもの健康や生活機能上の困難を規定する単一の問題あるいはプロフィールの記録に利用できる。</p> <p>臨床的用途では、ICF-CY の分類項目を用いて評価所見をまとめることによって診断情報を明確にしたり、介入のための計画の基礎とすることができる。</p> <p>行政面では、受給資格、サービス提供、補償、フォローアップに関連する情報を ICF-CY コードで記録できる。監視用途では一定の ICF-CY の分類項目を選択して種々のツールや時期の違いを超えてデータ収集方法を標準化することにより、それらの状態の頻度を記録し、サービスの必要性 (ニーズ) やサービス利用パターンを予測することができる。</p> <p>政策に適用する場合は、たとえば子どもの教育を受ける権利などの、特定の政策的焦点を形成するのに ICF-CY の概念的枠組みを利用できる。</p>		
---	--	--	--

<p>In research, selected ICF-CY classes may be used to standardize the characteristics of participants, the selection of assessment measures and the definition of outcomes.</p> <p>In all uses of the ICF-CY, parents, children and youth should be included whenever possible.</p> <p>※ICF-CY xviii 頁脚注</p> <p>6 Detailed information on the coding structure is provided in Annex 2. Guidelines for coding ICF.</p>	<p>研究では、被験者の特徴、評価手段の選択および研究結果の定義を標準化するのに一定の選択された ICF-CY 分類項目が利用できる。</p> <p>ICF-CY をどのように利用する場合でも、親、児童を可能なかぎり含めるべきである。</p> <p>6 コード化の構造に関する詳しい情報は、付録 2 「ICF のコード化に関するガイドライン」を参照。</p>		
--	---	--	--

<p>4.2 Steps in using the ICF-CY</p> <p>The classification and coding of dimensions of disability in children and youth is a complex activity requiring consideration of significant limitations of body functions, body structures, activities and participation in physical, social and psychological development. General coding guidelines are presented in Annex 2 of this volume and provide information on the process of assigning codes for health and health-related states. It is highly recommended that users review these guidelines and obtain training in the use of the ICF-CY prior to initiating classification activities. Accurate coding of disability in children and youth requires knowledge of changes in functioning associated with growth and development, as well as the ability to distinguish between developmental changes that are within the normal range and changes that are atypical. Change in functioning is part of the “typical functioning” of a child. It is important, therefore, to recognize that “normality” is age-dependent and implies an understanding of “normal functioning” at a given time and its mediating role on the environments of children and youth.</p> <p>The unit of classification in the ICF-CY is not a diagnosis for a child, but a profile of its functioning. The purpose of the ICF-CY is to describe the nature and severity of the limitations of the child’s functioning and identify the environmental factors influencing such functioning. Although coding may be</p>	<p>4.2 ICF-CY の使用の手順</p> <p>児童の障害の様々な側面の分類とコード化は複雑な作業であり、身体的・社会的・心理的発達における心身機能・身体構造、活動、参加の大きな制限を考慮しつつ行うべきものである。一般的なコード化のガイドラインは本書の付録 2 に示してあり、健康状態と健康関連状態におけるコード化のプロセスについて述べている。利用者は分類作業を始める前にこのガイドラインをよく読み、ICF-CY の使用について研修を受けることを強く推奨する。児童の障害を正しくコード化するためには、成長と発達に伴う生活機能の変化に関する理解と、正常な範囲内の発達の変化と非典型的な変化とを区別できる能力が必要である。生活機能の変化は子どもの「典型的な生活機能」の一部である。したがって、「正常」とは年齢によって異なるものであり、ある一定の時期における「正常な生活機能」という意味をもつものであること、またそれ（「正常な生活機能」）が児童の環境に対して媒介的な役割を果たしていることの認識が重要である。</p> <p>ICF-CY の分類単位は、子どもについての診断ではなく、子どもの生活機能のプロフィールである。ICF-CY の目的は子どもの生活機能の制限の性質と程度を記載し、そのような生活機能に影響する環境因子を特定することである。コード化はさまざまな目的で（付録 6：ICF</p>		
--	--	--	--

<p>carried out for a variety of purposes (according to the ethical guidelines in Annex 6), a consistent approach should be followed in order to produce reliable and valid data. When using the ICF-CY, it is mandatory to assign codes based on primary information in the form of direct measurement, observation, first-hand interview and/ or professional judgement. It is recognized that the intended use of the ICF-CY is to define the level of detail in coding, which will range from clinical settings to survey applications. The following steps aim to guide users in assigning ICF-CY classes and codes related to problems in children and youth.</p>	<p>の使用に関する倫理的ガイドラインに従って) 行うことができるが、信頼性・妥当性の高いデータを得るためには、一貫した方法をとらなければならない。ICF-CYを使用する際には、直接的測定、観察、直接面接、もしくは専門家の判断、またこれらを組み合わせた形の一次情報をもとにコード化することが必須である。ICF-CY を用いるということは何の程度の詳しさとコード化をするかを定めることであり、よく知られているようにその詳細度は臨床で用いるのか調査に用いるのかその使用目的によって違ってくる。以下に述べる手順は、児童の問題に関連して ICF-CY のコード化を行う時に、利用者の指針となることを目指したものである。</p>		
<p>(1) Define the information available for coding and identify whether it relates to the domain of Body Functions, Body Structures, Activities/ Participation or Environmental Factors.</p>	<p>(1) コード化に利用できる情報を明確にし、それが心身機能、身体構造、活動、参加、環境因子のいずれの領域に関連するかを見極める。</p>		
<p>(2) Locate the chapter (4-character code) within the appropriate domain that most closely corresponds to the information to be coded.</p>	<p>(2) コード化する情報にもっともあてはまる適切な領域内の章や 4 字で示されるコード (第 2 レベル) を探す。</p>		
<p>(3) Read the description of the 4-character code and attend to any notes related to the description.</p>	<p>(3) その 4 字で示されるコードレベルの記述を読み、その記述に関連する注釈があればそれに注意する。</p>		
<p>(4) Review any inclusion or exclusion notes that apply to the code and proceed accordingly.</p>	<p>(4) そのコードに、「含まれるもの」と「除かれるもの」があればそれを検討し、それによって作業を進める。</p>		
<p>(5) Determine if the information to be coded is consistent with</p>	<p>(5) コード化する情報が 4 字で示されるコードのレ</p>		

<p>the 4-character level or if a more detailed description at the 5- or 6-character code should be examined.</p> <p>(6) Proceed to the level of code that most closely corresponds to the information to be coded. Review the description and any inclusion or exclusion notes that apply to the code.</p> <p>(7) Select the code and review the available information in order to assign a value for the universal qualifier that defines the extent of the impairment in body function and structure, activity limitation, participation restriction (0=no impairment/ difficulty to 4=complete impairment/ difficulty) or environmental barrier (0=no barrier to 4=complete barrier) or facilitator (0=no facilitator to +4=complete facilitator).</p> <p>(8) Assign the code with the qualifier at the 2nd, 3rd or 4th item level. For example, d115.2 (moderate difficulty in listening).</p> <p>(9) Repeat steps 1 to 8 for each manifestation of function or disability of interest for coding where information is available.</p> <p>(10) Parents and consumers may participate in the process by completing age-appropriate inventories that allow specific areas of functional concern to be highlighted, but they should do so before full evaluations and codes are provided by</p>	<p>ベルと合致するか、あるいはより詳細な5字や6字で示されるコードで記載すべきかを定める。</p> <p>(6) コード化する情報に最も近いコードのレベルへ進む。そのコードに「含まれるもの」と「除かれるもの」があればそれを検討する。</p> <p>(7) コードを選んだら、利用できる情報を検討して、心身機能・身体構造の機能障害（構造障害を含む）、活動制限、参加制約の程度を示す共通評価点（0＝障害／困難なしから、4＝完全な障害／困難まで）、また環境因子の阻害因子（0＝阻害因子なしから、4＝完全な阻害因子まで）もしくは促進因子（0＝促進因子なしから、+4＝完全な促進因子まで）の程度を示す共通評価点を定める。</p> <p>(8) 第2、もしくは第3、もしくは第4レベルコードに評価点をつける。たとえば、d115.2（注意して聞くことの中程度の困難）など。</p> <p>(9) コード化する対象の生活機能あるいは障害のそれぞれの項目について、利用できる情報をもとに、上記の（1）から（8）までのステップをくり返す。</p> <p>(10) 親や消費者は年齢に応じた調査表（アンケート、チェックリスト等）に記入し、特定の分野の生活機能上の心配事又は問題点をチェックすることによってこのプロセスに参加できるが、それ</p>		
--	--	--	--

<p>professionals or a team of professionals.</p>	<p>は複数の専門家または専門家チームが詳細な評価とコード化をする前に行うべきである。</p>		
<p>4.3 Conventions</p> <p>The main conventions for this classification are described in the Introduction and Annexes to the ICF, which follows this Introduction to the ICF-CY. They should be read carefully prior to using the ICF-CY. These conventions include notes, exclusion terms, inclusion terms and definitions for the code designations of Other Specified and Unspecified. There are several additional conventions that appear in the ICF-CY.</p> <p>1. With reference to the definitions of the negative aspect of Body Functions, Body Structures and Activities/ Participation, the term “delay” was added to reflect the fact that a problem in any of these domains may also reflect a lag in development.</p> <p>2. In a related convention, the concept of delay also denotes the qualifier levels from 0=no delay to 4=complete delay.</p>	<p>4.3 使用法</p> <p>この分類の主な使用法 (convention) は、この ICF-CY 序論に引き続く ICF 序論と付録に述べたとおりである。ICF-CY を使う前にこれらをよく読むことをすすめる。これらの使用法には、注釈、「除かれるもの」の条件、「含まれるもの」の条件、「その他の特定の」と「詳細不明の」のコードの定義などがある。この他に ICF-CY では、次のような使用法が新たに追加されている。</p> <p>1. 「心身機能」、「身体構造」、「活動／参加」の否定的側面の定義を参考に、これらの領域のいずれにおいても、問題には発達の遅れが影響したものもあるという事実を示すために「遅れ(delay)」という用語を加えたこと。</p> <p>2. これと関連することとして、この「遅れ」の概念も 0=遅れなし、から 4=完全な遅れ、までの評価点レベルで表すこと。</p>		
<p>4.4 Evidence for coding</p> <p>The ICF-CY is a classification of Body Functions, Body Structures, Activities and Participation, and Environmental Factors stated in neutral terms. Documentation of a child’s problems through the assignment of codes is predicated on the use of the universal qualifier. Assignment of codes must not be</p>	<p>4.4 コード化のための根拠</p> <p>ICF-CY は、「心身機能」、「身体構造」、「活動」、「参加」、「環境因子」の分類であり、中立的な言葉で表現されている。コード化による子どもの問題の記録は、共通評価点を用いて行われる。コードの割り当ては推定ではなく、個々の領域の子どもの生活機能上の問題につ</p>		

<p>based on inference but on explicit information related to the child's functioning problems in the respective domains.</p> <p>As noted above, evidence for coding can take the form of direct measurement, observation, respondent interview and/ or professional judgement. Although the form of the evidence will depend on the characteristic of the function of interest and the purpose for coding, every effort should be made to obtain the most objective information possible. Direct measurement of laboratory, biomedical or anthropometric data constitutes appropriate information for Body Functions and Body Structure. For Activities and Participation, direct measurement may be made with a wide range of standardized instruments and other measures that provide data specific to a domain of interest. In both of these contexts, measurement that is based on normative data can facilitate translation to corresponding qualifier levels in the form of percentile values or standard deviation units. At present, there are instruments and measures that can be used as evidence for assigning code. However, the correspondence to specific ICF-CY domains is limited. In the search for appropriate instruments, the user is encouraged to select those that have the closest correspondence to these domains of interest and have demonstrated reliability.</p> <p>Qualitative descriptions of the child, based on direct observation, may be useful in gathering evidence in areas of</p>	<p>いての明確な情報に基づいて行わなければならない。</p> <p>先に述べたように、コード化のための根拠は直接測定、観察、回答者との面接、専門家の判断などの形をとる。根拠の形態は問題とする生活機能の性質とコード化の目的により異なるが、できる限り客観的な情報を得ることにあらゆる努力を払わなければならない。「心身機能」と「身体構造」には、検査データ、生物医学的データ、身体計測データの直接測定が適切な情報となる。「活動」と「参加」は、さまざまな標準ツールや、その他、問題領域に特有のデータを得るための何らかの方法で、直接測定を行うことができる。どちらの場合でも、標準的なデータに基づいた測定が、パーセンタイル値や標準偏差値のかたちで、対応する評価点レベルへの転換を容易にする。現在、コード化するための根拠として利用できるツールや手法は存在している。しかし、それらと ICF-CY の特定の領域との対応は不十分である。適切なツールを探す際には、問題とする領域に最も対応し、信頼性が証明されているものを選ぶことを勧める。</p> <p>評価ツールがないとき、あるいは適当でない分野では、直接観察をもとにした質的記録が、生活機能の各分野</p>		
---	--	--	--

<p>functioning where assessment instruments are not available or not appropriate. A major goal of the ICF and ICF-CY is to involve respondents in defining the nature and extent of their functioning in the context of their environments. This is especially important when participation is coded. The use of interview is encouraged with children and youth whenever possible. With young children and those with limited verbal skills, the primary caregiver can serve as a proxy respondent. Finally, evidence for coding can be based on professional judgement and on various sources of information including records, observation, and other form of client contact.</p> <p>There are several resources that can be drawn upon for evidence in assigning codes. It is beyond the scope of this volume to list instruments and measures for potential use during assessment, but users are encouraged to identify such a list. It may be helpful to review existing measures in reference texts that identify a range of measures applicable to the assessment of body Functions and Structures, Activities and Participation, and Environmental Factors. Users are encouraged to access reference texts describing instruments accepted in those countries in which they work. The growing interest in the application of the ICF and ICF-CY is contributing to the identification of applicable instruments as well as to the development of new measures consistent with the framework of the ICF-CY. One helpful resource maybe the</p>	<p>についての根拠をそろえるのに有用であろう。ICF と ICF-CY の主要な目標は、現在の環境における自分自身の生活機能の性質と程度の判断に回答者を関与させることである。「参加」をコード化するにはこれが特に重要である。児童の場合はできる限り面接を利用することが望ましい。年少の子どもや言語技能が限られている者の場合は、主要な養育者が代わって答えることもできる。最後に、コード化のための根拠は専門家の判断、記録や観察、その他のかたちのクライアントとの接触を含む、さまざまな情報源をもとにすることができる。</p> <p>コード化する際の根拠として利用できるリソース (評価法、文献など) がいくつかある。評価に利用できる可能性のあるツールや手法を列挙するのは本書の範囲を超えるが、利用者にはそのようなリストを探してみることを勧める。心身機能・身体構造、活動、参加および環境因子の評価に適するさまざまな手段を挙げた参考文献中の、既存の手法を検討するのも有用であろう。利用者は、効果を上げている国で使われているさまざまなツールについて書かれた参考文献を検討してみるべきである。ICF と ICF-CY の利用に関心が高まっているので、利用可能なツールの発見と、ICF-CY の枠組みに合った新しい手法の開発が進んでいる。有用なリソースの一つが、米国心理学協会がサービス機関向けに作成した『精神医学的評価法の臨床ガイドラ</p>		
--	---	--	--

<p>Practice Guideline for Psychiatric Evaluation of Adults (1995) developed by the American Psychological Association for use in service settings. The practice manual is designed for multidisciplinary use and provides comprehensive guidelines regarding the nature of the information needed to assign codes in each of the domains. Finally, training manuals and courses are increasingly likely to be available with the adoption of the ICF-CY in various settings.</p>	<p>イン (Practice Guideline for Psychiatric Evaluation of Adults)』(1995年)であろう。この実務マニュアルはさまざまな専門分野で利用できるようなつくりになっており、各領域のコード使用に必要な情報の性質について、総合的な指針を提供している。最後に、ICF-CYがさまざまな場で採用されるにつれて、研修に利用できるマニュアルや研修会が増えてくると思われる。</p>		
<p>5. Case vignettes</p> <p>The brief information presented in the case vignettes below is designed to illustrate the source of information that can be used when assigning ICF-CY codes to problems manifested by children. In practice, the nature and complexity of information available about a child would clearly be more comprehensive than in these vignettes. However, for the purpose of illustrating the use of the ICF-CY, the user is encouraged to review the cases and identify codes reflecting the problems characterizing each of the children presented. As an initial step, it may be helpful to review the broad questions below and identify any problems noted in the case description. The user can then proceed with the sequence of steps described in the previous section for assigning ICF-CY codes on the basis of information available about a child. The primary focus should be on identifying relevant codes because the vignettes do not provide sufficient information to assign the level of the qualifier.</p>	<p>5. 事例紹介</p> <p>以下の事例集に示す簡略な情報は、子どもに表れた問題について ICF-CY をコード化する際に利用できる情報源の例を示すためのものである。もちろん実際の場面では、子どもについて得られる情報の性質と複雑さは、これらの事例よりも広範囲にわたるものであろう。しかしこれは ICF-CY の利用法を例示するためのものなので、利用者はこれらの事例を検討して、各事例の子どもが示す特徴的な問題を表すコードを特定していただきたい。まずは、下記の大まかな質問に従って、事例の中の問題点を特定するとよいであろう。ついで、子どもについての情報をもとに、前節に述べた ICF-CY コード化の手順にしたがって作業を進めていけばよい。この事例集には評価点をつけることができるほど十分な情報は含めてないので、まず適切なコード(項目)を見つけることを第一に考えていただきたい。</p>		

<p>1. Is the child or adolescent manifesting problems in body functions?</p> <p>2. Does the child or adolescent have problems of organ, limb or other body structures?</p> <p>3. Does the child or adolescent have problems executing tasks or actions?</p> <p>4. Does the child or adolescent have problems engaging in age appropriate life situations?</p> <p>5. Are there environmental factors that restrict or facilitate the child's or adolescent's functioning?</p>	<p>1. その児童は、心身機能に問題があるか。</p> <p>2. その児童は、器官、肢体、その他の身体構造に問題があるか。</p> <p>3. その児童は、課題や行為の遂行に問題があるか。</p> <p>4. その児童は、年齢相応の生活・人生場面に従事することに問題があるか。</p> <p>5. その児童の生活機能を阻害または促進している環境因子があるか。</p>		
<p>Case 3-year-old girl</p> <p>C is a 3-year-old girl who was born following an uneventful pregnancy. She has a history of congenital heart problems, which were corrected in two surgeries early in life. She continues to have frequent upper respiratory and ear infections, which appear to have affected her hearing.</p> <p>C and her mother live in an apartment in the centre of a large city and receive their medical care from a clinic at one of the city's hospitals. C's father left shortly after her birth and does not contribute to the family financially. C is cared for by a neighbour during the day while her mother works at a local store. When her mother works on the weekends, C stays at her grandmother's with her siblings. C is a serious child who does not smile or laugh easily. She spends much of the time in simple play with objects by herself and does not interact much</p>	<p>事例：3歳の女兒</p> <p>Cは3歳の女の子で、母親が妊娠中には特に問題はなかった。先天性の心疾患があり、幼い時に2回の手術を受け矯正されている。これまで頻繁な上気道や耳の感染症を起こしており、それが聴覚に影響しているようである。</p> <p>Cは母親と大都市中心部のアパートに住み、市の病院の外来で診療を受けている。Cの父親はCの出生後間もなく家を出ており、家庭に経済的貢献をしていない。母親が地元の店で働いている日中は、近所の人がCの世話をしている。母親が週末働くときは、兄弟とともに祖母に預けられている。Cはきまじめで、めったに微笑んだり笑ったりしない。ほとんどはひとりで、物相手の単純な遊びをして過ごし、ほかの子どもたちとはあまり遊ばない。押ししたり引いたりすると音を立てるも</p>		

<p>with other children. She likes things that make noise when they are pushed or pulled and will play with them for long periods of time. Other than that, she is easily distracted. When her attention is not engaged, she is inclined to engage in body rocking. She started walking only three months ago and is unable to climb stairs unless someone is holding her hand. She has a vocabulary of about 20 words that are intelligible, such as “mine”, “more”, “block”, “juice”, and a larger vocabulary that is unintelligible. Sitting on her mother’s lap to be read a story is one of her favourite activities. She will point to familiar pictures but has difficulty learning the names of objects in the pictures. Frequently, when her name is called, she does not respond and often seems unaware of people talking around her. The basis for these behaviours is unclear but may be due to hearing loss from frequent ear infections. An assessment conducted when she was 24 months old revealed that her developmental level was equivalent to 17 months. Particular delay was evident in receptive and expressive language. Hearing assessment revealed mild, bilateral hearing loss.</p> <p>With reference to the five questions defined above, the problems manifested by this child suggests codes in Chapters 1, 2, 4 and 7 of the body Functions component. For Activities and Participation, applicable codes could be considered from Chapters 1, 3, 4, 7 and 8. Codes defining the nature of barriers</p>	<p>のが好きで、長い時間それで遊んでいる。その他、すぐに気を散らす。ぼんやりしているときに体を揺らす傾向がある。3カ月前にようやく歩き始めたばかりで、誰かに手をつないでもらわないと階段を登れない。語彙は意味がわかるものが、「わたしの」、「もっと」、「ブロック」、「ジュース」などの20語ほどで、意味の判明しない語彙がもっとたくさんある。母親の膝に座ってお話を読んでもらうのがお気に入りの活動の一つである。なじみのある絵を指差すが、その絵のなかのもの名前を覚えるのは難しい。自分の名前を呼ばれても反応しないことがよくあり、自分の周囲で話している人たちに気づいていないようなことがよくある。このような行動の原因は不明だが、頻繁な耳感染症による聴力低下のせいかもしれない。月齢24カ月時に行われた評価で、発達レベルは17カ月に相当することがわかった。ことばの理解と表出で特に遅れが目立った。聴覚検査で、軽度の両耳の難聴があることが明らかになった。</p> <p>上記の5つの質問に照らしてみると、この子どもに現れている問題は「心身機能」構成要素の第1、2、4、7章のコードを示唆している。「活動と参加」については、第1、3、4、7、8章中に該当するコードが考えられる。この子どもの状況の阻害因子と促進因子の性格を定義</p>		
---	--	--	--

<p>and facilitators in this child's situation would include some found in Chapters 1 and 3 of the Environmental Factors component.</p>	<p>するコードには、「環境因子」構成要素の第 1、3 章中のいくつかのものが含まれるであろう。</p>		
<p>Case 10-year-old boy</p> <p>T is ten-year-old boy who was referred to a clinic for an evaluation after experiencing pervasive academic difficulties in the previous two years of school. On the basis of observation, it is clear that he has significant problems in concentrating on academic tasks and is easily distracted. His parents report that T is “on the go” all the time and does not seem to listen. According to his parents and teachers, he has difficulty keeping still for any length of time at home and at school. At the present time, this means that he has trouble completing assigned work in the classroom. He has particular difficulties remembering material he has studied. He is currently failing all of his academic classes and his performance in reading and writing is at the second grade level. He also shows difficulties adjusting to social situations involving other children.</p> <p>T's teacher and parents are concerned about his high level of activity and the fact that he does not seem to be able to think before he acts. This is evident in his social behaviour when he fails to wait for his turn in games and sports and, at home, when he rides his bicycle into a busy street without looking. A number of different interventions have been tried to help T perform in the classroom, but these have not resulted in</p>	<p>事例：10歳の男児</p> <p>Tは10歳の男児で、評価のためにクリニックに紹介されてきた。過去2年間、学校での全般的な学習上の困難を経験している。観察から、勉強に集中することが非常に困難で、すぐに気が散ることが明らかである。両親は、Tが常に「あちこち動き回り」、人の言うことを聞いていないようだと述べている。両親と教師によると、家庭でも学校でも少しの間もじっとしていることができない。このため、現在、教室で与えられる課題をやり通すことに問題がある。習ったことを記憶することに特に困難がある。現在はすべての教科で及第点を取れずにおり、読み、書きの成績は2年生レベルである。また、ほかの子どもたちが関わる社会的状況への適応にも困難を示している。</p> <p>Tの教師と親は、彼の活動レベルのはげしさと、深く考えずに行動する傾向について心配している。このことは彼の社会的行動に表れており、ゲームやスポーツで自分の順番がくるのを待てないし、自転車に乗っていて、まわりを見ないで交通の頻繁な通りに出ていたりする。教室でのTの学習を助けるためにさまざまな介入が試みられているが、実行状況の改善には至って</p>		

<p>improved performance. While the family has been reluctant to consider medication, T was recently seen by his paediatrician who prescribed a stimulant medication for his high level of activity. In conjunction with the medication trial, the school is designing a comprehensive plan to support T in the classroom.</p> <p>The problems presented by this 10-year-old boy encompass a number of codes in Chapter 1 of the Body Functions component. For the Activities and Participation component, Chapters 1, 2, 3, 7 and 8 contain codes applicable to document his elevated level of activity and difficulties in meeting the situational and academic demands of the classroom. Applicable codes to describe relevant Environmental Factors would include some found in Chapters 1 and 5.</p>	<p>いない。家族は薬物治療に乗り気でなかったが、最近 T は小児科医の診察を受け、多動に対して中枢刺激薬が処方された。薬物治療の試みと併せて、学校は教室での T を支援する総合的な計画を立てている。</p> <p>この 10 歳の男児が示している問題は、「心身機能」構成要素の第 1 章の多くのコードを含んでいる。「活動と参加」構成要素については第 1、2、3、7、8 章が、この男児の高レベル活動と、教室の状況や学習面の要求に応じることの困難さに該当するコードを含んでいる。関連性のある「環境因子」を表すのに適したコードには、第 1、5 章中のいくつかが含まれる。</p>		
<p>Case 14-year-old adolescent</p> <p>J is a 14-year-old girl living with her parents in a small town. She has severe asthma which was detected at a very young age. In addition to heightened response to specific allergens, J's asthmatic attacks are also triggered by exercise, cold air and anxiety. These attacks last 1 to 2 hours and occur several times a week. She is currently prescribed a bronchodilator and uses a nebulizer prophylactically. In the last year, however, J has been inconsistent in following the medication regimen with the result that acute episodes are occurring more frequently. From the time she was enrolled in a preschool programme to the present, J's school attendance has been marked by frequent</p>	<p>事例：14 歳の女兒</p> <p>J は 14 歳の女兒で、小さな町に両親と住んでいる。とても幼い時に見つかった喘息があり、重症である。特定のアレルゲンに対して強い反応が起こるほか、運動、冷氣、不安によっても喘息の発作が起こる。このような発作は 1～2 時間続き、週に数回起こる。現在、気管支拡張剤を処方されており、予防的にネブライザーを使っている。だが昨年、服薬が不規則になり、その結果、急性症状の発現がより頻繁に起こるようになった。幼稚園に入ってから現在の学校に至るまで、J の出席率は悪く、欠席が頻繁である。結果として J の成績レベルは常に低く、落第こそしていないものの、同級生た</p>		

<p>absences. As a result, her achievement levels have been consistently poor and, while she has not failed any grades, she is falling farther and farther behind her peers.</p> <p>At the present time, she is in the eighth grade in the local middle school. As exercise triggers acute episodes, she does not participate in the physical education programme at school and does not undertake any regular physical activity. She is frequently absent from school, remaining at home where she watches television and eats snacks. She has gained a significant amount of weight in the last year. Because of frequent absences, J has not developed a consistent group of friends at school. J reports feeling different from others and isolated from her peers. Her parents are becoming very concerned about her physical and emotional health and are consulting a medical doctor.</p> <p>The chronic health condition of this adolescent is manifested in problems that would be captured primarily in codes found in Chapters 1, 4 and 5 under the Body Functions component. For the Activities and Participation component, most of the applicable codes would be found in Chapters 2, 5, 7, 8 and 9. Finally, for the significant role of the natural environment and asthma medication as well as associated consequences of social isolation, Chapters 1, 2 and 3 of the Environmental Factors component would yield appropriate codes for the</p>	<p>ちからどんどん遅れている。</p> <p>現在、Jは地元の中高等学校の8年生（日本の中学2年生に相当）である。運動は急性症状を誘発するので、学校の体育の授業に参加せず、運動をしていない。頻繁に学校を休み、家にいてテレビを見ながら間食をしている。昨年中にかなり体重が増えた。頻繁に休むので学校で特定の友だちのグループはいない。自分がほかの人たちと違い、仲間達から孤立していると感じるとJは言っている。両親は彼女の身体的、情緒的健康を非常に心配するようになって、医師に相談している。</p> <p>この少女の慢性的な健康状態は、「心身機能」構成要素の主として第1、4、5章内のコードでとらえることのできる問題に示されている。「活動と参加」構成要素については、該当するコードのほとんどは第2、5、7、8、9章にあるようだ。最後に、自然環境と喘息の薬物治療、また関連する結果としての社会的孤立が果たしている重要な役割については、「環境因子」構成要素の第1、2、3章にこの少女が直面する阻害因子の記録に適したコードがあると思われる。</p>		
---	--	--	--

<p>documentation of barriers faced by this young person.</p>			
<p>6. Acknowledgements</p> <p>The Members of the Work Group acknowledge with appreciation the support and contributions made by:</p> <p>Christian Care Foundation for Children with Disabilities in Thailand (CCD), Nonthaburi, Thailand; Collaborating Centres for the WHO Family of International Classifications (WHO-FIC) and affiliated agencies in Australia, Canada, Denmark, Finland, France, Germany, Iceland, Japan, the Netherlands, Norway, the People’s Republic of china, Sweden and the USA; EducAid, Rimini, Italy; Institute Nazionale Neurologico Carlo Besta, Fondazione IRCCS [Italian National Neurological Institute Carlo Besta IRCCS Foundation], Milan, Italy; Gruppo di ricerca, Istituto de Ricovero e Cura a Carattere Scientifico (IRCCS) “Eugenio Medea”, Associazione la Nostra Famiglia [Research Group for the Scientific Institute “Eugenio Medea” for Research, Hospitalization and Health Care, Association “La Nostra Famiglia”], Costamasnaga, Italy; Neuropsychiatric Unit, Treviglio Hospital, Treviglio, Italy; Organismo Volontari Cooperazione Internazionale (OVCI-La Nostra Famiglia) [Volunteers Organization for International Cooperation], Usratuna, Juba, Sudan; persons associated with government agencies, public and private programmes for children and youth around the world who participated in field trial activities; regional representatives participating in meetings of the WHO Work Group in South Africa, Sweden,</p>	<p>6. 謝辞</p> <p>作業グループのメンバーとして、以下の皆様から寄せられた支援および貢献に感謝の意を表す。</p> <p>タイ、ノンタブリー-Christian Care Foundation for Children with Disabilities in Thailand (CCD)。オーストラリア、カナダ、デンマーク、フィンランド、フランス、ドイツ、アイスランド、日本、オランダ、ノルウェー、中国、スウェーデンおよび米国の WHO 国際分類ファミリー (WHO-FIC)の協力センターならびにその関連機関。イタリア、リミニ、EducAid。イタリア、ミラノ、Istituto Nazionale Neurologico Carlo Besta, Fondazione IRCCS [Italian National Neurological Institute Carlo Besta IRCCS Foundation]。イタリア、コスタ・マズナーガ、Gruppo di ricerca, Istituto di Ricovero e Cura a Carattere Scientifico (IRCCS) "Eugenio Medea", Associazione la Nostra Famiglia [Research Group for the Scientific Institute "Eugenio Medea" for Research, Hospitalization and Health Care, Association "La Nostra Famiglia"]。イタリア、トレビリオ、Neuropsychiatric Unit, Treviglio Hospital。スウェーデン、ジューバ、ウストラトナ、Organismo Volontari Cooperazione Internazionale (OVCI-La Nostra Famiglia) [Volunteers Organization for International Cooperation]。政府機関関係者、実地試験活動に参加してくれた世界中の児童のための公的および民間のプログラムの皆様。南アフリカ、スウェーデン、スイス、タイおよび米国で行われた</p>		

原 文

事 務 局 (仮 訳)

構成員からの再意見 (検討を要するもの)

備 考

<p>Switzerland, Thailand and the USA; The Centre for Epidemiology, Swedish National Board of Health and Welfare, Stockholm, Sweden; The National Center on Birth Defects and Developmental disabilities of the US Centers for Disease Control and Prevention, Atlanta, GA, USA; University of North Carolina at Chapel Hill, Chapel Hill NC, USA; University of Zurich, Zurich, Switzerland.</p>	<p>WHO 作業グループの会合に出席してくれた地域の代表者の皆様。スウェーデン, ストックホルム, The Centre for Epidemiology, Swedish National Board of Health and Welfare。米国ジョージア州アトランタ, The National Center on Birth Defects and Developmental Disabilities of the US Centers for Disease Control and Prevention。米国, ノースカロライナ州チャペルヒル, University of North Carolina at Chapel Hill。スイス, チューリッヒ, University of Zurich。</p>		
<p>Individuals: Argentina Christian Plebst Australia Sharynne McLeod Brazil Heloisa Dinubila Canada Diane Caulfield Patrick Fougeyrollas Janice Miller China Qiu Zhuoying</p>	<p>個人的参加者： Argentina Christian Plebst Australia Sharynne McLeod Brazil Heloisa Dinubila Canada Diane Caulfield Patrick Fougeyrollas Janice Miller China Qiu Zhuoying</p>		

Denmark Tora Dahl	Denmark Tora Dahl		
Egypt Mohammed El Banna	Egypt Mohammed El Banna		
Finland Markku Leskinen	Finland Markku Leskinen		
France Catherine Barral Jean-Yves Barreyre Marie Cuenot	France Catherine Barral Jean-Yves Barreyre Marie Cuenot		
Ghana Kofi Marfo	Ghana Kofi Marfo		
Iceland Halla Tulinius	Iceland Halla Tulinius		
Italy Daniela Ajovalasit Francesca Albanesi Luigi Barruffo Mariamalia Battaglia	Italy Daniela Ajovalasit Francesca Albanesi Luigi Barruffo Mariamalia Battaglia		

原 文

事 務 局 (仮 訳)

構成員からの再意見 (検討を要するもの)

備 考

Daniela Beretta	Daniela Beretta		
Debora Bonacina	Debora Bonacina		
Gabriella Borri	Gabriella Borri		
Giovanni Cattoni	Giovanni Cattoni		
Giovanni Cattoni	Giovanni Cattoni		
Elisa Ceppi	Elisa Ceppi		
Alessio Chiusso	Alessio Chiusso		
Annalisa Colpo	Annalisa Colpo		
Maria Antonella Costantino	Maria Antonella Costantino		
Guido Corona	Guido Corona		
Antonella Dimo	Antonella Dimo		
Enrico Gruppi	Enrico Gruppi		
Guido Fusaro	Guido Fusaro		
Felicia Licciardi	Felicia Licciardi		
Bertilla Magagnin	Bertilla Magagnin		
Elena Maria Mauri	Elena Maria Mauri		
Barbara Orlandi	Barbara Orlandi		
Sabrina Pasqualotti	Sabrina Pasqualotti		
Alfredo Pisacane	Alfredo Pisacane		
Camilla Pisoni	Camilla Pisoni		
Gianni de Polo	Gianni de Polo		
Monica Pradal	Monica Pradal		
Alberto Raggi	Alberto Raggi		
Daria Riva	Daria Riva		
Lia Rusca	Lia Rusca		
Emanuela Russo	Emanuela Russo		

Carlo Sorella	Carlo Sorella		
Antonella Vaudano	Antonella Vaudano		
Anna Zana	Anna Zana		
Japan	Japan		
Yutaka Sakai	Yutaka Sakai		
Akio Tokunaga	Akio Tokunaga		
Kuwait	Kuwait		
Hashem Taqi	Hashem Taqi		
Mexico	Mexico		
Fabiola Barron	Fabiola Barron		
Peru	Peru		
Liliana Mayo	Liliana Mayo		
Portugal	Portugal		
Joaquim Bairrao	Joaquim Bairrao		
Maria Isabel Felgueiras	Maria Isabel Felgueiras		
South Africa	South Africa		
Erna Alant	Erna Alant		
Spain	Spain		
Jaime Ponte	Jaime Ponte		

<p>Sudan Sanson Baba Marco Sala</p>	<p>Sudan Sanson Baba Marco Sala</p>		
<p>Sweden Margareta Adolfsson Lars Berg Kristina Bränd Persson Lilly Eriksson Mats Granlund Nina Ibragimova Mia Pless Regina Ylvén</p>	<p>Sweden Margareta Adolfsson Lars Berg Kristina Bränd Persson Lilly Eriksson Mats Granlund Nina Ibragimova Mia Pless Regina Ylvén</p>		
<p>Switzerland Simon Haskell</p>	<p>Switzerland Simon Haskell</p>		
<p>Thailand Wasan Saenwian Chariya Saenwian Ko-Chih Tung</p>	<p>Thailand Wasan Saenwian Chariya Saenwian Ko-Chih Tung</p>		
<p>The former Yugoslav Republic of Macedonia Bilijana Ancevska Anica S. Apceva</p>	<p>The former Yugoslav Republic of Macedonia Bilijana Ancevska Anica S. Apceva</p>		

Sande S. Bojkovski	Sande S. Bojkovski		
katerina Dimitrova	katerina Dimitrova		
Vasilka S. Dimovska	Vasilka S. Dimovska		
Ivan S. Dvojakov	Ivan S. Dvojakov		
Joanis Gajdazis	Joanis Gajdazis		
Teuta Jakupi	Teuta Jakupi		
Nikola Jankov	Nikola Jankov		
Olga Jotovska	Olga Jotovska		
Mirjana P. Kjaeva	Mirjana P. Kjaeva		
Saso S. Kocankovski	Saso S. Kocankovski		
Petre S. Krstev	Petre S. Krstev		
Oliviera Lekovska	Oliviera Lekovska		
Lidja S. Parlic	Lidja S. Parlic		
Snezana D. Pejkovska	Snezana D. Pejkovska		
Anastasija S. Petrova	Anastasija S. Petrova		
Marina S. Pop-Lazarova	Marina S. Pop-Lazarova		
Marija Raleva	Marija Raleva		
Fulvia V. Tomatis	Fulvia V. Tomatis		
Milka S. Vancova	Milka S. Vancova		
Julija S. Vasileva	Julija S. Vasileva		
United States of America	United States of America		
Stephen Bagnato	Stephen Bagnato		
Scott Brown	Scott Brown		
Wendy Coster	Wendy Coster		
Marjorie Greenberg	Marjorie Greenberg		

原 文

事 務 局 (仮 訳)

構成員からの再意見 (検討を要するもの)

備 考

Heidi Feldman Anita Scarborough Travis Threats Zambia Elisa Facelli Sister Irina Paolo Marelli	Heidi Feldman Anita Scarborough Travis Threats Zambia Elisa Facelli Sister Irina Paolo Marelli		
--	--	--	--

国際生活機能分類－小児青少年版(仮称)追加項目(案)

【心身機能】

コード	項目	事務局(仮訳)	構成委員からの再意見(検討を要するもの)	備考
	During childhood and adolescence , impairments may also take the form of delays or lags in the emergence of body functions during development	児童期および青少年期には、機能障害が発達途中の心身機能の発現の遅れという形で現れる場合もある		
b110	Inclusions: functions of the state, continuity and quality of consciousness; loss of consciousness, coma, vegetative states, fugues, trance states, possession states, pharmacologically-(drug)induced altered consciousness, delirium, stupor	含まれるもの:意識の状態、連続性、質に関する機能。意識消失、昏睡、植物状態、遁走、トランス、憑依(つきもの)状態、薬物による意識変化、せん妄、ステューパ(中等度意識混濁)。		
b1103	Regulation of states of wakefulness Mental functions regulating the organization of stable states of wakefulness and awareness	覚醒状態の制御 覚醒と意識の安定した状態の組織化を制御する精神機能		
b114	General mental functions of knowing and ascertaining one's relation to object , to self, to others, to time and to one's surroundings and space .	物、自己、他者、時間、周囲環境、 対象物や空間との 関係を知り確かめる全般的な精神機能。	物→もの？	
	Inclusions: functions of orientation to time, space , place and person; orientation to self and others; disorientation to time, place and person	含まれるもの:時間、空間、場所、人に関する見当識機能。自己と他者に関する見当識。時間、場所、人に関する失見当識。		
b1140	Mental functions that produce awareness of today, tomorrow, yesterday , date, month and year.	今日、明日、昨日、年月日を認識する精神機能。		
b1143	Orientation to objects	物品に関する見当識		objectの訳については、ICF及びICF-CY全体で様々な訳が使われていますが、前後の項目との並びから考えると、ここでは「物品」よりも「もの」や「事物」くらいが自然ではないでしょうか。
	Mental functions that produce awareness of objects or features of objects	物品または物品の特徴を認識する精神機能		
b1144	Orientation to space Mental functions that produce awareness of one's body in relationship to the immediate physical space	空間に関する見当識 物理的にすぐ近くの空間との関連において自己の身体を認識する精神機能		
b117	Exclusions: memory functions (b144); thought functions (b160); basic cognitive functions (b163) ; higher-level cognitive functions (b164)	除かれるもの:記憶機能(b144)、思考機能(b160)、 基礎的認知機能(b163) 、高次認知機能(b164)。		
b122	General mental functions, as they develop over the life span, required to understand and constructively integrate the mental functions that lead to the formation of the personal and interpersonal skills needed to establish reciprocal social interactions, in terms of both meaning and purpose	生涯を通じて発達する全般的な精神機能であり、意義と目的の両面で、社会的相互作用を確立する上で必要とされる、対人的技能の形成につながる精神機能を理解し、建設的な方向で統合するために必要とされる機能。		
	Inclusions: such as in autism Inclusion: any difficulty in self-other relationships including attachment	含まれるもの:自己と他者との関係(愛着を含む)における困難		
	Dispositions and intra-personal functions	素質と個人特有の機能		
	Disposition to act or react in a particular way , characterizing the personal , behavioural style of an individual that is distinct from others	他の人々と区別される個人的な行動様式を特徴づける、特別なやり方で行動あるいは反応する素質		
	These behavioural and responses styles are developmental in nature and may be foundational for later patterns of temperament and personality functions	これらの行動や反応の様式は本来発達のなものであり、のちの気質や人格機能のバターンの基礎となりうる		

コード	項目	事務局(仮訳)	構成委員からの再意見(検討を要するもの)	備考
b125	Remark : The codes on Dispositions and Intra-personal functions can be related to the codes on expression of Temperament and Personality functions (b126)	注意: 素質と個人特有の機能に関するコードは気質と人格の機能(b126)と関係づけることもできる		
	Users may use either or both	使用者は一方もしくは両方を使える		
	The taxonomic properties of these codes and their relationship need to be developed through research	これらのコードの分類学上の属性や相互の関連性については研究によって開発していく必要がある		
	Inclusion : functions of adaptability , responsivity , activity level , predictability , persistence and approachability	含まれるもの: 順応性, 反応性, 活動水準, 予測可能性, 持続性, 親近性		
	Exclusions : intellectual functions (b117) ; energy and drive functions (b130) ; psychomotor functions (b147) ; emotional functions (b152)	除かれるもの: 知的機能(b117), 活力と欲動の機能(b130), 精神運動機能(b147), 情動機能(b152)		
b1250	Adaptability Disposition to act or react to new objects or experiences in an accepting manner rather than a resistant manner	順応性 新しいものや経験に対して, 抵抗的ではなく受容的な態度で, 行動あるいは反応する素質。		
b1251	Responsivity Disposition to react in a positive rather than negative manner to actual or perceived demand	反応性 実際の, あるいは気づいた相手の要求に対して, 消極的ではなく積極的な態度で反応する素質。		
b1252	Activity level	活動水準		
	Disposition to act or react with energy and action rather than lethargy and inaction	無気力や不活動ではなく, 活力と活動性をもって活動あるいは反応する素質。		
b1253	Predictability	予測可能性		
	Disposition to act or react in a predictable and stable manner rather than an erratic or unpredictable manner	不安定で予測不可能な様式ではなく, 予測可能な安定した様式で行動あるいは反応する素質。		
b1254	Persistence	持続性		
	Disposition to act with an appropriately sustained rather than limited effort	限られた努力ではなく, 適切に持続する努力をもって行動する素質。		
b1255	Approachability	親近性		
	Disposition to act in an initiating manner , moving towards persons or things rather than retreating or withdrawing	逃げたり引きこもったりするのではなく, 進んで人やものに近づき, 率先して活動する。		
b1258	Dispositions and intra-personal functions, other specified	その他の特定の, 素質と個人特有の機能		
b1259	Dispositions and intra-personal functions, unspecified	詳細不明の, 素質と個人特有の機能		
b126	Remark: The codes on Temperament and Personality functions can be related to the codes on expression of Dispositions and Intra-personal functions (b125). Users may use either or both. The taxonomic properties of these codes and their relationship need to be developed through research	注意: 気質と人格の機能のコードは素質と個人特有の機能(b125)と関係することもありうる。使用者は一方もしくは両方を使える。それぞれのコードの分類法上の属性や相互の関連性は研究によって明らかにする必要がある。		
b1442	Retrieval and processing of memory	記憶の再生と処理		
	(変更前) Retrieval of memory	記憶の再生		

コード	項目	事務局(仮訳)	構成委員からの再意見(検討を要するもの)	備考
b147	Inclusions: <u>manual and lateral dominance</u> functions of psychomotor control, such as <u>in psychomotor retardation delay</u> , excitement and agitation, posturing, <u>stereotypes, motor perseveration</u> , catatonia, negativism, ambitendency, echopraxia and echolalia; quality of psychomotor function.	含まれるもの: <u>利き手・利き足・利き目</u> 。精神運動統制の機能。例えば、精神運動機能の遅れ、興奮と激越、不自然な姿勢、 <u>常同性</u> 、 <u>運動の保続</u> 、カタニー(緊張病性障害)、拒絶症、両個性、反響動作、反響言語。精神運動機能の質。	ICF本体「論理的思考の機能」 ICF-CYの英文にも見あたらないが、削除した文でもない。 → 訳はどうするか？	
	Exclusions: consciousness functions (b110); orientation functions (b114); intellectual functions (b117); energy and drive functions (b130); attention functions (b140); <u>basic cognitive functions (b163)</u> ; mental functions of language (b167); <u>mental functions of sequencing complex movements (b176)</u> <u>clumsiness (b760)</u>	除かれるもの: 意識機能(b110)、見当識機能(b114)、知的機能(b117)、活力と欲動の機能(b130)、注意機能(b140)、 <u>基礎的認知機能(b163)</u> 、言語に関する精神機能(b167)、 <u>不器用さ(b760)</u> 。		
b1472	Organization of psychomotor functions	精神運動機能の組織化		
	Mental functions that produce complex goal directed sequences of movement	目標に向けて複雑な一連の動きを行う精神機能。		
b1473	Manual dominance	利き手の確立		
	Development and preference in hand use	手の使用の発達と、優先的な使用		
b1474	Lateral dominance	利き目、利き足の確立		
	Development and preference of eye, and limb use	目や下肢の発達と、優先的な使用。		
b163	Basic cognitive functions	基礎的認知機能		
	Mental functions involved in acquisition of knowledge about objects, events and experiences; and the organization and application of that knowledge in tasks requiring mental activity	もの、できごと、経験に関する知識の獲得に関する精神機能、および精神活動を必要とする課題におけるその知識の組織化と応用。		
	Inclusion: functions of cognitive development of representation, knowing and reasoning Exclusion: higher level cognitive functions (b164)	含まれるもの: 象徴、知ること、および推論することの認知的発達の機能 除かれるもの: 高次認知機能(b164)		
b16703	Reception of gestural language	ジェスチャーによる言語の受容		
	Mental functions of decoding messages in non-formalized gestures made by hands and other movements in order to obtain their meaning	手やその他の動きにより、一定の決まりのないジェスチャーを用いたメッセージを解読し、その意味を理解する精神機能。		
b16713	Expression of gestural language	ジェスチャーによる言語の表出		
	Mental functions necessary to produce messages in non-formalized gestures made by hands and other movements	手やその他の動きによる、一定の決まりのないジェスチャーを用いたメッセージを作るために必要な精神機能		
b2150	Inclusions: functions of accommodation; <u>pupillar</u> <u>pupillary</u> reflex	含まれるもの: (目の)調節機能や瞳孔反射。		
b235	Exclusion: <u>sensations</u> <u>sensation</u> associated with hearing and vestibular functions (b240)	除かれるもの: 聴覚と前庭の機能に関連した感覚(b240)。		
b310	Exclusions: mental functions of language (b167); articulation functions (b320); <u>babbling (b3401)</u>	除かれるもの: 言語に関する精神機能(b167)、構音機能(b320)、 <u>喃語(b3401)</u> (b3401は多様な音を発すること)。		
b3401	Inclusions: functions of <u>crying, cooing, gurgling and babbling</u> <u>in children</u>	含まれるもの: <u>泣く、のどを鳴らし喜ぶ、ゴクゴクのどを鳴らす及び喃語を発するなどの機能</u> 。	babbling: b310の除かれるものでは「喃語」と訳している。	
b440	Inclusions: functions of respiration rate, rhythm and depth; impairments such as apnoea, hyperventilation, irregular respiration, paradoxical respiration, and <u>bronchial spasm</u> , and as in pulmonary emphysema; <u>upper pulmonary obstruction, reduction in airflow through upper and lower airways</u>	含まれるもの: 呼吸数、呼吸リズム、呼吸の深さ。機能障害の例としては、無呼吸、過呼吸、不規則な呼吸、奇異性呼吸、肺気腫、気管攣縮。 <u>上部肺閉塞、上・下気道気流量低下</u> 。		

コード	項目	事務局(仮訳)	構成委員からの再意見(検討を要するもの)	備考
b450	Additional respiratory functions	その他の呼吸機能		
	Inclusions : functions of blowing , whistling and mouth breathing , functions of producing and transporting mucus	含まれるもの:吹くこと, 口笛, 口呼吸, 粘液の産生と移送の機能		
	(変更前)Inclusions : functions of blowing , whistling and mouth breathing	吹くこと, 口笛, 口呼吸		
b4500	Production of airway mucus	気道粘液の産生		
	Functions of producing mucus of upper and lower airways	上・下気道での粘液の産生の機能		
b4501	Transportation of airways mucus	気道での粘液の移送		
	Functions of transporting mucus of upper and lower airways	上・下気道での粘液の移送の機能		
b4508	Additional respiratory functions, other specified	その他の特定の, 呼吸機能		
b4509	Additional respiratory functions, unspecified	詳細不明の, 呼吸機能		
b5	This chapter is about the functions of ingestion, digestion and elimination, as well as functions involved in metabolism and the endocrine glands and the growth maintenance functions.	本章は, 食物摂取, 消化, 排泄に関する機能と, 代謝に関する機能, 内分泌腺, および成長維持機能に関する機能を扱う。		
b5106	Vomiting	嘔吐		
	(変更前)regurgitation and vomiting	—		
	Functions of moving food or liquid in the reverse direction to ingestion , from stomach to oesophagus to mouth and out , such as in gastro-oesophageal reflux , recurrent vomiting , pyloric stenosis	胃から食道, 口, 体外へと, 摂食とは逆の方向に固形物や液体を動かす機能。 例えば, 胃食道逆流, 反復性嘔吐, 幽門狭窄		
	(変更前)Functions of moving food or liquid in the reverse direction to ingestion , from stomach to oesophagus to mouth and out	胃から食道, 口, 体外へと, 摂食とは逆の方向に液体や固形物を動かす機能		
b51060	Regurgitating	逆流		
	Functions of moving food or liquid in the reverse direction to ingestion , from stomach to oesophagus to mouth without expelling it	胃から食道, 口へと摂食とは逆の方向に食物や液体を動かすが, 口からは出さない機能		
b5107	Ruminating	反すう		
	Functions of maintaining and manipulating vomit in the mouth	口の中に逆流物をとどめ操作する機能		
b5550	Pubertal functions	思春期に関連する機能		
	Functions associated with the onset of puberty and manifestations of primary and secondary sexual characteristics	思春期の開始と一次および二次性徴の発現に関連する機能		
b55500	Body and pubic hair development	体毛と陰毛の発達		
	Functions associated with the development of body and pubic hair	体毛と陰毛の発達に関連する機能		
b55501	Breast and nipple development	乳房と乳頭の発達		
	Functions associated with breast and nipple development	乳房と乳頭の発達に関連する機能		
b55502	Penis, testes and scrotum development	陰茎・精巣(睾丸)・陰囊の発達		
	Functions associated with development of penis , testes and scrotum	陰茎・精巣(睾丸)・陰囊の発達に関する機能		
b55508	Pubertal functions, other specified	その他の特定の, 思春期に関連する機能		
b55509	Pubertal functions, unspecified	詳細不明の, 思春期に関連する機能		

コード	項目	事務局(仮訳)	構成委員からの再意見(検討を要するもの)	備考
b560	Growth maintenance functions	標準的な成長維持機能		
	Functions of attaining expected growth milestones according to contextually adjusted normative auxological parameters	背景にある要素により補正した標準的な成長指標にそって成長する機能		
	Inclusion : dwarfism and gigantism	含まれるもの: 低身長症, 巨人症		
b569	Functions related to metabolism and the endocrine system, other specified and unspecified	その他の特定の, および詳細不明の, 代謝と内分泌系に関連する機能		
b640	Inclusions: functions of the sexual arousal, preparatory, orgasmic and resolution phase: functions related to sexual interest, performance, penile erection, clitoral erection, vaginal lubrication, masturbation , ejaculation, orgasm; impairments such as impotence, frigidity, vaginismus, premature ejaculation, priapism and delayed ejaculation	含まれるもの: 性的興奮・準備・オルガズム・消褪期の機能。性的興味, 性行動, 陰茎勃起, 陰核勃起, 潤滑, マスターベーション , 射精, オルガズムに関する機能。機能障害の例としては, インポテンス, 冷感症, 陰痿, 早漏, 持続勃起, 射精遅延。		
b6503	Onset of menstruation	月経の開始		
	Functions related to the onset of the first menarche	最初の月経の開始(初潮)に関する機能		
b660	Inclusions: functions of male fertility and female fertility, pregnancy and childbirth, and lactation; impairments such as azoospermia, oligozoospermia, agalactorrhoea, galactorrhoea , alactation and such as in subfertility, sterility, spontaneous abortions, ectopic pregnancy, miscarriage, small fetus, hydramnios and premature childbirth, and delayed childbirth	含まれるもの: 男性の生殖能力, 女性の生殖能力, 妊娠, 出産および乳汁産生の機能。機能障害の例としては, 無精子症, 精子減少症, 乳汁分泌停止, 乳汁漏出症 , 乳汁産生欠如 , 生殖能力低下や不妊, 自然流産, 子宮外妊娠, 流産, 子宮内胎児発育遅延, 羊水過多症, 早産, 過期産。		
b6703	Genital functions	性器の機能		
	Functions associated with arousal of the genitals	性器の(性的)興奮に関連した機能		
	Exclusions : sexual functions (b640) ; procreation functions (b660)	除かれるもの: 性機能(b640), 生殖の機能(b660)		
b750	Inclusions: functions of stretch motor reflex, automatic local joint reflex, reflexes generated by noxious stimuli and other exteroceptive stimuli; withdrawal reflex, biceps reflex, radius reflex, quadriceps reflex, patellar reflex, ankle reflex, appearance and persistence of reflexes	含まれるもの: 筋伸張反射, 自動的局所性関節反射, 侵害刺激, その他の外来刺激によって生じる反射の機能。逃避反射, 上腕二頭筋反射, 橈骨反射, 大腿四頭筋反射, 膝蓋腱反射, アキレス腱反射, 反射の出現や持続 。		
b7502	Inclusion: rooting	含まれるもの: 探索反射		
b760	Inclusions: functions of control of simple voluntary movements and of complex voluntary movements, coordination of voluntary movements, supportive functions of arm or leg, right left motor coordination, eye hand coordination, eye foot coordination; impairments such as control and coordination problems, e.g. clumsiness and dysdiadochokinesia	含まれるもの: 単純あるいは複雑な随意運動の制御, 随意運動の協調, 上肢や下肢の支持機能, 左右運動の協調, 目と手の協調, 目と足の協調の機能。協調障害の例としては, 不器用さ や拮抗運動障害のような, 制御や協調に関与する機能の障害。		
b761	Spontaneous movements	自発的運動		
	Functions associated with frequency , fluency and complexity of total and individual body-part movements , such as infant spontaneous movements	全身や体の一部分の運動の, 頻度, 滑らかさ, 複雑さに関する機能。例えば, 乳児の自発的運動。		
b7610	General movements	全身運動		
	Repertoire and quality of age-specific general spontaneous movements , such as "writhing" movements and "fidgety" movements in early life	年齢特有な自発的全身運動の種類と質。例えば, 乳幼児期の「体をねじる」動きや「落ち着きのない」動き。		

コード	項目	事務局(仮訳)	構成委員からの再意見(検討を要するもの)	備考
b7611	Specific spontaneous movements	特定の自発的運動		
	Repertoire and quality of other spontaneous movements normally present in the first postnatal months , such as arm and leg movements toward midline , finger movements and kicking	通常生後数カ月間に見られる, その他の自発的運動の種類と質。例えば, 身体の正中線へ向かう手足の動き, 指の動き, 足蹴り。		
b7618	Spontaneous movements, other specified	その他の特定の自発的運動		
b7619	Spontaneous movements, unspecified	詳細不明の自発的運動		

【身体構造】

	During childhood and adolescence , impairments may also take the form of delays or lags in the emergence of body structures in development	児童期および青年期は, 機能障害が発達中の身体構造の発現における遅滞として現れる場合がある		
s1107	Structure of white matter	白質の構造		
s11070	Corpus callosum	脳梁		
s11078	Structure of white matter,other specified	その他の特定の, 白質の構造		
s11079	Structure of white matter,unspecified	詳細不明の, 白質の構造		
s32000	Primary dentition	乳歯		
s32001	Permanent dentition	永久歯		
s32008	Teeth,other specified	その他の特定の, 歯		
s32009	Teeth,unspecified	詳細不明の, 歯		
s3205	Philtrum	人中(注訳: 鼻と口との間の縦溝)		
s6304	Testes and Scrotum	精巣(睾丸)と陰囊		
	(変更前) Testes	精巣(睾丸)		
s71000	Sutures	(頭蓋骨間の)縫合		
s71001	Fontanelle	泉門		
s71008	Bones of cranium, other specified	その他の特定の, 頭蓋の骨		
s71009	Bones of cranium, unspecified	詳細不明の, 頭蓋の骨		
s8400	Body hair	体毛		
s8401	Facial hair	顔の毛		
s8402	Axillary hair	腋毛		
s8403	Pubic hair	陰毛		
s8408	Structure of hair, other specified	その他の特定の, 毛の構造		
s8409	Structure of hair, unspecified	詳細不明の, 毛の構造		

【活動と参加】

	During childhood and adolescence , limitations and restrictions may also take the form of delays or lags in the emergence of activities and participation in development.	児童期および青年期は, 活動と参加の制限および制約が, 発達の遅れとして現れる場合がある		
--	---	--	--	--

コード	項目	事務局(仮訳)	構成委員からの再意見(検討を要するもの)	備考
d110	Using the sense of seeing intentionally to experience visual stimuli, such as visually tracking an object , watching persons , looking at a sporting event , person , or children playing.	視覚刺激を経験するために、意図的に視覚を用いること。例えば、 物品を追視すること 、 人を注意して視たり 、スポーツ行事や人、また子どもが遊んでいるのを視ること。	追加項目一覧のほうにもコメントしましたが、「物品」という表現に違和感を覚えます。Objectの訳は、それぞれで異なっているので、ここでは「物」や「もの」くらいが自然ではないでしょうか。	
d115	Using the sense of hearing intentionally to experience auditory stimuli, such as listening to a radio, the human voice , to music , or , a lecture, or to a story told .	聴覚刺激を経験するために、意図的に聴覚を用いること。例えば、ラジオ、 人の声 、音楽、講義、 お話しを注意して聴くこと 。		
d1200	Mouthing	注意して口で感じる		
	Exploring objects using mouth or lips	口や唇を用いて物品を感じ調べる		
d1201	Touching	注意して触ること		
	Exploring objects using hands , fingers or other limbs or body parts	手や指などの四肢や身体の部位を用いて物品を感じ調べる		
d1202	Smelling	注意して嗅ぐこと		
	Exploring objects by bringing them to the nose or the nose to objects	鼻に近づけたり、鼻を近づけたりして物品のにおいを感じ調べる		
d1203	Tasting	注意して味わうこと		
	Exploring the taste of food or liquid by biting , chewing , sucking	噛み切ったり、噛みつぶしたり、吸ったりして食物や液体の味を感じ調べる		
d130	Imitating or mimicking as a basic component of learning, such as copying, repeating a facial expression , a gesture, a sound or the letters of an alphabet.	学習の基礎的な構成要素としての真似や物まね。例えば、 顔の表情 、ジェスチャー、音、アルファベットの文字の模倣や、繰り返し。		
	Inclusion : immediate imitation of an action behaviour	含まれるもの: 動作や行動を即座にまねすること。		
d131	Learning through actions with objects	物品を使うことを通しての学習	objectの訳については、ICF及びICF-CY全体で様々な訳が使われていますが、文脈から考えると、ここでは「物品」よりも「もの」や「物」くらいが自然ではないでしょうか。物品とおもちゃという並びは自然ではないので、「物や玩具」とするという手もあるかもしれません。	
	Learning through simple actions on a single object , two or more objects , symbolic and pretend play , such as in hitting an object , banging blocks and playing with dolls or cars	一個もしくは、二個以上の物品を用いた単純な行為や、象徴遊びや見立て遊びを通して学ぶこと。例えば、物品をたたき、積み木をぶつけ合う、人形や車のおもちゃで遊ぶ。		
d1310	Learning through simple actions with a single object	一個の物品を用いた単純な行為を通しての学習	objectの訳については、ICF及びICF-CY全体で様々な訳が使われていますが、文脈から考えると、ここでは「物品」よりも「もの」や「物」くらいが自然ではないでしょうか。物品とおもちゃという並びは自然ではないので、「物や玩具」とするという手もあるかもしれません。	
	Simple actions on a single object or toy by manipulating , banging , moving , dropping , etc	1個の物品やおもちゃを操作する、ぶつける、動かす、落とすなどの単純な行為(によって学ぶこと)。		
d1311	Learning through actions by relating two or more objects	二個以上の物品を関連づけた行為を通しての学習	objectの訳については、ICF及びICF-CY全体で様々な訳が使われていますが、文脈から考えると、ここでは「物品」よりも「もの」や「物」くらいが自然ではないでしょうか。物品とおもちゃという並びは自然ではないので、「物、玩具」とするという手もあるかもしれません。	
	Simple actions relating two or more objects , toys or other materials without regard for the specific features of the objects , toys or materials	二個以上の物品、おもちゃ、その他の素材を、それらの特徴にはこだわらずに、関連づけて扱う単純な行為(によって学ぶこと)。		

コード	項目	事務局(仮訳)	構成委員からの再意見(検討を要するもの)	備考
d1312	Learning through actions by relating two or more objects with regard to specific features	特徴に注目して二個以上の物品を関連づけた行為を通しての学習	objectの訳については、ICF及びICF-CY全体で様々な訳が使われていますが、文脈から考えると、ここでは「物品」よりも「もの」や「物」くらいが自然ではないでしょうか。物品とおもちゃという並びは自然ではないので、「物、玩具」とするという手もあるかもしれません。	
	Actions relating two or more objects , toys or materials with regard to specific features , e.g. lid on box , cup on saucer	二個以上の物品、おもちゃ、素材の具体的な特徴に注目して、それらを関連づけて扱う行為(によって学ぶこと)。例えば、箱に蓋をすること、皿の上にカップを置くこと。		
d1313	Learning through symbolic play	象徴的遊びを通しての学習	objectの訳については、ICF及びICF-CY全体で様々な訳が使われていますが、文脈から考えると、ここでは「物品」よりも「もの」や「物」くらいが自然ではないでしょうか。物品とおもちゃという並びは自然ではないので、「物、玩具」とするという手もあるかもしれません。	
	Actions relating objects , toys or materials symbolically , such as feeding or dressing for a toy animal or doll	物品、おもちゃ、素材を象徴的に関連づける行為(によって学ぶこと)。例えば、おもちゃの動物や人形に食べさせたり服を着せたりすること。		
d1314	Learning through pretend play	ごっこ遊びを通しての学習		
	Actions involving pretence , substituting a novel object , body part or body movement to enact a situation or event , such as pretending that a block of wood is a car , pretending that a rolled up cloth is a doll	ある状況やできごとを演ずるために、新奇のものや体の一部、体の動きを他のものに置き換えて、見立てて扱う行為(によって学ぶこと)。例えば、積み木を車に見立てたり、巻いた布を人形に見立てること。		
d1318	Learning through actions, other specified	その他の特定の、使うことを通しての学習		
d1319	Learning through actions, unspecified	詳細不明の、使うことを通しての学習		
d132	Acquiring information	情報の獲得	情報の獲得(acquiring=習得と訳するのであればこも統一すべきかと思います)	
	Obtaining facts about persons , things and events , such as asking why , what , where and how , asking for names	人や物やできごとについて事実を知ること。例えば、なぜ、何が、どこで、どうしてと聞いたり、ものの名前を尋ねたりすること。		
	Exclusions : learning concepts (d137) ; acquiring skills (d155)	除かれるもの:概念の習得(d137)、技能の習得(d155)		
d133	Acquiring language	言語の習得	物品→もの?物?	
	Developing the competence to represent persons , objects , events and feelings through words , symbols , phrases and sentences	単語、シンボル、語句・文章を通じて、人や物品、できごと、感情を表現する力を発達させること		
	Exclusions : acquiring additional language (d134) ; communication (d310~d399)	除かれるもの:付加的言語の習得(d134)、コミュニケーション(d310~d399)		
d1330	Acquiring single words or meaningful symbols	単語や意味のあるシンボルの習得		
	Learning words or meaningful symbols , such as graphic or manual signs or symbols	単語あるいは、図形やジェスチャーによる記号・シンボルのような、意味をもつシンボルを学ぶこと。		
d1331	Combining words into phrases	単語を組み合わせて語句にすること(の習得)		
	Learning to combine words into phrases	単語を組み合わせて語句にすることを学ぶこと。		

コード	項目	事務局(仮訳)	構成委員からの再意見(検討を要するもの)	備考
d1332	Acquiring syntax	構文の習得		
	Learning to produce appropriately constructed sentences or set of sentences	適切に組み立てられた文章や、一連の文章を作ることを学ぶこと		
d1338	Acquiring language, other specified	その他の特定の、言語の習得		
d1339	Acquiring language, unspecified	詳細不明の、言語の習得		
d134	Acquiring additional language	付加的言語の習得		
	Developing the competence to represent persons , objects , events , feelings through words , symbols , phrases and sentences , such as in an additional language or signing	単語、シンボル、語句・文章を通じて、人やもの、できごと、感情を表現する力を発達させること。例えば、付加的言語や手話の習得。	もの？物？(d133 整合性)	
	Exclusions : acquiring language (d133) ; communication (d310-d399)	除かれるもの:言語の習得(d133), コミュニケーション(d310~d399)		
d135	Repeating a sequence of events or symbols as a basic component of learning, such as counting by tens or practising the recitation of a rhyme with gestures, counting by tens or practising the recitation of a poem.	学習の基礎的構成要素として、一連の出来事やシンボルを繰り返すこと。例えば、10ごとにまとめて数えること、韻をジェスチャー付きで朗読することの練習、詩の朗読を練習すること。		
	Inclusion : deferred imitation of an action behaviour	含まれるもの:ある行為や行動を後になってから模倣すること。		
d137	Acquiring concepts	概念の習得		
	Developing competence to understand and use basic and complex concepts related to the characteristics of things , persons or events	ものごとや人・できごとの特徴に関する基本的概念や複雑な概念を理解し、使用する力を発達させること		
d1370	Acquiring basic concepts	基本的な概念の習得		
	Learning to use such concepts as size , form , quantity , length , same , opposite	大きさ・形・量・長さ・同じ・反対などの概念を用いることを学ぶこと。		
d1371	Acquiring complex concepts	複雑な概念の習得		
	Learning to use such concepts as classification , grouping , reversibility , seriation	分類・グループ化・可逆性・系列化などの概念を用いることを学ぶこと。		
d1378	Acquiring concepts, other specified	その他の特定の、概念の習得		
d1379	Acquiring concepts, unspecified	詳細不明の、概念の習得		
d140	Developing the competence to read written material (including Braille and other symbols) with fluency and accuracy, such as recognizing characters and alphabets, sounding out written words with correct pronunciation, and understanding words and phrases.	書かれたもの(点字および他のシンボルを含む)を流暢に正確に読む能力を発達させること。例えば、文字を認識すること。書かれた単語を正しい発音で発音すること。単語や句を理解すること。		
d1400	Acquiring skills to recognize symbols including figures, icons, characters, alphabet letters and words	図、画像(アイコン)などのシンボルや文字、単語を認識する技能の習得		
	Learning elementary actions of deciphering letters and symbols , characters , and letters and words	文字・シンボル・漢字などの文字・単語を判読する初歩的な行為を学ぶこと		
d1401	Acquiring skills to sound out written words	書き言葉(単語・語句)を音読する技能の習得		
	Learning elementary actions of sounding out letters , symbols and words	文字・シンボル・単語を音読する初歩的な行為を学ぶこと		

コード	項目	事務局(仮訳)	構成委員からの再意見(検討を要するもの)	備考
d1402	Acquiring skills to understand written words and phrases	書き言葉を理解するための技能の習得		
	Learning elementary actions to grasp the meaning of written words and texts	書かれた単語や文章の意味を把握する初歩的な行為を学ぶこと。		
d1408	Learning to read, other specified	その他の特定の、読むことの学習		
d1409	Learning to read, unspecified	詳細不明の、読むことの学習		
d145	Developing the competence to produce symbols that represent sounds, words or phrases in order to convey meaning (including Braille writing <u>and other symbols</u>), such as spelling effectively and using correct grammar.	意味を伝えるために、音、単語、句を表す記号(点字 <u>およびその他のシンボル</u> を含む)を作る能力を発達させること。例えば、効果的に綴ること、正しい文法を用いること。		
d1450	Acquiring skills to use writing implements	筆記用具を使う技能の習得		
	Learning elementary actions of writing down symbols or letters , such as holding a pencil , chalk or brush , writing a character or a symbol on a of piece paper , using a braille , keyboard or peripheral device (mouse)	シンボルや文字を書く、初歩的な行為を学ぶこと。例えば、鉛筆やチョークや筆を持って、紙に文字やシンボルを書く、点字ライターやキーボードや周辺機器(マウス)を使って書くこと。		
d1451	Acquiring skills to write symbols, characters and alphabet	シンボルや文字を書く技能の習得		
	Learning elementary skills to transpose a sounded or a morpheme into a symbol or a character grapheme	音や形態素をシンボルや文字などの書記素に置き換える初歩的の技能を学ぶこと		
d1452	Acquiring skills to write words and phrases	単語や語句を書く技能の習得		
	Learning elementary skills to transpose spoken words or ideas into written words or phrases	話し言葉や考えを書き言葉や語句に置き換える初歩的な技能を学ぶこと		
d1458	Learning to write, other specified	その他の特定の、書くことの学習		
d1459	Learning to write, unspecified	詳細不明の、書くことの学習		
d1500	Acquiring skills to recognize numerals, arithmetic signs and symbols	数・数学記号・シンボルを認識する技能の習得		
	Learning elementary skills to recognize and use numbers , arithmetic signs and symbols	数・数学記号・シンボルを認識し、使用する初歩的な技能を学ぶこと。		
d1501	Acquiring skills of numeracy such as counting and ordering	数えることや順序づけることなどの数に関する技能の習得		
	Learning elementary skills to acquire the concept of numeracy and concepts of the sets	数の概念やセット(1組、2組などの組)の概念を得るための初歩的な技能を学ぶこと。		
d1502	Acquiring skills in using basic operations	基本的な演算技能の習得		
	Learning arithmetic skills to use operations of addition , subtraction multiplication	足し算、引き算、掛け算の演算をする算術技能を学ぶこと		
d1508	Learning to calculate, other specified	その他の特定の、計算の学習		
d1509	Learning to calculate, unspecified	詳細不明の、計算の学習		
d155	Developing basic and complex competencies in integrated sets of actions or tasks so as to initiate and follow through with the acquisition of a skill, such as manipulating tools or <u>toys</u> or playing <u>games like chess</u> .	技能の習得を開始し、遂行するために、統合された一連の行為や課題について、基本的あるいは複雑な能力を発達させること。例えば、道具やおもちゃを扱うこと、ゲームで遊ぶこと。		
	<u>Exclusions: learning to write (d145) and writing (d170), learning to play (d131)</u>	除かれるもの: 書くことの学習(d145)と書くこと(d170)、遊ぶことの学習(d131)		

コード	項目	事務局(仮訳)	構成委員からの再意見(検討を要するもの)	備考
d1550	Learning elementary, purposeful actions, such as learning to <u>manipulate-wave in response, to use simple tools such as pencils and eating utensils</u> , a pencil or a simple tool.	基本的で目的のある行為の学習。例えば、他の人にとたえてバイバイをすること、鉛筆、食事に用いる箸、ナイフ・フォークなどの簡単な道具の操作を学ぶこと。		
d1551	Learning integrated sets of actions so as to follow rules ; and to sequence and coordinate one's movements, such as learning to play games <u>like(e.g. football or chess) and</u> to use a building tool.	統合された一連の行為を学習することで、規則に従い、自分の動きを順序だてて協調させることができるようになること。例えば、フットボールやチェスなどの試合をすることや、建築用の道具を使うことを学習すること。		
d1600	Focusing attention on the human touch, face and voice	人の感触、顔、声に注意を集中すること		
	Intentionally attending to features of other persons , such as their face , touch or voice	他の人の特徴、例えば、顔や感触、声などに、意図的に注意を払うこと		
d1601	Focusing attention to changes in the environment	環境の変化に注意を集中すること		
	Intentionally attending to some element of the environment , such as changes in the quality , quantity or intensity of physical or social stimuli	環境の何らかの要素、例えば、物的あるいは社会的な刺激の質・量・強さの変化に意図的に注意を払うこと		
d1608	Focusing attention, other specified	その他特定の、注意を集中すること		
d1609	Focusing attention, unspecified	詳細不明の、注意を集中すること		
	Directing attention	注意を向けること		
d161	Intentionally maintaining attention to specific actions or tasks for an appropriate length of time	特定の行為や課題へ、適切な時間の間、意図的に注意を維持すること		
	Exclusions : sustaining attention (b1400) ; undertaking a single task (d210) ; undertaking a complex task (d220)	除かれるもの : 注意の維持(b1400)、単一課題の遂行(d210)、複数課題の遂行(d220)		
d163	Formulating and manipulating ideas, concepts, and images, whether goal-oriented or not, either alone or with others, <u>with types of thinking activities, such as pretending, playing with words,</u> creating fiction, proving a theorem, playing with ideas, brainstorming, meditating, pondering, speculating or reflecting.	目標に向けた、あるいは目標をもたない概念や観念、イメージを、思考活動の様々なタイプで、一人であるいは他人と一緒に形成し操作すること。例えば、 <u>見立てること、言葉遊びをすること</u> 、小説の創作、定理の証明、思い巡らすこと、ブレインストーミング、沈思、熟考、推理、反省。		
	Pretending	見立てること		
d1630	Engaging in make-believe activities involving imaginary persons , places , things or events	想像上の人や場所、もの、できごとについて見立てや「ふり」をすること		
	Speculating	推測すること		
d1631	Manipulating ideas , concepts or images by guessing or assuming something based on incomplete facts or information	不十分な事実や情報をもとに何かを推測し想定し、それによって観念や概念、イメージを操作すること。		
	Hypothesizing	仮定をたてること		
d1632	Manipulating ideas , concepts or images involving the use of abstract thought to state assumptions or to test unproven facts	抽象的思考を利用して、考え、概念、あるいはイメージを操作して、仮定したり、証明されていない事実を吟味したりすること。		
d1638	Thinking, other specified	その他の特定の、思考		
d1639	Thinking, unspecified	詳細不明の、思考		

コード	項目	事務局(仮訳)	構成委員からの再意見(検討を要するもの)	備考
d1660	Using general skills and strategies of the reading process	読む過程に必要な一般的技術や方略(ストラテジー)を用いること		
	Recognizing words by applying phonetic and structural analysis and using contextual cues in reading aloud or in silence	音読や黙読の際に、音声や構成の分析や、文脈上の手がかりを利用することで、単語を認識すること。		
d1661	Comprehending written language	書き言葉を理解すること		
	Grasping the nature and meaning of written language in reading aloud or in silence	音読や黙読の際に、書かれた言語の性質と意味を把握すること。		
d1668	Reading, other specified	その他の特定の、読むこと		
d1669	Reading, unspecified	詳細不明の、読むこと		
d1700	Using general skills and strategies of the writing process	書く過程の一般的技能や方略(ストラテジー)を使うこと		
	Applying words which convey appropriate meaning , employing conventional sentence structure	慣習的な文章構造を用いて、適切な意味を伝える単語を使うこと		
d1701	Using grammatical and mechanical conventions in written compositions	作文を書く時の文法や習慣的な約束事に従うこと		
	Applying standard spelling , punctuation and proper case forms , etc	標準的な綴り、句読点、大文字・小文字の別などを使うこと。		
d1702	Using general skills and strategies to complete compositions	作文を完成させるために一般的技能や方略(ストラテジー)を使うこと		
	Applying words and sentences to convey complex meaning and abstract ideas	複雑な意味や抽象的な考えを伝えるために、単語や文章を使うこと。		
	Exclusion : learning to write (d145)	除かれるもの:書くことの学習(d145)		
d1708	Writing, other specified	その他の特定の、書くこと		
d1709	Writing, unspecified	詳細不明の、書くこと		
d1720	Using simple skills and strategies of the calculation process	計算の過程の簡単な技能や方略(ストラテジー)を使うこと		
	Applying concepts of numeracy , operations and sets to perform calculations	計算するために数、演算、集合の概念を使うこと		
d1721	Using complex skills and strategies of the calculation process	計算に必要な複雑な技能と方略(ストラテジー)を使うこと		
	Applying mathematical procedures and methods such as algebra , calculus and geometry to solve problems	問題を解くために代数、微積分、幾何などの数学的な手順や方法を使うこと		
d1728	Calculating, other specified	その他の特定の、計算		
d1729	Calculating, unspecified	詳細不明の、計算		
d2100	Preparing, initiating and arranging the time and space required for a simple task; executing a simple task with a single major component, such as building a tower , putting on a shoe , reading a book, writing a letter, or making one's bed.	単純な単一の課題を行うのに必要な時間や空間を準備、着手、調整すること。一つの主要な構成要素からなる単純な単一課題を遂行すること。例えば、 積み木で塔をつくること 、 靴をはくこと 、本を読むこと、手紙を書くこと、ベッドを整えること。		
d2101	Preparing, initiating and arranging the time and space for a single complex task; executing a complex task with more than one component, which may be carried out in sequence or simultaneously, such as making up a place for playing , using several toys in make believe play , arranging the furniture in one's home room or completing an assignment for school.	複雑な単一の課題を行うのに必要な時間や空間を準備、着手、調整すること。順次にあるいは同時に行なわれる2つ以上の構成要素からなる複雑な単一の課題を遂行すること。例えば、 遊びの場を設定すること 、 見立て遊びで複数のおもちゃを使うこと 、 部屋の家具を配置すること 、学校の宿題をすること。		

コード	項目	事務局(仮訳)	構成委員からの再意見(検討を要するもの)	備考
d2102	Preparing, initiating and arranging the time and space for a simple or complex task; managing and executing a task on one's own and without the assistance of others, such as in solitary play involving sorting small objects, setting a table or building with blocks.	独力で他者の援助なしに、単純もしくは複雑な単一の課題を行うのに必要な時間や空間を準備、着手、調整すること。例えば、小さな物品の仕分け、テーブルのセット、積み木の積み重ねなどを伴う一人遊びをすること。		
d2103	Preparing, initiating and arranging the time and space for a single task, simple or complex; managing and executing a task with people who are involved in some or all steps of the task, such as playing hide-and-peek, playing cards or board games with rules, or playing instruments together.	単純もしくは複雑な単一の課題を、その一部または全段階を他者と協力しながら行うのに必要な時間や空間を準備、着手、調整すること。例えば、かくれんぼ、ルールのあるトランプや盤上ゲーム(チェスなど)、合奏すること。		
d2104	Completing a simple task	単純な課題の完遂		
	Completing a simple task with a single major component, such as building a tower, putting on a shoe, reading a book, writing a letter, or making one's bed	主要な要素で一つの単純な課題を完遂すること。例えば、積み木で塔を作ること、靴を履くこと、本を読むこと、手紙を書くこと、ベッドを整えること。	d2104-2205 「Completing」の訳: 完遂?、達成? ICF本体のd2302は「達成」としている。(参考)	
d2105	Completing a complex task	複雑な課題の達成		
	Completing a complex task with more than one component, which may be carried out in sequence or simultaneously, such as making up a place for playing, using several toys in make believe play, arranging the furniture in one's room or completing an assignment for school	一つ以上の要素を含む複雑な課題を完遂すること。これは連続して行うことも、同時に行うこともある。例えば、遊びの場を設定すること、ごっこ遊びで複数のおもちゃを使うこと、自分の部屋の家具を配置すること、学校の宿題をすること。		
d2200	Preparing, initiating and arranging the time and space needed for several tasks, and managing and executing several tasks, together or sequentially, such as dressing oneself completely for a cold day or making arrangements for a party.	いくつかの課題を同時あるいは順次に行うのに必要な時間や空間を準備、着手、調整し、またそれらの課題を管理し、遂行すること。例えば、寒い日にしっかりと身支度すること、パーティーの準備をすること。		
d2201	Completing several tasks, together or sequentially, such as getting up and getting ready to leave for school, shopping and completing errands for a friend while shopping.	いくつかの課題を同時または順次に達成すること。例えば、起きて学校へ行く準備をすること、買い物に行き、ついでに友だちに頼まれた用事をする。		
d2302	Carrying out simple or complex and coordinated actions in order to complete the requirements of usual day-to-day procedures or duties, such as fulfilling the daily routines of awakening, getting dressed, eating breakfast, leaving for school or work and returning home at the end of the day.	日々の手続きや義務に必要なことを達成するために、単純な行為または複雑で調整された行為を遂行すること。例えば、朝起きて服を着、朝食をとり、学校や仕事に行き、夕方に家に帰ること。		
d2204	Completing multiple tasks independently	一人での複数課題の完遂		
	Completing multiple tasks independently, such as completing several assignments for homework, giving food and water to pets, setting the table and preparing dinner for the family	一人で、複数の課題を達成すること。例えば、宿題の複数の課題をやり終えること、ペットに餌と水をやること、家族のためにテーブルをセットし、夕食の準備をすること。		
d2205	Completing multiple tasks in a group	グループでの複数課題の達成		
	Completing multiple tasks in a group, such as planning the time and place for a sporting event, inviting participants, securing the necessary sports equipment for participation and arranging transportation to and from the activity	グループで、複数の課題を完遂すること。例えば、スポーツ行事の時間と場所を計画すること、参加者を募ること、参加のために必要なスポーツ用具を確保すること、活動の場までの往復の交通手段を手配すること。		

コード	項目	事務局(仮訳)	構成委員からの再意見(検討を要するもの)	備考
d2300	Following routines	定められた日課に従うこと		
	Responding to the guidance of others in engaging in basic daily procedures or duties	基本的な毎日の手順や職務に従事するにあたって、他人の指導(模範、手本)に応じること		
d2302	Carrying out simple or complex and coordinated actions in order to complete the requirements of <u>usual</u> day-to-day procedures or duties, <u>such as fulfilling the daily routines of awakening, getting dressed, eating breakfast, leaving for school or work and returning home at the end of the day.</u>	日々の手続きや義務に必要なことを達成するために、単純な行為または複雑で調整された行為を遂行すること。例えば、朝起きて服を着、朝食をとり、学校や仕事に行き、夕方に家に帰ること。		
d2304	Managing changes in daily routine	日課の変更の管理		
	Making appropriate transitions in response to new requirements or changes in the usual sequence of activities such as finding another way to travel to school or work when public transport is unavailable	新しい必要性が生じた場合や、通常の活動の順序が変化した場合に対応して、適切な変更をすること。例えば、公共交通が使えない場合に学校や仕事に行く別の経路を見つけること。		
d2305	Managing one's time	自分の時間の管理		
	Managing the time required to complete usual or specific activities, such as preparing to depart from the home, taking medications, and accessing assistive technology and supports	通常の活動や特別の活動のために必要な時間を管理すること。例えば、家から出かける準備をすること、薬を飲むこと、支援的な用具や援助を利用すること		
d2306	Adapting to time demands	時間的要求に従うこと		
	Carrying out actions and behaviours appropriately in the required sequence and within the time allotted, such as running to the station when in danger of missing the train	必要な順序で、与えられた時間内に、適切に行為や行動を実行すること。例えば、電車に乗り遅れそうな時に駅まで走ること		
d240	Carrying out simple or complex and coordinated actions to manage and control the psychological demands required to carry out tasks demanding significant responsibilities and involving stress, distraction, or crises, such as <u>taking exams, driving a vehicle during heavy traffic, putting on clothes when hurried by parents, finishing a task within a time-limit</u> or taking care of <u>many</u> -a large group of children.	責任重大で、ストレス、動揺、危機を伴うような課題の遂行に際して、心理的要求をうまく管理し、統制するために求められる、単純な行為または複雑で調整された行為を遂行すること。例えば、試験を受けること、交通渋滞の中で乗り物を運転すること、親に急がされながら服を着ること、制限時間内に課題をやり終えること、多数の子どもの世話すること。		
d2401	Carrying out simple or complex and coordinated actions to cope with pressure, emergencies or stress associated with task performance, <u>such as waiting for one's turn, reciting in class, systematically looking for lost items and keeping track of time.</u>	課題遂行に関連したプレッシャー、非常事態、ストレスにうまく対処するために求められる、単純な行為または複雑で調整された行為を遂行すること。例えば、自分の番を待つこと、教室で皆の前で朗読すること、失くした物を系統的に探すこと、時間の経過を追うこと。	失くした物を系統的に → 失くした物を順を追って	
d2402	Carrying out simple or complex and coordinated actions to cope with decisive turning points in a situation or times of acute danger or difficulty, <u>such as deciding the proper point at which to ask for help and to ask the right person for help.</u>	急激に起こった危険や困難にさらされた状況や時間において、決定的な転機にうまく対処するために求められる、単純な行為または複雑で調整された行為を遂行すること。例えば、助けを求める適切な時機を判断すること、助けを求めるにふさわしい人を判断すること。		
d250	Managing one's own behaviour	自分の行動の管理		
	Carrying out simple or complex and coordinated actions in a consistent manner in response to new situations, persons or experiences, such as being quiet in a library	新しい状況や人、経験に合った一貫したやり方で、単純な行為または複雑で調整された行為を遂行すること。例えば、図書館で静かにしていること。		

コード	項目	事務局(仮訳)	構成委員からの再意見(検討を要するもの)	備考
d2500	Accepting novelty	新奇のものを受け入れること		
	Managing behaviour and expression of emotions in an appropriate accepting response to novel objects or situations	新規のものや状況に対して、適切な受容的な態度で行動や感情表現を管理すること。		
d2501	Responding to demands	要求に応えること		
	Managing behaviour and expression of emotions in an appropriate manner in response to actual or perceived expectations or demands	実際の、あるいは察知した相手の期待や要求に対して、適切な態度で行動や感情表現を管理すること。		
d2502	Approaching persons or situations	人や状況への接近		
	Managing behaviour and expression of emotions in an appropriate pattern of initiating interactions with persons or in situations	人や状況との相互作用をはじめののに適した仕方 で、行動や感情表現を管理すること。		
d2503	Acting predictably	予想可能な行動をすること		
	Managing behaviour and expression of emotions in a pattern of consistent effort in response to demands or expectations	要求や期待に対応して、首尾一貫した努力の仕方 で行動や感情表現を管理すること。		
d2504	Adapting activity level	活動水準を適合させること		
	Managing behaviour and expression of emotions with a pattern and level of energy appropriate to demands or expectations	要求や期待に合った適切なやり方や活力水準で行動 や感情表現を管理すること。		
d2508	Managing one's own behaviour, other specified	その他の特定の、自分の行動の管理		
d2509	Managing one's own behaviour, unspecified	詳細不明の、自分の行動の管理		
d310	Comprehending literal and implied meanings of messages in spoken language, such as understanding that a statement asserts a fact or is an idiomatic expression, such as responding and comprehending spoken messages.	話し言葉(音声言語)のメッセージに関して、字句通りの意味や言外の意味を理解すること。例えば、言明が事実を述べるものか、慣用表現かを理解すること。 例えば、話し言葉のメッセージに反応することや、理解すること。		
d3100	Responding to the human voice	人の声への反応		
	Responding to the human voice in a very basic manner reflected by changes in breathing patterns, or with gross or fine body movements	呼吸パターンの変化や、大きな、あるいは微妙な体の動きのような、ごく基本的なかたちで人間の声に反応すること。		
d3101	Comprehending simple spoken messages	簡単な話し言葉の理解		
	Responding appropriately in actions or with words to simple spoken messages (2-3words) such as requests (e.g. give me) or commands (e.g. no, come here)	要求(例:「ちょうだい」)や命令(例:「だめ」、「こっちにおいで」)などの簡単な話し言葉(2-3語)に、行為や言葉で適切に応えること。		
d3102	Comprehending complex spoken messages	複雑な話し言葉の理解		
	Responding appropriately in actions or with words to complex spoken messages (complete sentences), such as questions or instructions	質問や指示のような複雑な話し言葉(完全な文章)に、行為や言葉で適切に応えること。		
d3108	Communicating with - receiving - spoken messages, other specified	その他の特定の、話し言葉の理解		
d3109	Communicating with - receiving - spoken messages, unspecified	詳細不明の、話し言葉の理解		
d3152	Comprehending the meaning represented by drawings (e.g. line drawings, graphic designs, paintings, three-dimensional representations, pictograms), graphs, charts and photographs, such understanding that an upward line on a height chart indicates that a child is growing.	絵(例えば、線画、グラフィックデザイン、絵画、三次元表示、 絵文字 、 象形文字 など)、グラフ、表、写真によって表される意味を理解すること。例えば、身長表の上向き線は子どもの成長を表すことを理解すること		

コード	項目	事務局(仮訳)	構成委員からの再意見(検討を要するもの)	備考
d331	Pre-talking	言語以前の発語(喃語の表出)		
	Vocalizing when aware of another person in the proximal environment , such as producing sounds when the mother is close ; babbling ; babbling in turn-taking activities	近くに人がいることに気づくと声を出すこと。例えば、母親が近づくと声を立てるなど。片言を言う; 相手とのやりとりに伴って片言を言う		
	Vocalizing in response to speech through imitating speech-sounds in a turn taking procedure	相手とのやりとりで、話し言葉に応じて、語音をまねして声を出すこと。		
d332	Singing	歌うこと		
	Producing tones in a sequence resulting in a melody or performing songs on one's own or in a group	一人あるいは集団で、旋律になるように楽音を連続して発することや、歌を歌うこと。		
d3350	Conveying meaning messages by intentional movements of the body, such as facial gestures (e.g. smiling, frowning, wincing), by arm and hand movements, and by postures (e.g. such as embracing to indicate affection), or pointing to receive attention or an object).	顔のジェスチャー(例えば、笑顔、しかめ面、困り顔)、腕と手の動きと姿勢などの意図的な身体の動き(例えば、愛情を示すための抱擁や人の注意を引くために指すこと、ものを指すこと)によってメッセージを伝えること。		
d350	Starting, sustaining and ending an interchange of thoughts and ideas, carried out by means of spoken, written, sign or other forms of language, with one or more people persons one knows or who are strangers, in formal or casual settings.	話し言葉(音声言語)、書き言葉、記号、その他の方法の言語を用いて行われる、考えやアイデアの交換を開始し、持続し、終結すること。公的場面や日常生活の場面で、知り合いまたはよく知らない人と、1人または複数の人とで行われる。		
d3500	Beginning a dialogue or an interchange, such as <u>initiating turn-taking activity through eye-contact or other means, that leads to communication or dialogue, such as</u> by introducing oneself, expressing customary greetings, and or by introducing a topic or asking questions.	例えば、アイコンタクトなどの方法で相手とのやりとりをはじめ、それがコミュニケーションや対話になるようなかたちで、人との交流を開始すること。例えば、自己紹介、慣習的な挨拶、話題の導入、質問すること。		
d3501	Continuing and shaping a dialogue or an interchange by <u>taking turns in vocalizing, speaking or using sign or shaping a dialogue by</u> adding ideas, introducing a new topic or retrieving a topic that has been previously mentioned, as well as by taking turns in speaking or signing .	交互に声を出したり、話したり、身振りをしたりすることで意見交換を継続したり、アイデアを加えたり、新たな話題を導入したり、既に言及された話題に戻ったりすることで対話を形成すること。		
d3502	Finishing a dialogue or an interchange <u>or dialogue</u> with customary termination statements or expressions and by bringing closure to the topic under discussion.	意見交換や対話を終わらせること。慣習的な終結の辞や表現や、討議中の話題を終結することによる。		
d3503	Initiating, maintaining, shaping and terminating a dialogue or an interchange <u>or dialogue</u> with one person, such as in <u>pre-verbal or verbal play, vocal or verbal exchange between mother and child, or in</u> discussing the weather with a friend.	1人の人と、意見交換や対話を開始し、持続し、形成し、終結すること。例えば、母と子の間での、言語以前の遊び、ことばによる遊びの、声または言葉での意思交換、または友人と天気について話すこと。	母子間での、前言語あるいは言語的遊び、発声または言語でのやりとり(このままでも間違いではありませんが、子どもの療育を行っている立場としては、pre-verbalは前言語と訳した方がしっくりきます)。ことば→言葉	
d3504	Initiating, maintaining, shaping and terminating a dialogue or an interchange <u>or dialogue</u> with more than one individual, such as <u>in-by</u> starting and participating in a group interchange <u>(e.g. in playing table games, in class discussion in school, or in informal or formal discussions)</u> .	2人以上の人と、意見交換や対話を開始し、持続し、形成し、終結すること。例えば、グループでの意見交換(例えば、机上のゲーム、学校でのクラス討論、非公式または公式の討論)を開始し、参加すること。		
d3600	Using telephones and other machines, such as facsimile or telex machines <u>or computers (e-mail)</u> as a means of communication.	コミュニケーションの手段として、電話やその他の用具を用いること。例えば、ファックスやテレックス、コンピューター(電子メール)を使用すること。		

コード	項目	事務局(仮訳)	構成委員からの再意見(検討を要するもの)	備考
d410	Getting into and out of a body position and moving from one location to another, such as rolling from one side to the other , sitting , standing , getting up out of a chair to lie down on a bed, and getting into and out of positions of kneeling or squatting.	ある姿勢になること。ある姿勢をやめること。ある位置から他の位置への移動。例えば、寝返り、 座ること 、 立つこと 、椅子から立ち上がってベッドに横になること。ひざまずいたり、しゃがむことやその姿勢をやめること。		
d4107	Rolling over	寝返り		
	Moving the body from one position to another while lying , such as turning from side to side or from stomach to back	横たわったまま、ある位置から他の位置に体を動かすこと、例えば、一方の側から他の側へ、また腹ばいから上向きになること。		
d4155	Maintaining head position	頭位の保持		
	Controlling the position of the head and supporting its weight for a determined period of time	頭の位置を調節し、一定時間それを保持すること。		
d430	Raising up object or taking something from one placd to another, such as when lifting a cup or toy , or carrying a box or a child from mne room to another.	カップやおもちゃを持ち上げたり、 箱 や子どもをある部屋から別の部屋へ運ぶ時のように、物品を持ち上げること、ある場所から別の場所へと物を持っていくこと。		
d4302	Taking or transporting an object from one place to another using the arms and hands, such as when carrying a pet or a child or other large object .	ペット 、子どもやその他の大きな物品を運ぶことのように、腕と手を使って、物品のある場所から別の場所へと持っていき、あるいは移動させること。		
d4303	Taking or transporting an object from one place to another using the shoulders, hip or back, or some combination of these, such as when carrying a large parcel or school-bag .	大きな荷物や スクールバッグ を運ぶことのように、肩、腰、背を使って、物品のある場所から別の場所へと持っていき、あるいは移動させること。		
d4402	Using fingers and hands to exert control over, direct or guide something, such as when handling coins or other small objects, cutting with scissors , tying a shoelace , filling in colouring books , or using chopsticks or knife and fork .	コインや小さな物品を扱うこと、 はさみで切る こと、 靴紐を結ぶ こと、 塗り絵を塗る こと、 箸やナイフやフォーク を使うなどのように、手指と手を使って物品をあやつること。	d4402-d4450 物体→もの？物？	
d4403	Using fingers and hands to let go or set free something so that it falls or changes position, such as when dropping an item of clothing or a piece of food for a pet .	衣類や ペット用フード を落とすことのように、落としたり、位置を変化させるために、手指と手を使って物品を離すこと。		
d4450	Using fingers, hands and arms to bring an object towards oneself or to move it from place to place, such as when pulling a string or closing a door . closed .	紐を引っ張ったり 、 ドアを閉める ことのように、手指や手、腕を使って、物品を自分の方向に引きよせたり、ある場所から他の場所へと動かすこと。		
d4451	Using fingers, hands and arms to move something from oneself or to move it from place to place, such as when pushing a toy or an animal away.	おもちゃ や動物を押しつける時のように、手指や手、腕を使って、物を自分から遠ざける方向に動かしたり、ある場所から他の場所へと動かすこと。		
d4453	Using fingers, hands and arms to rotate, turn or bend an object, such as is required to use tools or brush one's teeth or wash utensils	手指や手や腕を使って、物を回したり、裏返したり、曲げたりすること。例えば、 歯磨き したり、 はし・ナイフ・フォーク類 を洗うこと。	もの？物？	
d446	Fine foot use	細やかな足の使用		
	Performing the coordinated actions to move or manipulate objects using one's foot and toes	足や足の指を用いて、物品を動かしたり操作したりといった協調性のある行為を遂行すること。		

コード	項目	事務局(仮訳)	構成委員からの再意見(検討を要するもの)	備考
d455	Inclusions: crawling, climbing, running, jogging, jumping, and swimming, <u>scooting, rolling and shuffling</u>	含まれるもの:這うこと, 登り降りすること, 走ること, ジョギングすること, 跳ぶこと, 水泳, すべること, <u>ころがること, ずり足歩行</u> .		
d4555	Scooting and rolling	滑ることと転がること		
	Propelling the whole body from one place to another in a sitting or lying position without rising from the floor	床から立ち上がりせず, 座位や臥位のままで, ある場所から別の場所へと移動すること		
d4556	Shuffling	ずり足歩行		
	Propelling the whole body from one place to another using legs but not lifting the feet off the floor or ground	下肢を使うが, 足底を床や地面から離さないで, ある場所から別の場所へと移動すること		
d465	Moving the whole body from place to place, on any surface or space, by using specific devices designed to facilitate moving or create other ways of moving around, such as with skates, or skis, scuba equipment, <u>swim fins</u> , or moving down the street in a wheelchair or a walker.	移動を容易にしたり, ふつうと違う移動方法を可能にするように設計された特別な用具を用いて, ある場所から別の場所へとどのような歩行面や空間であろうと, 全身を移動させること。例えば, スケート, スキー, スキューバダイビング用具, <u>水泳用のフィン</u> などを使っての移動, 車椅子や歩行器を使って通りを移動すること。		
d470	Using transportation to move around as a passenger, such as being driven in a car or on a bus, rickshaw, jitney, <u>pram or stroller</u> , animal-powered vehicle, or private or public taxi, bus , train, tram, subway, boat or aircraft.	移動のために, 乗客として交通機関や手段を用いること。例えば, 自動車, バス, 人力車, ミニバス, <u>ベビーカー</u> , 動物の力による乗り物, 私的なあるいは公共のタクシー, 電車, 路面電車, 地下鉄, 船や飛行機に乗ること。		
d4700	Being transported as a passenger by a mode of transportation powered by one or more people, such as riding in a <u>pram, stroller</u> , rickshaw or rowboat.	乗客として, 人力による交通手段を利用して移動すること。例えば, <u>ベビーカー</u> , 人力車や手こぎ舟に乗ること。		
d4703	Using humans for transportation	交通手段としての人の利用		
	Being transported by another person , such as in a sheet , a backpack or a transportation device	他の人によって移動すること。例えば, シーツにくるんだり, 背負ったり, 移動用具を使ったりして		
d520	Inclusions: caring for skin, teeth, hair, finger and toe nails <u>,and nose</u>	含まれるもの:皮膚, 歯, 頭髪と髭, 手足の爪, <u>鼻の手入れ</u> 。		
d5205	Caring for nose	鼻の手入れ		
	Cleaning the nose , looking after nasal hygiene	鼻を清潔にし, 鼻の衛生に気をつけること		
d530	<u>Planning</u> <u>Indicating the need for, planning</u> and carrying out the elimination of human waste (menstruation, urination and defecation), and cleaning oneself afterwards.	排泄(生理, 排尿, 排便)の <u>必要性を表出し</u> , 遂行するとともに, その後清潔にすること。		
d53000	Indicating need for urination	尿意の意思表示		
d53001	Carrying out urination appropriately	排尿の適切な遂行		
d53008	Regulating urination, other specified	その他の特定の, 排尿の管理		
d53009	Regulating urination, unspecified	詳細不明の, 排尿の管理		
d53010	Indicating need for defecation	便意の意思表示		
d53011	Carrying out defecation appropriately	排便の適切な遂行		
d53018	Regulating defecation, other specified	その他の特定の, 排便の管理		

コード	項目	事務局(仮訳)	構成委員からの再意見(検討を要するもの)	備考
d53019	Regulating defecation, unspecified	詳細不明の、排便の管理		
d550	Carrying out eating appropriately	提供された食べ物への必要性を表出し、手際よく口に運び、文化的に許容される方法で食べる。例えば、食べ物を細かく切る、砕く、瓶や缶を開ける、はしやフォークなどを使う、食事をとる、会食をする、正餐をとること。		
d5500	Indicating need for eating	食べることの必要性の意思表示		
d5501	Carrying out eating appropriately	食べることの適切な遂行		
d5508	Eating, other specified	その他の特定の、食べること		
d5509	Eating, unspecified	詳細不明の、食べること		
d560	Taking hold of a drink, bringing it to the mouth and consuming the drink in culturally acceptable ways; mixing, stirring and pouring liquids for drinking, opening bottles and cans, drinking through a straw or drinking running water, such as from a tap or a spring; feeding from the breasts	文化的に許容される方法で、飲むことの必要性を表出し、飲み物の容器を取り、口に運び、飲むこと。飲み物を混ぜる、かきまぜる、注ぐ、瓶や缶を開ける、ストローを使って飲む、蛇口や泉などの流水から飲む、母乳を飲むこと。		
d5600	Indicating need for drinking	飲むことの必要性の意思表示		
d5601	Carrying out breast feeding	母乳を吸うこと		
d5601	Successfully suckle breast for milk and appropriate behaviours and interactions with caregiver, such as eye contact, indicating need and satiation	乳房からうまく吸い、授乳者と適切な行動で交流すること。例えば、アイコンタクト、必要性や満足を示すこと。		
d5602	Carrying out feeding from bottle	哺乳瓶からのミルクを吸うこと		
d5602	Successfully suckle from a bottle for milk or other liquid and appropriate behaviours and interactions with caregiver, such as eye contact, indicating need and satiation	ミルク等の液体を哺乳瓶から上手く吸い、授乳者と適切な行動で交流すること。例えば、アイコンタクト、必要性や満足を示すこと。		
d5608	Drinking, other specified	その他の特定の、飲むこと		
d5609	Drinking, unspecified	詳細不明の、飲むこと		
d570	Ensuring or indicating needs about physical comfort, health and physical and mental well-being, such as by maintaining a balanced diet and an appropriate level of physical activity, keeping warm or cool, avoiding harm to health, following safe sex practices, including using condoms, getting immunizations and regular physical examinations.	身体的快適性や健康および身体的・精神的な安寧を確保し、またはその必要性を表出すること。例えば、バランスのとれた食事をとること。適切なレベルの身体的活動を維持すること。適切な温度を保持すること。健康を害するものを避けること。コンドームの使用などによる安全な性生活を行うこと。予防接種を受けること。定期的な健康診断を受けること。		
d5702	Caring for oneself by being aware of the need and doing what is required to look after one's health, both to respond to risks to health and to prevent ill-health, such as by seeking caregiver or professional assistance; following medical and other health advice; and avoiding risks to health such as physical injury, communicable diseases, drug-taking and sexually transmitted diseases.	健康上のリスクへの対応と疾病の予防のために必要なことを行う必要性を意識した上で、自己のケアをすること。例えば、養育者や専門家の助力を求めること。医療上その他の健康上の助言に従うこと。けがや感染症、薬物使用、性感染症などの健康上のリスクを回避すること。		
d57020	Managing medications and following health advice	服薬をきちんと行ったり健康上の助言に従うこと		
d57021	Seeking advice or assistance from caregivers or professionals	養育者や専門家の助言や助力を求めること		
d57022	Avoiding risks of abuse of drugs or alcohol	薬物やアルコールの乱用のリスクを回避すること		
d57028	Maintaining one's health, other specified	その他の特定の、健康の維持		
d57029	Maintaining one's health, unspecified	詳細不明の、健康の維持		

コード	項目	事務局(仮訳)	構成委員からの再意見(検討を要するもの)	備考
d571	Looking after one's safety	安全に注意すること		
	Avoiding risks that can lead to physical injury or harm	身体的な損傷や危害を起こすおそれのあるリスクを避ける。		
	Avoiding potentially hazardous situations such as misusing fire or running into traffic	火をいたずらしたり、車の前に飛び出したりするような危険を避けること。		
d610	Buying, renting, furnishing and arranging a <u>room</u> , house, apartment or other dwelling.	部屋や家やアパート、その他の住宅を購入あるいは賃借し、家具調度を整えること。		
d6102	Equipping and arranging a living space with furniture, fixtures and other fittings and decorating rooms, <u>arranging one's own space</u> , <u>room</u> .	家具や設備、その他の部屋を装飾する備品を住居に据え付け、部屋を装飾すること。 <u>自分自身の空間や部屋をととのえること。</u>		
d620	Selecting, procuring and transporting all goods and services required for daily living, such as selecting, procuring, transporting and storing food, drink, clothing, cleaning materials, fuel, household items, utensils, cooking ware, <u>play-material</u> , domestic appliances and tools; procuring utilities and other household services.	日々の生活に必要な全ての物品とサービスを選択し、入手し、運搬すること。例えば、食料、飲み物、衣服、清掃用具、燃料、家庭用品、用具、台所用品、 <u>遊び道具</u> 、調理用品、家庭用器具、道具を選択し、入手し、運搬し、貯蔵すること。公益サービスやその他の家庭生活を支援するサービスを入手すること。		
d6200	Obtaining, in exchange for money, goods and services required for daily living (including instructing and supervising an intermediary to do the shopping), such as selecting food, drink, cleaning materials, household items, <u>play-material</u> or clothing in a shop or market; comparing quality and price of the items required, negotiating and paying for selected goods or services, and transporting goods.	代金を支払い、日々の生活に必要な物品とサービスを手に入れること(仲介者に買い物をするよう指導や監督することを含む)。例えば、店や市場で食料、飲み物、清掃用具、家庭用品、 <u>遊び道具</u> 、衣服を選択すること。必要な物品の質や価格を比較すること。選択した物品、サービス、支払い交渉と支払い、物品の運搬。		
d6302	Helping prepare meals	食事の準備の手伝い		
	Working with others in planning , organizing , cooking and serving simple and complex meals for oneself and others , with someone else in charge	他の人の指示に従って、自分や他人のための簡単なあるいは手の込んだ食事を、他の人々とともに計画し、準備し、調理し、配膳すること。		
d6406	Helping to do housework	食事の準備以外の家事の手伝い		
	Working with others in planning , organizing and managing a household , with someone else in charge	他の人の指示に従って、他の人々とともに食事の準備以外の家事を計画し、準備し、管理すること。		
d650	Maintaining and repairing household and other personal objects, including <u>play-material</u> , house and contents, clothes, vehicles and assistive devices, and caring for plants and animals, such as painting or wallpapering rooms, fixing furniture, repairing plumbing, ensuring the proper working order of vehicles, watering plants, grooming and feeding pets and domestic animals.	家庭用品およびその他の個人用品を維持し、補修すること。その家庭用品等には、 <u>遊び道具</u> 、家とその内部、衣服、乗り物、福祉用具や、植物と動物の世話を含む。例えば、部屋の壁のペンキ塗り、壁紙貼り、家具の配置。配管の修理。乗り物が正常に動く状態に保っておくこと。植物の水やり、ペットと家畜の毛づくろいや餌をあげること。		
d6507	Helping to care for household objects	家庭用品の管理の手伝い		
	Working with others in maintaining and repairing household and other personal objects , with someone else in charge	他の人の指示に従って、他の人々とともに家庭用品およびその他の個人用品を維持し、補修すること。		
d6508	Caring for household objects, <u>other</u> specified	<u>その他の特定の</u> 、家庭用品の管理		
d660	Assisting household members and others with their learning, communicating, self-care, movement, within the house or outside; being concerned about, <u>or drawing other's attention to</u> , the well-being of household members and others.	家族や他人の学習、コミュニケーション、セルフケア、移動を、家の内外で援助したり、安寧を気遣ったり、それに他の人の注意を向けること。		

コード	項目	事務局(仮訳)	構成委員からの再意見(検討を要するもの)	備考
d6606	Helping in assisting others	他者の援助への手伝い		
	Helping in the provision of assistance to household members and others with self-care, communication, movement, interpersonal relations, nutrition and health maintenance, with someone else in charge	他の人の指示に従って、家族や他人のセルフケア、コミュニケーション、移動、対人関係、栄養摂取、健康維持への援助の提供を行えること。		
d71040	Initiating social interactions	社会的な対人関係の開始		
	Initiating and responding appropriately in reciprocal social exchange with others	他の人との相互的な社会的な交流を適切に開始したり対応したりすること。		
d71041	Maintaining social interactions	社会的な対人関係の維持		
	Regulating behaviours to sustain social exchanges	社会的な交流関係を継続するための行動の制御。		
d71048	Social cues in relationships, other specified	その他の特定の、対人関係における合図		
d71049	Social cues in relationships, unspecified	詳細不明の、対人関係における合図		
d7106	Differentiation of familiar persons	親しい人々の判別		
	Showing differential responses to individuals, such as by reaching out for the familiar person and differentiating them from strangers	人によって違った反応をすること。例えば、親しい人には手をのばし、知らない人と区別すること。		
d720	Inclusions: <u>playing with others</u> , forming and terminating relationships; regulating behaviours within interactions; interacting according to social rules; and maintaining social space	含まれるもの: <u>他の人と遊ぶこと</u> , 対人関係の形成や終結, 対人関係における行動の制御。社会的ルールに従った相互関係あるいは社会的空間の維持。		
d730	Engaging in temporary contacts and links with strangers for specific purposes, such as when asking for <u>information</u> , directions or making a purchase.	ある特定の理由があって、一時的によく知らない人と接触したり、遭遇すること。例えば、なんらかの情報や道を尋ねたり、物を買うこと。		
d740	Creating and maintaining specific relationships in formal settings, such as with <u>teachers</u> , employers, professionals or service providers.	公的な状況(教師、雇用主、専門家、サービス提供者との関係)において、特定の関係をつくり保つこと。		
d810	Learning at home or in some other non-institutional setting, such as learning crafts and other <u>acquiring non-academic (e.g. crafts) or academic (e.g. home-schooling)</u> skills from parents or family members, or home schooling -member in home or community.	家庭やその他の非制度的な環境での学習。例えば、学業以外(例: 工芸)の、あるいは学業(例: 家庭学習)の技術を親や家族から家庭やコミュニティで学ぶこと。		
d815	Learning at an initial level of organized instruction → <u>in the home or in the community</u> , designed primarily to introduce a child to the a school-type environment and prepare it <u>the child</u> for compulsory education, such as by acquiring skills in a day-care or similar setting as in preparation for advancement to school (e.g. educational services provided in the home or in community settings designed to promote health and cognitive, motor, language and social development and readiness skills for formal education).	子どもを学校型環境へと導入し、義務教育の準備をするために主として作られた、 <u>家庭やコミュニティでの組織的な初歩レベルの教育</u> で学ぶこと。例えば、就学の準備として、保育所または同様の環境(例: 家庭やコミュニティでの教育サービスで、健康や認知、運動、言語、社会的発達や初等教育への準備となる技能の促進に向けたもの)で技能を獲得することを通じて。		
d8150	Moving into preschool educational programme or across levels	就学前教育への入学		
	Performing activities involved in gaining access to preschool education	就学前教育に入るのに必要な活動を行うこと。		
	Maintaining preschool educational programme	就学前教育の履修に必要なこと		

コード	項目	事務局(仮訳)	構成委員からの再意見(検討を要するもの)	備考
d8151	Performing activities involved in maintaining participation in preschool education programme activities , such as attending classes , interacting appropriately with peers and teachers , and fulfilling the duties and requirements of being a student	就学前教育への参加を継続するのに必要な活動を行うこと。例えば、授業に出席する、仲間や教師と適切に交流する、生徒としての義務や、求められていることを実行すること。		
d8152	Progressing in preschool educational programme Performing activities involved in completing a programme requirement or another evaluation process relevant to obtaining a preschool education	就学前教育内容の習得 就学前教育の習得に関連する履修要項やその他の評価過程を完了するのに必要な活動を行うこと。		
d8153	Terminating preschool educational programme Leaving preschool educational programme in an appropriate manner to enter the next level of school education	就学前教育の終了 次のレベルの学校教育に入るため、就学前教育を適切に終了すること。	修了？(学校教育の範囲、ある課程を全うした終わりの場合とするならば修了が一般的なように思います。	
d8158	Preschool education, other specified	その他の特定の、就学前教育		
d8159	Preschool education, unspecified	詳細不明の、就学前教育		
d816	Preschool life and related activities Engaging in preschool life and related activities , such as excursions and celebrations	就学前教育時の生活や課外活動 就学前教育時の生活や課外活動(例:遠足や行事)に関与すること。		
d820	Gaining admission to school, <u>education</u> : engaging in all school-related responsibilities and privileges and ; learning the course material, subjects and other curriculum requirements in a primary or secondary education programme, including attending school regularly and working cooperatively with other students, taking direction from teachers, organizing, studying and completing assigned tasks and projects, and advancing to other stages of education.	学校、教育機関へ入学し、学校に関連した責任や権利に関与し、初等・中等教育プログラムにおいて、課程や教科、その他のカリキュラムで要求されることを学ぶこと。例えば、学校に規則正しく通うこと。他の生徒と協同して学ぶことや、先生から指導を受けること。割り当てられた課題や学習課題を調整したり、勉強したり、成し遂げること。教育の別の段階へ進むこと。	追加の訳が見あたらない。(ICF本体のままの訳)	
d8200	Moving into educational programme or across levels Performing activities involved in gaining access to school and transitioning from one stage of school to another	学校教育への就学・進学・進級 学校教育に就学し、また学校教育のある段階から次の段階へと移るのに必要なことを行うこと		
d8201	Maintaining educational programme Performing activities involved in maintaining participation in school and school activities , such as attending classes , interacting appropriately with peers and teachers , and fulfilling the duties and requirements of being a student	学校教育の履修に必要なこと 学校と学校活動への参加を継続するのに必要なことを行うこと。例えば、授業に出席する、仲間や教師と適切に交流する、生徒としての義務や、求められていることを実行すること	「学校教育での履修に必要な諸活動の遂行」 参加？履修？(d8251,d8301 整合性)	
d8202	Progressing in educational programme Performing activities involved in completing a course requirement , exam or another evaluation process relevant to obtaining an education	学校教育の内容の習得 学校教育の修得に関連する履修要項や、試験、その他の評価過程を完了するのに必要な活動を行うこと。		
d8203	Terminating educational programme or school levels Leaving school in an appropriate manner to enter the next level of school education , work , employment or other domains of adult life	学校教育または学校レベルの修了 次のレベルの学校教育、仕事、雇用、その他の成人生活の領域に入るため、適切に学校を卒業すること。		
d8208	School education, other specified	その他の特定の、学校教育		
d8209	School education, unspecified	詳細不明の、学校教育		

コード	項目	事務局(仮訳)	構成委員からの再意見(検討を要するもの)	備考
d8250	Moving into vocational training programme or across levels	職業訓練の開始・進級		
	Performing activities involved in gaining access to vocational training and transitioning from one stage of vocational training to another	職業訓練に入り, また職業訓練の一つの段階から次の段階へと移行するのに必要なことを行うこと。		
d8251	Maintaining vocational training programme	職業訓練プログラムの履修に必要なこと	「職業訓練プログラムの履修に必要な諸活動の遂行」	
	Performing activities involved in maintaining participation in vocational training activities , such as attending classes , interacting appropriately with peers and teachers , and fulfilling the duties and requirements of being a student	職業訓練の活動への参加を継続するのに必要なことを行うこと。例えば, 授業に出席する, 仲間や教師と適切に交流する, 生徒としての義務や求められていることを実行すること	上記を採用すると, 「参加」ではなく「履修」となります。	
d8252	Progressing in vocational training programme	職業訓練プログラムの内容の習得		
	Performing activities involved in completing a course requirement , exam or another evaluation process relevant to obtaining vocational training	職業教育の受講に関連する履修要項や, 試験, その他の評価過程を完了するのに必要な活動を行うこと		
d8253	Terminating vocational training programme	職業訓練の終了		
	Leaving vocational training programme in an appropriate manner to enter the next level of school education , work , employment or other domains of adult life	次のレベルの学校教育, 労働(雇用以外), 雇用, その他の成人生活の領域に入るため, 職業訓練を適切にすること。	修了?(学校教育の範囲, ある課程を全うした終わりの場合とするならば修了が一般的なように思います。	
d8258	Vocational training, other specified	その他の特定の, 職業訓練		
d8259	Vocational training, unspecified	詳細不明の, 職業訓練		
d8300	Moving into higher education or across levels	高等教育への進学・進級		
	Performing activities involved in gaining access to higher education and transitioning from one stage of higher education to another	高等教育に入り, また高等教育の一つの段階から次の段階へと移行するのに必要なことを行うこと		
d8301	Maintaining higher education programme	高等教育の履修に必要なこと	こと→諸活動の遂行(d8201,d8251 整合性)	
	Performing activities involved in maintaining participation in higher education activities , such as attending classes , interacting appropriately with peers and teachers , and fulfilling the duties and requirements of being a student	高等教育への参加を継続するのに必要なことを行うこと。例えば, 授業に出席する, 教師や仲間と適切に交流する, 学生として必要な義務や求められていることを実行すること	参加?履修?(d8201,d8251 整合性) 教師や仲間→仲間や教師(d8201,d8251 整合性)	
d8302	Progressing in higher education programme	高等教育内容の習得		
	Performing activities involved in completing a course requirement , exam or another evaluation process relevant to obtaining higher education	高等教育の取得に関連する履修要項, 試験, あるいはその他の評価過程を完了するのに必要な活動を行うこと		
d8303	Terminating higher education programme	高等教育の終了		
	Leaving higher education in an appropriate manner to enter the next level of school education , work , employment or other domains of adult life	次のレベルの学校教育, 仕事, 就職その他の成人生活の領域に入るため, 高等教育を適切に終了すること。	修了?(学校教育の範囲, ある課程を全うした終わりの場合とするならば修了が一般的なように思います。	
d8308	Higher education, other specified	その他の特定の, 高等教育		
d8309	Higher education, unspecified	詳細不明の, 高等教育		
d835	School life and related activities	学校生活や関連した活動		
	Engaging in aspects of school life and school-related associations , such as student council and student officer	学校生活や学校に関連した団体による活動。例えば児童生徒会活動や児童生徒会の役員。		

コード	項目	事務局(仮訳)	構成委員からの再意見(検討を要するもの)	備考
d880	Engagement in play	遊びへの取組	遊びにたずさわること	
	Purposeful , sustained engagement in activities with objects , toys , materials or games , occupying oneself or with others	もの、おもちゃ、材料、ゲームを使った活動に、ひとりや、他の人とともに、目的を持って持続的にたずさわること。		
d8800	Solitary play	一人遊び		
	Occupying oneself in purposeful , sustained engagement in activities with objects , toys , materials or games	一人で目的を持って、もの、おもちゃ、材料、あるいはゲームを使った活動に持続的にたずさわること		
d8801	Onlooker play	傍観的遊び		
	Occupying oneself by purposeful observation of the activities of others with objects , toys , materials or games , but not joining in their activities	他の人が物品、おもちゃ、材料、ゲームを使って行う遊びに自分は加わらないが、それを目的を持って観察すること。	objectの訳については、ICF及びICF-CY全体で様々な訳が使われていますが、文脈から考えると、ここでは「物品」よりも「もの」や「物」くらいが自然ではないでしょうか。物品とおもちゃという並びは自然ではないので、「物、玩具」とするという手もあるかもしれません。	
d8802	Parallel play	平行遊び		
	Engaging in purposeful , sustained activities with objects , toys , materials or games in the presence of other persons also engaged in play , but not joining in their activities	他の人も遊んでいるそばで、それには加わずに、物品、おもちゃ、材料、ゲームを使った活動に目的を持って持続的にたずさわること	objectの訳については、ICF及びICF-CY全体で様々な訳が使われていますが、文脈から考えると、ここでは「物品」よりも「もの」や「物」くらいが自然ではないでしょうか。物品とおもちゃという並びは自然ではないので、「物、玩具」とするという手もあるかもしれません。	
d8803	Shared cooperative play	共同遊び		
	Joining others in sustained engagement in activities with objects , toys , materials or games with a shared goal or purpose	物品、おもちゃ、材料、ゲームを使った活動に、他の人と一緒に、共通の目標または目的を持って、持続的にたずさわること	objectの訳については、ICF及びICF-CY全体で様々な訳が使われていますが、文脈から考えると、ここでは「物品」よりも「もの」や「物」くらいが自然ではないでしょうか。物品とおもちゃという並びは自然ではないので、「物、玩具」とするという手もあるかもしれません。	
d8808	Engagement in play, other specified	その他の特定の、遊び		
d8809	Engagement in play, unspecified	詳細不明の、遊び		
d9103	Informal community life	非公式なコミュニティライフ		
	Engaging in communal gatherings with others at playgrounds , parks , street cafes , town squares and other common public spaces	運動場、公園、街かどのカフェ、広場、その他の公共の空間で他の人々とともに公共の集まりに関与すること		
d920	Inclusions: playgames , sports, arts and culture, crafts, hobbies and socializing	含まれるもの: ゲーム、スポーツ、芸術と文化、工芸、趣味、社交。		
	Exclusions: riding animals for transportation (d480); remunerative and non-remunerative work (d850 and d855); engagement in play (d880) ; religion and spirituality (d930); political life and citizenship (d950)	除かれるもの: 交通手段として動物に乗ること(d480)、報酬を伴うあるいは無報酬の仕事(d850・d855)、 遊びにたずさわる(d880) 、宗教とスピリチュアリティ(d930)、政治活動と市民権(d950)。		
d9200	Engaging in games with rules or unstructured or unorganized games and spontaneous recreation, such as playing chess or cards or children's play board games or activities with a set of rules (e.g. hide-and-peek) .	ルールのあるゲーム、構造化や組織化されていないゲーム、自然発生的なレクリエーションへ関与すること。例えば、チェスやトランプをすること。 ボードゲーム や一定のルールをもった活動(例: かくれんぼ)。		
	Exclusion: engagement in play (d880)	除かれるもの: 遊びにたずさわる(d880)		
d9202	Engaging in, or appreciating, fine arts or cultural events, such as going to the theatre, cinema, museum or art gallery, or acting in a play, dancing, being read to or reading for enjoyment, singing in a group or playing a musical instrument.	芸術的あるいは文化的な行事への関与と鑑賞。例えば、演劇、映画、博物館、美術館へ行くこと。 演劇で役を演ずること、ダンス、本を読んでもらったり、読書すること、合唱すること、楽器を演奏すること。		

コード	項目	事務局(仮訳)	構成委員からの再意見(検討を要するもの)	備考
d9203	Engaging in handicrafts, such as pottery or , knitting <u>or working with wood to make toys or other objects.</u>	手工芸(例えば、陶芸や編物)へ関与すること。おもちゃ等を作るために木材を加工すること。		
d9204	Engaging in pastimes, such as collecting stamps, coins or , antiques, <u>stones, shells or pictures.</u>	娯楽(例えば、切手、硬貨、骨董、石、貝殻、絵の収集)に関与すること。		
d940	Enjoying all nationally and internationally recognized rights that are accorded to people by virtue of their humanity alone, such as human rights as recognized by the United Nations Universal Declaration of Human Rights (1948) and the United Nations Standard Rules for the Equalization of Opportunities for Persons with Disabilities (1993); the <u>United Nations Convention on the Rights of the Child (1989); the right to self-determination or autonomy; and the right to control over one's destiny.</u>	国家的かつ国際的に認められ、人間であれば誰もが与えられる権利の享受。例えば、世界人権宣言(1948)や国連・障害者の機会均等化に関する標準規則(1993) <u>国連・児童の権利に関する条約(1989)</u> によって認められた人権、自己決定や自律の権利。自分の運命を管理する権利の享受。		

【環境因子】

e110	Inclusions: food <u>(including breast milk)</u> , drink and drugs	含まれるもの:食品(含:母乳)、飲み物、薬。		
e1100	Any natural or human-made object or substance gathered, processed or manufactured to be eaten, for consumption , such as raw, processed and prepared food and liquids of different consistencies, herbs and minerals (vitamin and other supplements).	消費のために採集されたり、加工されたり、製造されたりした、天然あるいは人工の物体や物質。例えば、さまざまな成分からなる生の食べ物や飲み物。さまざまな成分からなる加工や調理がされた食べ物や飲み物。ハーブやミネラル(ビタミンや他の補助食品)。		
e115	<u>Exclusions: products and technology for personal indoor and outdoor mobility and transportation (e120); products and technology for communication (e125)</u>	除かれるもの:個人的な屋内外の移動と交通のための生産品と用具(e120)、コミュニケーション用の生産品と用具(e125)	このままでもよいのですが、序論のenvironmentの項では、products→製品、technology→機器と訳しています。統一してもよいかと思えます。ただし、「追加項目」のe1152では、technology→用具と訳しています。これも統一してもよいかもしれません。	
e1150	Equipment, products and technologies used by people in <u>their</u> daily activities, such as clothes, textiles, furniture, appliances, cleaning products and tools, not adapted or specially designed, <u>except as appropriate for age, such as utensils for children.</u>	日々の活動において用いる装置、生産品、用具のうち、子供用用具のように、 <u>年齢に適したものにしない以外には</u> 、改造や特別設計はなされていないもの。例えば、衣服や織物。家具や器具。清掃用の製品や道具。		
e1152	Products and technology used for play	遊び用の製品と用具	製品→生産品	
	Equipment, products and technologies used in structured or unstructured play by an individual or group, not adapted or specially designed, except as appropriate for age	一人あるいはグループによるルールのあるまたはない遊びに用いる装置、製品、用具のうち、年齢に適したものにしない以外には改造や特別設計はなされていないもの。	製品→生産品	
	Exclusions: general products and technology for personal use in daily living (e1150); assistive products and technology for personal use in daily living (e1151); products and technology for education (e130); products and technology for culture, recreation and sport (e140)	除かれるもの:日常生活における個人用の一般的な生産品と用具(e1150)、日常生活における個人用の支援的な生産品と用具(福祉用具)(e1151)、教育用の生産品と用具(e130)、文化・レクリエーション・スポーツ用の生産品と用具(e140)		
e11520	General products and technology for play	一般的な遊び用の製品と用具	製品→生産品	
	Objects, material, toys and other products used in play such as blocks, balls, miniature objects, games, puzzles, swings and slides	遊びに用いる物品、素材、おもちゃ、その他の製品。例えば、積み木、ボール、ミニチュア、ゲーム、パズル、ブランコ、すべり台	物品→もの?物? 製品→生産品	

コード	項目	事務局(仮訳)	構成委員からの再意見(検討を要するもの)	備考
e11521	Adapted products and technology for play	遊びやすさを支援するために改造された、製品と用具	製品→生産品	
	Objects , material , toys and other products adapted or specially designed to assist play , such as remote control cars and modified playground equipment	遊びを支援するために改造や特別設計がなされた物品、素材、おもちゃ、その他の製品。例えば、リモートコントロールのミニチュア自動車、改造した公園の遊具	物品→もの？物？ 製品→生産品	
e11528	Products and technology used for play, other specified	その他の特定の、遊び用の生産品と用具		
e11529	Products and technology used for play, unspecified	詳細不明の、遊び用の生産品と用具		
e1200	Equipment, products and technologies used by people in activities of moving inside and outside buildings, such as motorized and non-motorized vehicles used for the transportation of people over ground, water and air (e.g. buses, cars, vans, other motor-powered vehicles and animal-powered transporters), not adapted or specially designed, <u>except as appropriate for age, such as tricycles and prams.</u>	屋内外を移動するために用いる装置、生産品、用具であって、 <u>三輪車やベビーカーのように年齢に適したものにする以外には</u> 、改造や特別設計はなされていないもの。例えば、陸上や水上、空中を移動する際に用いる、動力つきや動力なしの乗り物(例:バス、車、バン、その他の動力のある車両や動物による輸送)。		
e140	<u>Exclusion: products and technology for play (e1152)</u>	除かれるもの:遊び用の生産品と用具(e1152)		
e1450	Products and technology, unique or mass-produced, that are given or take on a symbolic meaning in the context of the practice of religion or spirituality, such as spirit houses, maypoles, headdresses, masks, crucifixes, menorahs and prayer mats, not adapted or specially designed, <u>except as appropriate for age.</u>	宗教やスピリチュアリティ儀式に関連して象徴的意味を与えられたり、もつようになった、独特のあるいは量産された生産品と用具であって、 <u>年齢に適したものにする以外には</u> 、改造や特別設計はなされていないもの。例えば、(タイ土着宗教の)精霊の家、メイポール、かぶり物、仮面、十字架、(ユダヤ教の)燭台、(イスラム教の)礼拝用敷物。		
e1503	Design, construction and building products and technology for physical safety of persons in buildings for public use	公共の建物内での人の身体的安全のための設計・建設用の製品と用具	製品→生産品	
	Indoor and outdoor products and technology for public use to assure safety , such as guardrails for beds and emergency signals	公共の利用のための建物内外の生産品と用具であって、安全を確保するためのもの。例えば、ベッドの安全柵や緊急用標識		
e155	Products and technology that constitute an individual's indoor and outdoor human-made environment that is planned, designed and constructed for private use (<u>e.g. home, dwelling</u>), including those adapted or specially designed.	私的な利用のために計画・設計・建設された、人工的な環境の建物内外を形作る生産品と用具(例:自宅、住居)。改造や特別設計がなされたものを含む。		
e1553	Design, construction and building products and technology for physical safety of persons in buildings for private use	私用の建物内での人の身体的安全のための設計・建設用の製品と用具	製品→生産品	
	Indoor and outdoor products and technology for private use to assure safety , such as guardrails , emergency signals and secure storage of hazardous objects (e.g. weapons) or materials (e.g. solvents , insecticides)	私的な利用のための建物内外の製品と用具であって、安全を確保するための物品。例えば、安全柵、緊急用標識、危険なもの(武器など)や物質(溶剤、殺虫剤など)の安全な貯蔵など	製品→生産品	

コード	項目	事務局(仮訳)	構成委員からの再意見(検討を要するもの)	備考
e165	Products or objects of economic exchange such as money, goods, property and other valuables that an individual owns or of which he or she has rights of use <u>or rights of benefit, such as child support payment or wills for children or dependent persons.</u>	経済的な交換価値のある製品や事物。例えば、金銭、商品、資産、その他の貴重品で、個人が所有するか、使用权をもつか、小児や被扶養者のための扶養料や遺言によるものなどのように受益権をもつもの。	製品→生産品	
e575	Services, systems and policies aimed at providing support to those requiring assistance in areas such as shopping, housework, transport, <u>child care, respite care,</u> self-care and care of others, in order to function more fully in society.	買い物や家事、交通、子供のケア、レスパイトケア(介護者の休息のためのケア)セルフケア、他者のケアなどに援助を必要としている人々が、社会においてより十分に機能できるように、支援を提供することを目的としたサービス、制度、政策。		
e57500	Informal care of child or adult by family and friends	家族や友人による子どもや大人への非公式な世話		
e57501	Family day care provided in home of service provider	サービス提供者の自宅で提供される家族デイケア		
e57502	Child or adult care service centre – profit and non – profit	児童または成人向けのケアサービスセンター(営利または非営利の)		
e57508	General social support services, other specified	その他の特定の、一般的な社会支援サービス		
e57509	General social support services, unspecified	詳細不明の、一般的な社会支援サービス		

コード	項目	事務局(仮訳)	構成委員からの再意見(検討を要するもの)	備考
e5853	Special education and training services	特別な教育と訓練についてのサービス		
	Services and programmes concerned with special education and the acquisition, maintenance and improvement of knowledge, expertise and vocational or artistic skills, such as those provided for different levels of education (e.g. preschool, primary school, secondary school, post-secondary institutions, professional programmes, training and skills programmes, apprenticeships and continuing education), including those who provide these services	特別な教育と、知識や学識、あるいは職業的または芸術的な技能の修得、維持、向上に関わるサービスやプログラム。例えば各種の教育レベル(例:就学前機関、小学校、中学校・高等学校、大学・短期大学、専門職教育プログラム、訓練や技能プログラム、徒弟(見習)教育、生涯学習)で提供されるサービスやプログラム。これらのサービスの提供者を含む。		
e5854	Special education and training systems	特別な教育と訓練についての制度		
	Administrative control and monitoring mechanisms that govern the delivery of special education programmes, such as systems for the implementation of policies and standards that determine eligibility for public or private education and special needs-based programmes; local, regional or national boards of education or other authoritative bodies that govern features of the education systems, including curricula, size of classes, numbers of schools in a region, fees and subsidies, special meal programmes and after-school care services	特別な教育プログラムを提供するための行政的な管理と監視の機構。例えば、公的あるいは私的な教育への、また、特別なニーズに基づいたプログラムへの入学資格を認定するための政策や基準を運用する制度。また、カリキュラム、クラスの規模、地域における学校数、授業料や補助金、特別給食プログラム、放課後のケアサービスを含む教育制度のさまざまな課題を統括するために設置された、地区、地域、国における教育委員会や権限を持つその他の団体		
e5855	Special education and training policies	特別な教育と訓練についての政策		
	Legislation, regulations and standards that govern the delivery of special education programmes, such as policies and standards that determine eligibility for public or private education and special needs-based programmes, and dictate the structure of local, regional or national boards of education or other authoritative bodies that govern features of the education system, including curricula, size of classes, numbers of schools in a region, fees and subsidies, special meal programmes and after-school care services	特別な教育プログラムを提供するための立法や規則、基準。例えば、公立や私立の教育、特別なニーズに基づいた特別支援教育サービスを受けるか否かを決定するための政策や基準や、地区、地域、国における教育委員会やカリキュラムや1クラスあたり的人数、地域における学校数、授業料や補助金、特別な給食のプログラム、放課後支援のサービスを含む教育制度について権限を持ってその他の組織についての指針。		
e590	Exclusion: economic services, systems and policies (e565), general and specialized education services, systems and policies (e585)	除かれるもの: 経済に関するサービス・制度・政策(e565)一般および特別な教育と訓練のサービス・制度・政策(e585)。	(1) special education = 特別な教育(文部科学省担当部局(特別支援教育課)との調整済み) (2) 5853~5855の定義は、5850~5852に対しているため、special education固有の意識をすところ以外は、基本的に表現をそろえるべきかと思えます(5850~5820側の訳し直しも含めて検討すべきでしょうか)。	

**Towards
a
Common Language
for
Functioning, Disability and Health
ICF**



World Health Organization
Geneva
2002

**Towards a
Common Language
for
Functioning, Disability and Health:**

ICF

**The International Classification
of Functioning, Disability and Health**

Introduction	2
ICF and the WHO Family of Classifications	3
The need for ICF	4
How will WHO use ICE	5
How can ICF be used?	6
The Model of ICF	9
Concepts of functioning and disability	10
The qualifiers	11
Underlying principles of ICF	14
The Domains of ICF	15
Conclusion	19
The World-Wide ICF Network	20

INTRODUCTION

The *International Classification of Functioning, Disability and Health*, known more commonly as ICF, provides a standard language and framework for the description of health and health-related states. Like the first version published by the World Health Organization for trial purposes in 1980, ICF is a multi-purpose classification intended for a wide range of uses in different sectors. It is a classification of health and health-related domains -- domains that help us to describe changes in body function and structure, what a person with a health condition can do in a standard environment (their level of capacity), as well as what they actually do in their usual environment (their level of performance). These domains are classified from body, individual and societal perspectives by means of two lists: a list of body functions and structure, and a list of domains of activity and participation. In ICF, the term *functioning* refers to all body functions, activities and participation, while *disability* is similarly an umbrella term for impairments, activity limitations and participation restrictions. ICF also lists environmental factors that interact with all these components.



ICF is WHO's framework for health and disability. It is the conceptual basis for the definition, measurement and policy formulations for health and disability. It is a universal classification of disability *and* health for use in health and health-related sectors. ICF therefore looks like a simple health classification, but it can be used for a number of purposes. The most important is as a planning and policy tool for decision-makers.

ICF is named as it is because of its stress is on health and functioning , rather than on disability. Previously, disability began where health ended; once you were disabled, you where in a separate category. We want to get away from this kind of thinking. We want to make ICF a tool for measuring functioning in society, no matter what the reason for one's impairments. So it becomes a much more versatile tool with a much broader area of use than a traditional classification of health and disability.

This is a radical shift. From emphasizing people's disabilities, we now focus on their level of health.

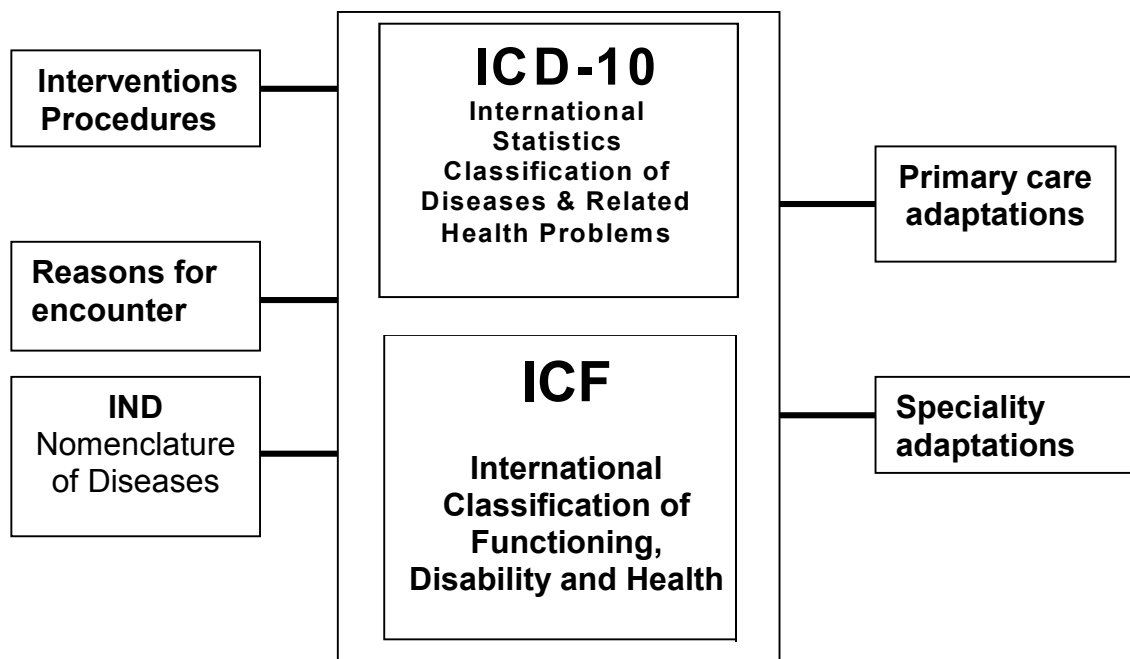
ICF puts the notions of ‘health’ and ‘disability’ in a new light. It acknowledges that every human being can experience a decrement in health and thereby experience some disability. This is not something that happens to only a minority of humanity. ICF thus ‘mainstreams’ the experience of disability and recognises it as a universal human experience. By shifting the focus from cause to impact it places all health conditions on an equal footing allowing them to be compared using a common metric – the ruler of health and disability.

THE WHO FAMILY OF INTERNATIONAL CLASSIFICATIONS

ICF belongs to the WHO family of international classifications, the best known member of which is the ICD-10 (the *International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems*). ICD-10 gives users an etiological framework for the classification, by diagnosis, of diseases, disorders and other health conditions. By contrast, ICF classifies functioning and disability associated with health conditions. The ICD-10 and ICF are therefore complementary, and users are encouraged to use them together to create a broader and more meaningful picture of the experience of health of individuals and populations. Information on mortality (provided by ICD-10) and information about health and health-related outcomes (provided by ICF) can be combined in summary measures of population health.

In short, ICD-10 is mainly used to classify causes of death, but ICF classifies health.

WHO Family of International Classifications



THE NEED FOR ICF

Studies show that diagnosis alone does not predict service needs, length of hospitalization, level of care or functional outcomes. Nor is the presence of a disease or disorder an accurate predictor of receipt of disability benefits, work performance, return to work potential, or likelihood of social integration. This means that if we use a medical classification of diagnoses alone we will not have the information we need for health planning and management purposes. What we lack is data about levels of functioning and disability. ICF makes it possible to collect those vital data in a consistent and internationally comparable manner.

For basic public health purposes, including the determine the overall health of populations, the prevalence and incidence of non-fatal health outcomes, and to measure health care needs and the performance and effectiveness of health care systems, we need reliable and comparable data on the health of individuals and populations. ICF provides the framework and classification system for these purposes.

For some time, there has been a shift in the focus from hospital-based acute care to community-based long-term services for chronic conditions. Social welfare agencies have noticed a marked increased in demand for disability benefits. These trends have underscored the need for reliable and valid disability statistics. ICF provides the basis for identifying kinds and levels of disability which provides the foundations for country-level disability data to inform policy

development.

There is also an increased recognition among social planners and service agencies that reductions in the incidence and severity of disability in a population can be brought about both by enhancing the functional capacity of the person and by improving performance by modifying features of the social and physical environment. To analyze the impact of these different interventions, we need a way of classifying domains of areas of life as well as the environmental factors that improve performance. ICF allows us to record this information.

HOW WILL WHO USE ICF?

WHO must provide tools that our Member States can use to improve their health policies, achieve better health for their population and to ensure that their health systems are as cost effective and fair as possible. We provide tools that are based on the best science and which represent the basic core values on which the Organization bases its work: equity, inclusion and the aim of all to achieve a life where each person can exploit his or her opportunities to the fullest possible degree.

Last year, the 191 Member States of the World Health Organization agreed to adopt ICF as the basis for the scientific standardization of data on health and disability world-wide. ICF directly contributes to WHO's efforts to establish a comprehensive population health measurement framework. We would like to go beyond the old, traditional mortality and morbidity measures by including measures of functional domains of health.

WHO uses a multi-dimensional health measure as the basis for health systems performance assessment. The health goal of a health system is measured on the basis of ICF. In this way, WHO can assist Member States in enhancing the performance of their health systems. With better functioning health systems, health levels across the population are raised and everyone benefits.

The ICF is key example of such a tool. ICF is a scientific tool for consistent, internationally comparable information about the experience of health and disability. As such, it also provides the basis for WHO overall approach to health.

HOW CAN ICF BE USED?

Because of its flexible framework, the detail and completeness of its classifications and the fact that each domain is operationally defined, with inclusions and exclusions, it is expected that ICF, like its predecessor, will be

used for a myriad of uses to answer a wide range of questions involving clinical, research and policy development issues. (For specific examples of the uses of ICF in the area of service provision, and the kinds of practical issues that can be addressed, see the box below.)

ICF Applications Service Provision

At the individual level

- For the assessment of individuals: What is the person's level of functioning?
- For individual treatment planning: What treatments or interventions can maximize functioning?
- For the evaluation of treatment and other interventions: What are the outcomes of the treatment? How useful were the interventions?
- For communication among physicians, nurses, physiotherapists, occupational therapists and other health workers, social service workers and community agencies
- For self-evaluation by consumers: How would I rate my capacity in mobility or communication?

At the institutional level...

- For educational and training purposes
- For resource planning and development: What health care and other services will be needed?
- For quality improvement: How well do we serve our clients? What basic indicators for quality assurance are valid and reliable?
- For management and outcome evaluation: How useful are the services we are providing?
- For managed care models of health care delivery: How cost-effective are the services we provide? How can the service be improved for better outcomes at a lower cost?

At the social level...

- For eligibility criteria for state entitlements such as social security benefits, disability pensions, workers' compensation and insurance: Are the criteria for eligibility for disability benefits evidence based, appropriate to social goals and justifiable?
- For social policy development, including legislative reviews, model legislation, regulations and guidelines, and definitions for anti-discrimination legislation: Will guaranteeing rights improve functioning at the societal level? Can we measure this improvement and adjust our policy and law accordingly?
- For needs assessments: What are the needs of persons with various levels of disability - impairments, activity limitations and participation restrictions?
- For environmental assessment for universal design, implementation of mandated accessibility, identification of environmental facilitators and barriers, and changes to social policy: How can we make the social and built environment more accessible for all persons, those with and those without disabilities? Can we assess and measure improvement?

Among the other kinds of uses for ICF are these:

Policy development...

In both the health sectors and other sectors that need to take into account the functional status of people, such as social security, employment, education and transportation, there is an important role that ICF can play. It goes without saying that policy development in these sectors requires valid and reliable population data on functional status. Legislative and regulatory definitions of disability need to be consistent and grounded in a single coherent model of the disability creation process. Whether it is devising eligibility criteria for disability pensions, developing regulations for access to assistive technology, or mandating housing or transportation policy that accommodates individuals with mobility, sensory or intellectual disability, ICF can provide the framework for comprehensive and coherent disability-related social policy.

Economic analyses...

Most applications of ICF lend themselves to economic analyses. Determining whether resources are effectively used in health care and other social services requires a consistent and standard classification of health and health-related outcomes that can be costed and compared internationally. We need information on the disability burden of various diseases and health conditions. To ensure that society can effectively prevent limitations on activities and restrictions on participation, it needs to cost the economic impact of functional limitations as compared to the costs of modifying the built and social environment. ICF makes both of these tasks possible.

Research uses...

Generally, ICF assists in scientific research by providing a framework or structure for interdisciplinary research in disability and for making results of research comparable. Traditionally, scientists have measured the outcomes of health conditions by relying on mortality data. More recently, the international concern about health care outcomes has shifted to the assessment of functioning at the level of the whole human being, in day-to-day life. The need here is for universally applicable classification and assessment tools, both for activity levels and overall levels of participation, in basic areas and roles of social life. This is what ICF provides and makes possible.

Intervention studies...

Of particular interest in research are intervention studies that compare the outcomes of interventions on similar populations. ICF can facilitate this kind of research by clearly distinguishing interventions – and coding outcomes – in light of the aspect of disability that the intervention addresses. Body level or impairment interventions are primarily medical or rehabilitative, and attempt to prevent or ameliorate limitations in person or societal level functioning by correcting or modifying intrinsic functions or structures of the body. Other rehabilitative treatment strategies and interventions are designed to increase capacity levels. Interventions that focus on the actual performance context of an individual may address either capacity-improvement or else seek environmental modification, either by eliminating environmental barriers or creating environmental facilitators for expanded performance of actions and tasks in daily living.

Uses of Environment Factors...

One of the major innovations in ICF is the presence of an environmental factor classification that makes it possible for the identification of environmental barriers and facilitators for both capacity and performance of actions and tasks in daily living. With this classification scheme, which can be used either on an individual basis or for population wide data collection, it may be possible to create instruments that assess environments in terms of their level of facilitation or barrier-creation for different kinds and levels of disability. With this information in hand, it will then be more practical to develop and implement guidelines for universal design and other environmental regulations that extend the functioning levels of persons with disabilities across the range of life activities.

THE MODEL OF ICF

Two major conceptual models of disability have been proposed. The *medical model* views disability as a feature of the person, directly caused by disease, trauma or other health condition, which requires medical care provided in the form of individual treatment by professionals. Disability, on this model, calls for medical or other treatment or intervention, to 'correct' the problem with the individual.

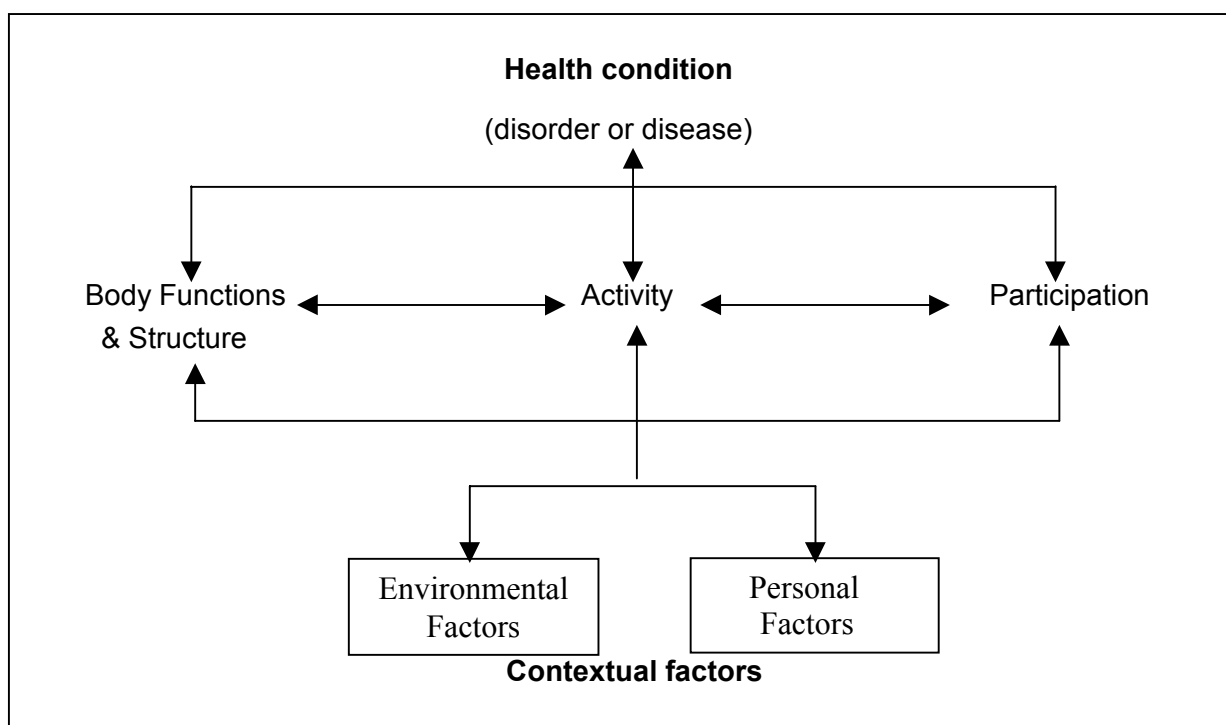
The *social model* of disability, on the other hand, sees disability as a socially-created problem and not at all an attribute of an individual. On the social model, disability demands a political response, since the problem is created by an unaccommodating physical environment brought about by attitudes and other features of the social environment.

On their own, neither model is adequate, although both are partially valid. Disability is a complex phenomena that is both a problem at the level of a person's body, and a complex and primarily social phenomena. Disability is always an interaction between features of the person and features of the overall context in which the person lives, but some aspects of disability are almost entirely internal to the person, while another aspect is almost entirely external. In other words, both medical and social responses are appropriate to the problems associated with disability; we cannot wholly reject either kind of intervention.

A better model of disability, in short, is one that synthesizes what is true in the medical and social models, without making the mistake each makes in reducing the whole, complex notion of disability to one of its aspects.

This more useful model of disability might be called the *biopsychosocial model*. ICF is based on this model, an integration of medical and social. ICF provides, by this synthesis, a coherent view of different perspectives of health: biological, individual and social.

The following diagram is one representation of the model of disability that is the basis for ICF



Concepts of functioning and disability

As the diagram indicates, in ICF disability and functioning are viewed as outcomes of interactions between *health conditions* (diseases, disorders and injuries) and *contextual factors*.

Among contextual factors are external *environmental factors* (for example, social attitudes, architectural characteristics, legal and social structures, as well as climate, terrain and so forth); and internal *personal factors*, which include gender, age, coping styles, social background, education, profession, past and current experience, overall behaviour pattern, character and other factors that influence how disability is experienced by the individual.

The diagram identifies the three levels of human functioning classified by ICF: functioning at the level of body or body part, the whole person, and the whole person in a social context. Disability therefore involves dysfunctioning at one or more of these same levels: impairments, activity limitations and participation restrictions. The formal definitions of these components of ICF are provided in the box below.

Body Functions are physiological functions of body systems (including psychological functions).

Body Structures are anatomical parts of the body such as organs, limbs and their components.

Impairments are problems in body function or structure such as a significant deviation or loss.

Activity is the execution of a task or action by an individual.

Participation is involvement in a life situation.

Activity Limitations are difficulties an individual may have in executing activities.

Participation Restrictions are problems an individual may experience in involvement in life situations.

Environmental Factors make up the physical, social and attitudinal environment in which people live and conduct their lives..

The Qualifiers

The list of domains in ICF becomes a classification when qualifiers are used. Qualifiers record the presence and severity of a problem in functioning at the body, person and societal levels.

For the classifications of body function and structure, the primary qualifier indicates the presence of an impairment and, on a five point scale, the degree of the impairment of function or structure (no impairment, mild, moderate, severe and complete).

In the case of the Activity and Participation list of domains, two important qualifiers are provided. Together, these qualifiers enable the user to code essential information about disability and health.

The *Performance qualifier* describes what an individual does in his or her current environment. Since the current environment always includes the overall societal context, performance can also be understood as "involvement in a life situation" or "the lived experience" of people in their actual context. (The 'current environment' will be understood to include assistive devices or personal assistance, whenever the individual actually uses them to perform actions or tasks.)

The *Capacity qualifier* describes an individual's ability to execute a task or an action. This construct indicates the highest probable level of functioning of a person in a given domain at a given moment.

When a person has a capacity problem associated with a health condition, therefore, that incapacity is a part of their state of health. To assess the full ability of the individual, one would need to have a "*standardized environment*" to neutralize the varying impact of different environments on the ability of the individual. In practice, there are many possible environments that we could use for this purpose.

That is, a standardized environment might be: (a) an actual environment commonly used for capacity assessment in test settings; or (b) an assumed environment thought to have an uniform impact; or (c) an environment with precisely defined parameters based on extensive scientific research. Whatever it is in practice, this environment can be called 'uniform' or 'standard' environment. The capacity construct therefore reflects the environmentally-adjusted ability of the individual in a specified domain. The Capacity qualifier assumes a 'naked person' assessment, that is, the person's capacity without personal assistance or

the use of assistive devices. For assessment purposes, this environmental adjustment has to be the same for all persons in all countries to allow for international comparisons. For precision and international comparability, features of the uniform or standard environment can be coded using the Environmental Factors classification.

For a disability and health classification it is important that users be able to express these domains by means both of a performance and a capacity construct, even if, in particular cases for special uses only one of the two constructs are employed. ICF provides a single list of Activities and Participation which users can, for their needs and purposes, employ either by

A) designating some domains as Activities and others as Participation and *not allowing overlap*;

B) making this designation but *allowing overlap* in particular cases;

C) designating *detailed* (third- or fourth-level) categories within a domain as Activities and *broad* (second-level) categories in the domain as Participation;

D) *designating all domains* as potentially both Activity and Participation, and employing the qualifiers to distinguish the information that is required and collected.

(The approach described in D) is WHO's default approach and ICF country data submitted to WHO will be assumed to reflect this approach.)

Having access to both performance and capacity data enables ICF user to determine the 'gap' between capacity and performance. If capacity is less than performance, then the person's current environment has enabled him or her to perform better than what data about capacity would predict: the environment has facilitated performance. On the other hand, if capacity is greater than performance, then some aspect of the environment is a barrier to performance.

The distinction between environmental 'barriers' and 'facilitators', as well as the extent to which an environmental factor acts in one way or another, is captured by the qualifier for coding Environmental Factors.

Finally, an additional qualifier is available to supplement this information. Both the Capacity and Performance qualifiers can further be used with and without assistive devices or personal assistance. While neither devices nor personal assistance alter the impairments, they may remove limitations on functioning in

specific domains. This type of coding is particularly useful to identify how much the functioning of the individual would be limited without the assistive devices. The constructs and the operation of the qualifiers is set out in the next chart:

Construct	First qualifier	Second qualifier
Body Functions (b)	<p>Generic qualifier with the negative scale used to indicate the extent or magnitude of an impairment</p> <p><i>Example: b175.3 to indicate a severe impairment in specific mental functions of language</i></p>	None
Body Structure (s)	<p>Generic qualifier with the negative scale used to indicate the extent or magnitude of an impairment</p> <p><i>Example: s730.3 to indicate a severe impairment of the upper extremity</i></p>	<p>Used to indicate the nature of the change in the respective body structure</p> <p>0 no change in structure 1 total absence 2 partial absence 3 additional part 4 aberrant dimensions 5 discontinuity 6 deviating position 7 qualitative changes in structure, including accumulation of fluid 8 not specified 9 not applicable</p> <p><i>Example: s7300.32 to indicate the partial absence of the upper extremity</i></p>
Activity & Participation (d)	<p>PERFORMANCE</p> <p>Generic qualifier</p> <p><u>Problem in the person's current environment</u></p> <p><i>Example: a5101.1_ to indicate mild difficulty with bathing the whole body with the use of assistive devices that are available to the person in his or her current environment</i></p>	<p>CAPACITY</p> <p>Generic qualifier</p> <p><u>Limitation without assistance</u></p> <p><i>Example: a5101._2 to indicate moderate difficulty with bathing the whole body and implies that there is moderate difficulty without the use of assistive devices or personal help</i></p>
Environmental Factors (e)	<p>Generic qualifier, with negative and positive scale to denote extent of barriers and facilitators respectively</p> <p><i>Example: e145.2 to indicate that products for education are a moderate barrier. Conversely, e145+2 would indicate that products for education are a moderate facilitator</i></p>	None

Underlying principles of ICF

There are general principles that underlay the conception of ICF as a health classification of functioning and disability, and are closely linked to the biopsychosocial model of disability. These principles are essential components of

the model of ICF and guided the revision process.

UNIVERSALITY

A classification of functioning and disability should be applicable to all people irrespective of health condition. Therefore, ICF is about all people. It concerns everyone's functioning. Thus, it should not become a tool for labeling persons with disabilities as a separate group.

PARITY

There should not be, explicitly or implicitly, a distinction between different health conditions as 'mental' and 'physical' that affect the structure of content of a classification of functioning and disability. In other words, disability must not be differentiated by etiology.

NEUTRALITY

Wherever possible, domain names should be worded in neutral language so that the classification can express both positive and negative aspects of each aspect of functioning and disability.

ENVIRONMENTAL FACTORS

In order to complete the social model of disability, ICF includes Contextual Factors, in which environmental factors are listed. These factors range from physical factors such as climate and terrain, to social attitudes, institutions, and laws. Interaction with environmental factors is an essential aspect of the scientific understanding of the phenomena included under the umbrella terms 'functioning and disability'.

THE DOMAINS OF ICF

The domains of ICF are arranged in a hierarchy (Chapter, second, third and fourth level domains), which is reflected in the coding:

Level	Example	Coding
Chapter	Chapter 2: Sensory Functions and Pain	b2
Second level	Seeing Functions	b210
Third level	Quality of vision	b2102
Fourth level	Colour vision	b21021

The follow chart sets out the complete list of chapters in the ICF:

Body	
<p>Function:</p> <p>Mental Functions Sensory Functions and Pain Voice and Speech Functions Functions of the Cardiovascular, Haematological, Immunological and Respiratory Systems Functions of the Digestive, Metabolic, Endocrine Systems Genitourinary and Reproductive Functions Neuromusculoskeletal and Movement-Related Functions Functions of the Skin and Related Structures</p>	<p>Structure:</p> <p>Structure of the Nervous System The Eye, Ear and Related Structures Structures Involved in Voice and Speech Structure of the Cardiovascular, Immunological and Respiratory Systems Structures Related to the Digestive, Metabolic and Endocrine Systems Structure Related to Genitourinary and Reproductive Systems Structure Related to Movement Skin and Related Structures</p>
Activities and Participation	
<p>Learning and Applying Knowledge General Tasks and Demands Communication Mobility Self Care Domestic Life Interpersonal Interactions and Relationships Major Life Areas Community, Social and Civic Life</p>	
Environmental Factors	
<p>Products and Technology Natural Environment and Human-Made Changes to Environment Support and Relationships Attitudes Services, Systems and Policies</p>	

The following chart gives some possible examples of disabilities that may be associated with the three levels of functioning linked to a health condition.

HEALTH CONDITION	IMPAIRMENT	ACTIVITY LIMITATION	PARTICIPATION RESTRICTION
Leprosy	Loss of sensation of extremities	Difficulties in grasping objects	Stigma of leprosy leads to unemployment
Panic Disorder	Anxiety	Not capable of going out alone	People's reactions leads to no social relationships
Spinal Injury	Paralysis	Incapable of using public transportation	Lack of accommodations in public transportation leads to no participation in religious activities
Juvenile diabetes	Pancreatic dysfunction	None (impairment controlled by medication)	Does not go to school because of stereotypes about disease
Vitiligo	Facial disfigurement	None	No participation in social relations owing to fears of contagion
Person who formally had a mental health problem and was treated for a psychotic disorder	None	None	Denied employment because of employer's prejudice

The next chart indicates how the different levels of disability are linked to three different levels of intervention.

	Intervention	Prevention
HEALTH CONDITION	Medical treatment/care Medication	Health promotion Nutrition Immunization
IMPAIRMENT	Medical treatment/care Medication Surgery	Prevention of the development of further activity limitations
ACTIVITY LIMITATION	Assistive devices Personal assistance Rehabilitation therapy	Preventive rehabilitation Prevention of the development of participation restrictions
PARTICIPATION RESTRICTION	Accommodations Public education Anti-discrimination law Universal design	Environmental change Employment strategies Accessible services Universal design Lobbying for change

CONCLUSION

ICF offers an international, scientific tool for the paradigm shift from the purely medical model to an integrated biopsychosocial model of human functioning and disability. It is a valuable tool in research into disability, in all its dimensions -- impairments at the body and body part level, person level activity limitations, and societal level restrictions of participation. ICF also provides the conceptual model and classification required for instruments to assess the social and built environment.

ICF will be an essential basis for the standardization of data concerning all aspects of human functioning and disability around the world.

ICF will be used by persons with disabilities and professionals alike to evaluate health care settings that deal with chronic illness and disability, such as rehabilitation centres, nursing homes, psychiatric institutions, and community services.

ICF will be useful for persons with all forms of disabilities, not only for identifying their health care and rehabilitative needs, but also in identifying and measuring the effect of the physical and social environment on the disadvantages that they experience in their lives.

From the viewpoint of health economics, ICF will help monitor and explain health care and other disability costs. Measuring functioning and disabilities will make it possible to quantify the productivity loss and its impact on the lives of the people in each society. The classification will also be of great use in the evaluation of intervention programmes.

In some of the developed countries, ICF and its model of disability have been introduced into legislation and social policy, across sectors. It is expected that ICF will become the world standard for disability data and social policy modeling and will be introduced in the legislation of many more countries around the globe.

In sum, ICF is WHO's framework for health and disability. It is the conceptual basis for the definition, measurement and policy formulations for health and disability. It is a universal classification of disability *and* health for use in health and health-related sectors.

THE WORLD-WIDE ICF NETWORK

For further information about ICF, and its application to regions or countries, contact the following organizations, agencies, and NGOs who form part of ICF collaborating network.

Collaborating Centers:

Australia: Australian Institute of Health and Welfare, GPO Box 570, Canberra ACT 2601, Australia
Contact: Ros Madden.

Canada: Canadian Institute for Health Information, 377 Dalhousie Street, Suite 200, Ottawa Ontario K1N9N8, Canada
Contact: Janice Miller.

France: Centre technique national d'Etudes et de Recherches sur les Handicaps et les Inadaptations (CTNERHI), 236 bis, rue de Tolbiac, 75013 Paris, France
Contact: Catherine Barral.

Japan: Japan College of Social Work, 3-1-30 Takeoka, Kiyosehi, Tokyo 204, Japan
Contact: Hisao Sato.

The Netherlands: Center for Standardization of Informatics in Health Care (CSIZ), Dribergseweg 3, 3708 JA Zeist, The Netherlands, Contacts: Willem Hirs and Marijke W. de Kleijn de Vrankrijker.

Nordic countries: Department of Public Health and Caring Sciences, Uppsala Science Park, SE Uppsala Sweden
Contact: Björn Smedby.

United Kingdom: NHS Information Authority, Coding and Classification, Woodgate, Loughborough, Leics LE11 2TG, United Kingdom. Contact: Ann Harding, Jane Millar

USA: National Center for Health Statistics, Room 850, 6525 Belcrest Road, Hyattsville MD 20782, USA
Contact: Paul Placek.

Networks:

La Red de Habla Hispana en Discapacidades (The Spanish Network). Co-ordinator: Jose Luis Vazquez-Barquero, Unidad de Investigacion en Psiquiatria Clinical y Social Hospital Universitario "Marques de Valdecilla", Avda. Valdecilla s/n, Santander 39008 Spain.

The Council of Europe Committee of Experts for the Application of ICIDH, Council of Europe, F-67075, Strasbourg, France. Contact: Lauri Sivonen.

Participating Non Governmental Organizations:

Disabled Peoples International, 11 Belgrave Road, London SW1V 1RB, United Kingdom. Contact: Rachel Hurst.

European Disability Forum, Square Ambiorix, 32 Bte 2/A, B-1000, Bruxelles, Belgium. Contact: Frank Mulcahy.

European Regional Council for the World Federation of Mental Health (ERCWFM), Blvd Clovis N.7, 1000 Brussels, Belgium. Contact: John Henderson.

Inclusion International, 13D Chemin de Levant, F-01210, Ferney-Voltaire, France. Contact: Nancy Breitenbach

Rehabilitation International, 25 E. 21st Street, New York, NY 10010, USA. Contact: Judith Hollenweger, Chairman RI Education Commission, Institute of Special Education, University of Zurich, Hirschengraben 48, 8001 Zurich, Switzerland.

For further information contact:

Dr. T.B. Üstün
World Health Organization
Coordinator, Classification, Assessment, Surveys and Terminology
20 Avenue Appia
CH-1211 Geneva 27
Switzerland
Tel: 41 22 791.36.09
Fax: 41 22 791.48.85
E-mail: ustunb@who.int

Tap the potential of the ICF home page

<http://www.who.int/classification/icf>

- Read the introduction to the ICF
- Download the ICF Introduction in PDF format for printing.
- Download the order form for ICF Publications
- Consult the training materials and Beginner's Guide
- Keep up with the latest developments in the ICF
- Register yourself for receiving news or information via e-mail.